

人権に関する意識調査

報告書



令和2年6月

羽生市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の概要	2
3	調査項目	2
4	回収結果	3
5	回答者の基本属性	3
6	報告書の見方（留意点）	5
7	その他	5
II	調査結果の分析	6
1	人権全般に対する意識	7
2	女性の人権に対する意識	29
3	子どもの人権に対する意識	41
4	高齢者の人権に対する意識	48
5	障がいのある人の人権に対する意識	56
6	同和問題（部落差別）に対する意識	66
7	外国人の人権に対する意識	97

8	H I V感染者・ハンセン病患者等の人権に対する意識・	107
9	インターネットによる人権侵害に対する意識・	114
10	災害時における人権への配慮に対する意識・	121
11	L G B Tなど性的少数者の人権に対する意識・	129
12	人権問題についての意見・	141

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、第6次羽生市総合振興計画において「全ての人々が個人として尊重され、差別されず、一人ひとりの多様性を認め合いながら、共に支え合って生きがいのある人生を送ることができるよう、人権が確立・擁護された差別のない明るい社会を実現します」を基本理念とし、各種の人権施策に取り組んでおります。人権の尊重される社会の実現には、市民一人ひとりの人権意識を醸成することが基本となります。

こうした視点から、本市における人権に関する市民意識の現状を把握し、今後の人権施策の推進に必要な基礎資料として活用するため、本調査を実施しました。

2 調査の概要

(1) 調査対象 市内に在住する満18歳以上の男女

※階層は、18歳～29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上とする。

(2) 標本数 1,000人

(3) 抽出方法 住民基本台帳からの層化無作為抽出
(令和元年10月1日現在)

※階層ごとの標本数及び男女の割合については均等とする。

(4) 調査方法 郵送による調査票配布、無記名回答

(5) 調査期間 令和元年11月5日(火)～11月20日(水)

3 調査項目

(1) 属性(性別、年代)

(2) 人権全般に対する意識について

(3) 女性の人権について

(4) 子どもの人権について

(5) 高齢者の人権について

(6) 障がいのある人の人権について

(7) 同和問題(部落差別)について

(8) 外国人の人権について

(9) HIV感染者・ハンセン病患者等の人権について

(10) インターネットによる人権侵害について

(11) 災害時における人権への配慮

(12) LGBTなど性的少数者の人権について

(13) 人権問題についての意見

I 調査の概要

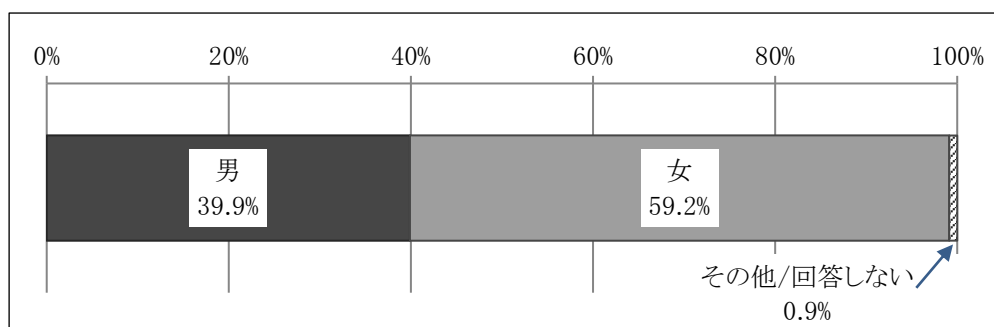
4 回収結果

- (1) 調査票配布人数 1,000人
- (2) 回答者数 341人
- (3) 回答率 34.1%

5 回答者の基本属性

【性別】

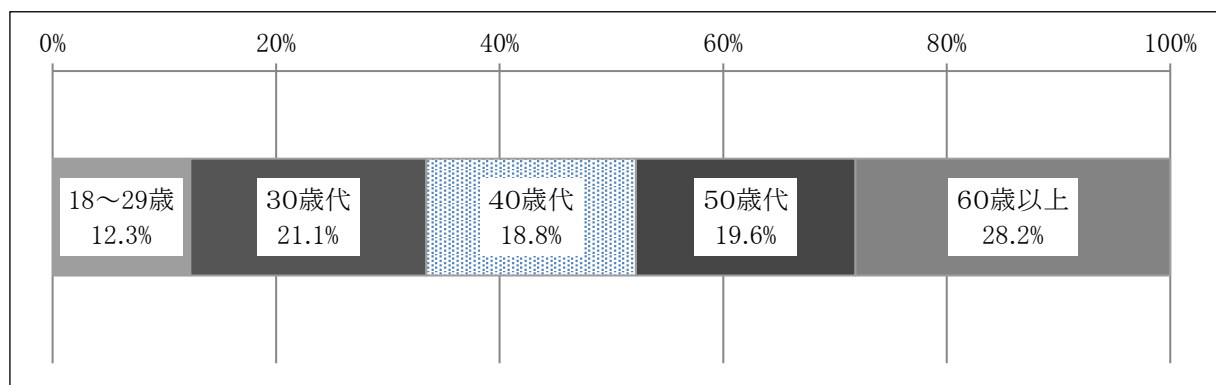
区 分	回答数	構成比
男	136	39.9%
女	202	59.2%
その他/回答しない	3	0.9%
無回答	0	0.0%
計	341	100.0%



【年代別】

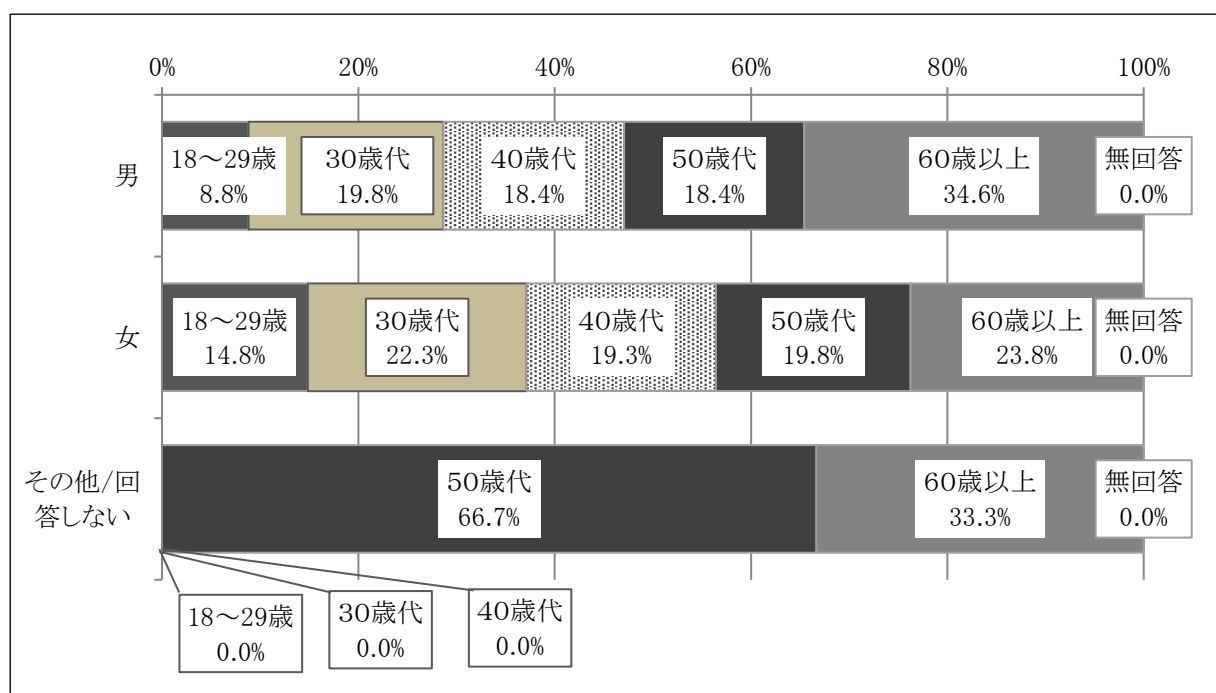
区 分	総計	
	回答数	構成比
18～29歳	42	12.3%
30歳代	72	21.1%
40歳代	64	18.8%
50歳代	67	19.6%
60歳以上	96	28.2%
無回答	0	0.0%
計	341	100.0%

I 調査の概要



【性別・年代別】

区 分	総計		男		女		その他/ 回答しない	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
18~29歳	42	12.3%	12	8.8%	30	14.8%	0	0.0%
30歳代	72	21.1%	27	19.8%	45	22.3%	0	0.0%
40歳代	64	18.8%	25	18.4%	39	19.3%	0	0.0%
50歳代	67	19.6%	25	18.4%	40	19.8%	2	66.7%
60歳以上	96	28.2%	47	34.6%	48	23.8%	1	33.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	341	100.0%	136	100.0%	202	100.0%	3	100.0%



6 報告書の見方（留意点）

（1）調査結果の分析区分について

調査結果は、次の区分により分析しています。

【全体】 特定の区分を分けずに回答者全員341人を対象に分析しています。

【性別】 回答者を性別で分類し、男性136人、女性202人、その他/回答しない3人（合計341人）を対象に属性ごとに分けて傾向を分析しています。

【年代別】 回答者を年代で分類し、18～29歳42人、30歳代72人、40歳代64人、50歳代67人、60歳以上96人（合計341人）を対象に年代ごとに分けて傾向を分析しています。

（2）回答割合の算出方法について

・「○は一つ」としている設問については、**【全体】【性別】【年代別】**ごとの回答者数を分母とし、それぞれの選択肢を選んだ人数の割合を算出しています。

・「該当するものすべてに○」など、一人の回答者が複数の項目を選択する設問については、その設問の回答者数を分母とし、それぞれの選択肢の回答数の割合を算出しています。

（3）端数について

割合を求めたときの端数については、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、割合の合計が100%にならない場合があります。

7 その他

設問中の「その他」及び「その他/回答しない」（回答者数3人）については、紙面の都合等により結果分析をしておりませんが、今後の人権問題に対する取り組みの参考といたします。

Ⅱ 調査結果の分析

1 人権全般に対する意識

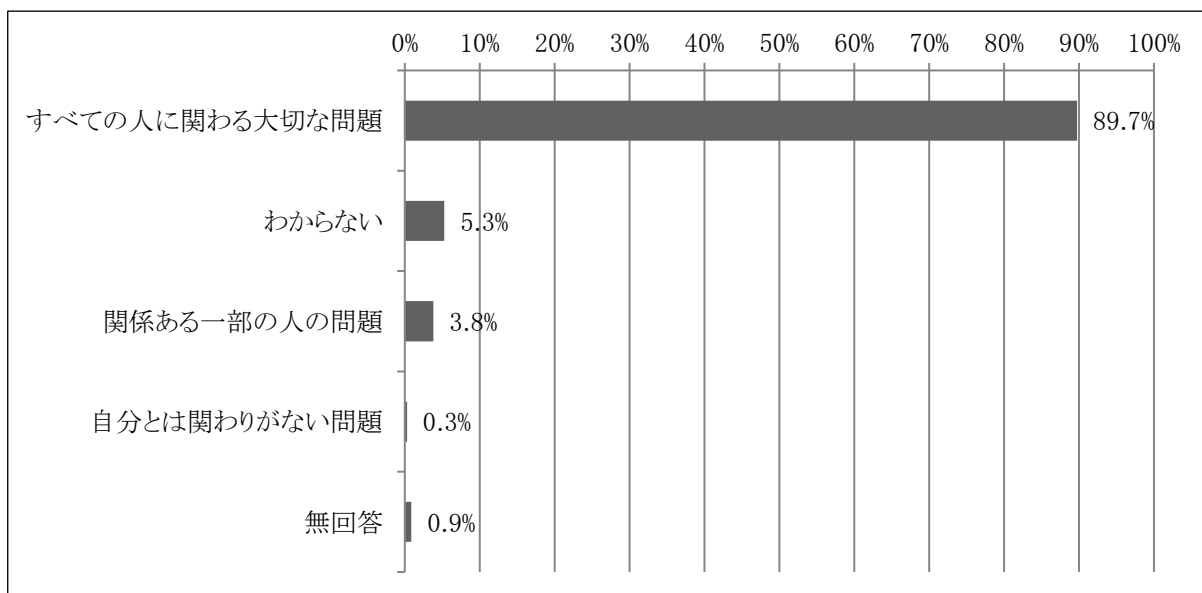
問1 あなたは、人権について、どのように考えていますか。(○は1つ)

【全体】

「すべての人に関わる大切な問題」と答えた人が89.7%と、最も高くなっている。

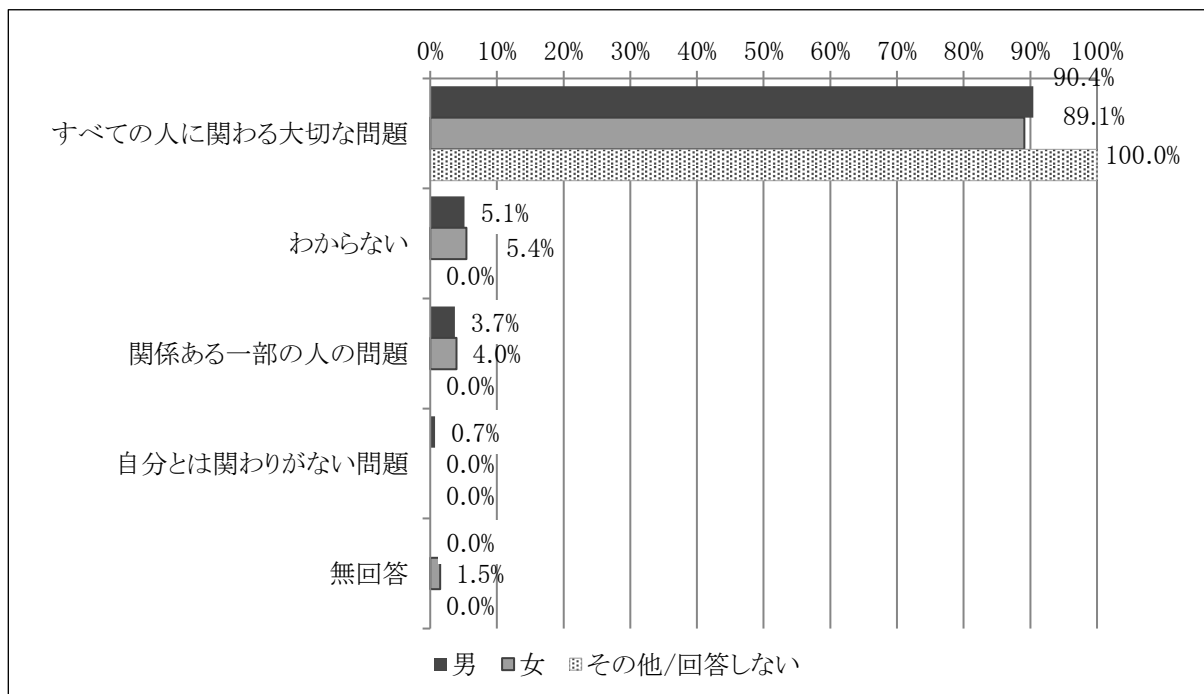
区 分	回答数	構成比
すべての人に関わる大切な問題	306	89.7%
関係ある一部の人の問題	13	3.8%
自分とは関わりがない問題	1	0.3%
わからない	18	5.3%
無回答	3	0.9%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「すべての人に関わる大切な問題」が90%前後と、最も高くなっている。



【年代別】

各年代において「すべての人に関わる大切な問題」が90%前後と、最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
すべての人に関わる大切な問題	92.9%	90.3%	92.2%	86.6%	88.5%
わからない	2.4%	4.2%	4.7%	7.5%	6.3%
関係ある一部の人の問題	4.8%	4.2%	1.6%	4.5%	4.2%
自分とは関わりがない問題	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	1.6%	1.5%	1.0%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

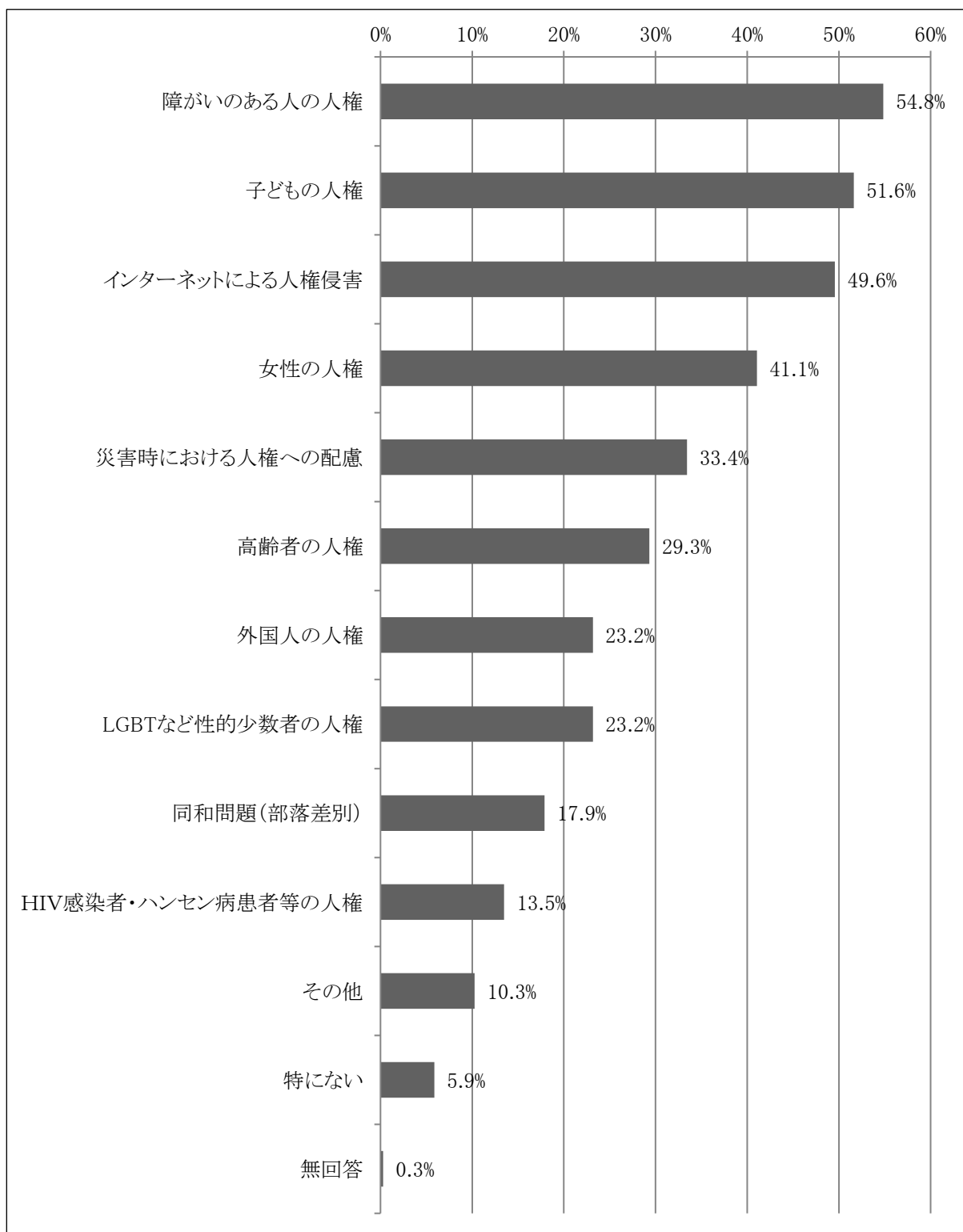
問2 いまの日本の社会には様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「障がいのある人の人権」が54.8%と最も高く、次いで「子どもの人権」が51.6%、「インターネットによる人権侵害」が49.6%と続いている。

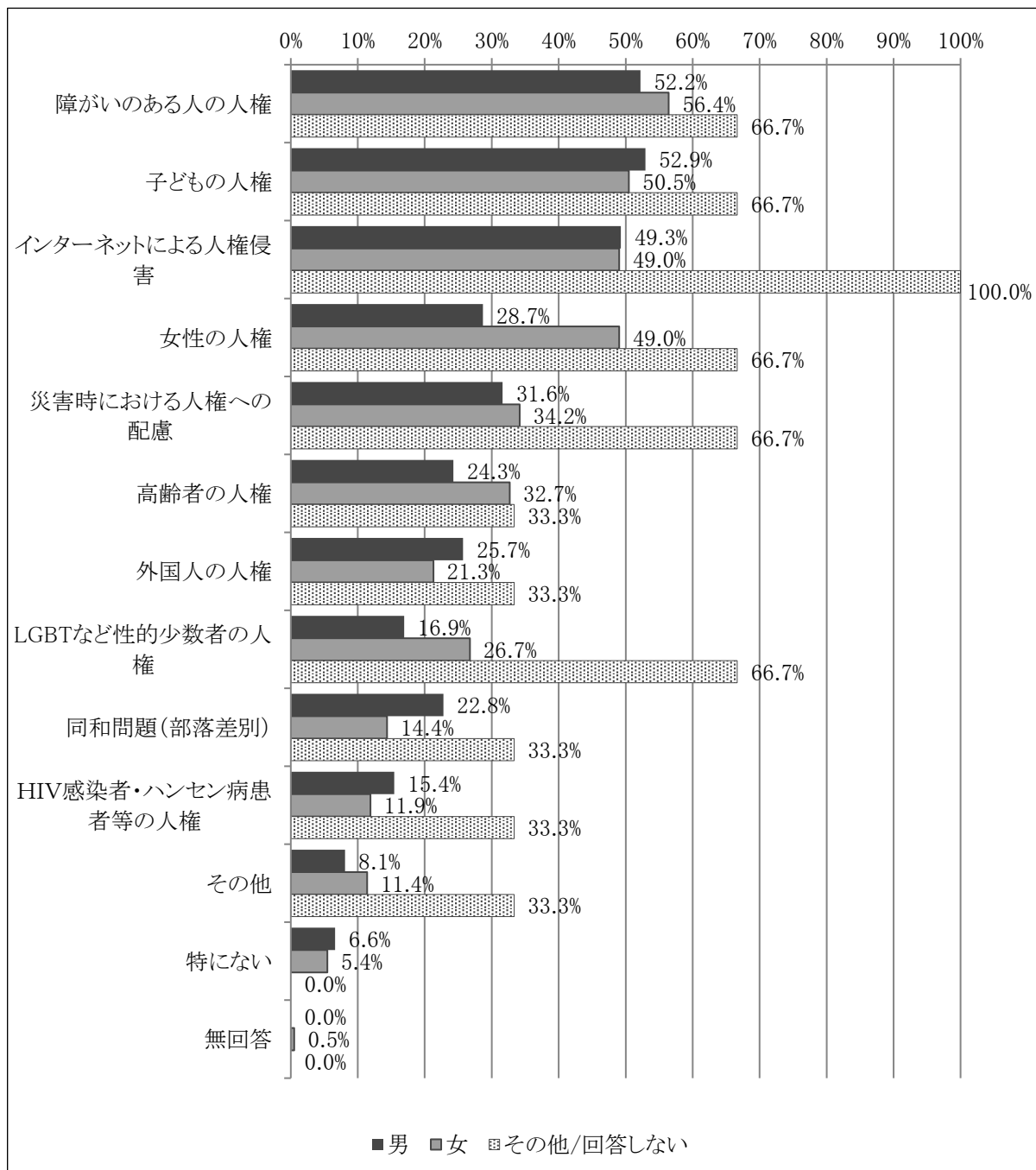
区 分	回答数	構成比
女性の人権	140	41.1%
子どもの人権	176	51.6%
高齢者の人権	100	29.3%
障がいのある人の人権	187	54.8%
同和問題（部落差別）	61	17.9%
外国人の人権	79	23.2%
H I V感染者・ハンセン病患者等の人権	46	13.5%
インターネットによる人権侵害	169	49.6%
災害時における人権への配慮	114	33.4%
LGBT など性的少数者の人権	79	23.2%
その他	35	10.3%
特にない	20	5.9%
無回答	1	0.3%
計	1,207	

（回答者数 341 人）



【性別】

男性では、「子どもの人権」が52.9%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権」52.2%、「インターネットによる人権侵害」が49.3%と続いている。女性では、「障がいのある人の人権」が56.4%と最も高く、次いで「子どもの人権」50.5%、「インターネットによる人権侵害」、「女性の人権」が49.0%と続いている。



【年代別】

18～29歳、50歳代は「インターネットによる人権侵害」、30歳代と60歳以上は「障がいのある人の人権」、40歳代は「子どもの人権」が最も高くなっている。18～29歳では、「HIV感染者・ハンセン病患者等の人権」が0ポイントとなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
障がいのある人の人権	47.6%	58.3%	60.9%	50.7%	54.2%
子どもの人権	42.9%	56.9%	65.6%	35.8%	53.1%
インターネットによる人権侵害	54.8%	54.2%	53.1%	55.2%	37.5%
女性の人権	47.6%	43.1%	39.1%	37.3%	40.6%
災害時における人権への配慮	16.7%	23.6%	34.4%	40.3%	42.7%
高齢者の人権	4.8%	19.4%	26.6%	23.9%	53.1%
外国人の人権	26.2%	20.8%	20.3%	20.9%	27.1%
LGBT など性的少数者の人権	42.9%	31.9%	17.2%	16.4%	16.7%
同和問題（部落差別）	2.4%	11.1%	20.3%	17.9%	28.1%
HIV感染者・ハンセン病患者等の人権	0.0%	6.9%	15.6%	10.4%	25.0%
その他	7.1%	8.3%	7.8%	7.5%	16.7%
特にない	4.8%	2.8%	3.1%	9.0%	8.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

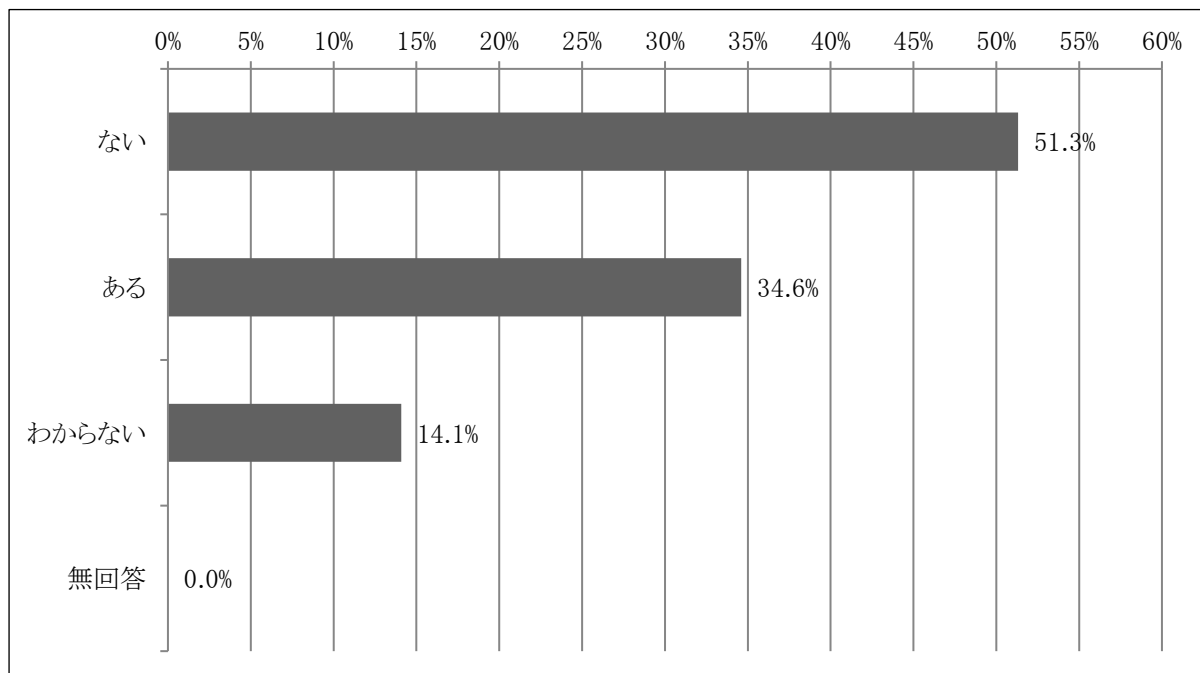
問3 あなたは、日常生活の中で、あなた自身、またはあなたの身近な人（家族・友人など）の人権が侵害されたと感じたことがありますか（○は1つ）

【全体】

人権が侵害されたと感じたことが「ある」は34.6%、「ない」は51.3%となっている。

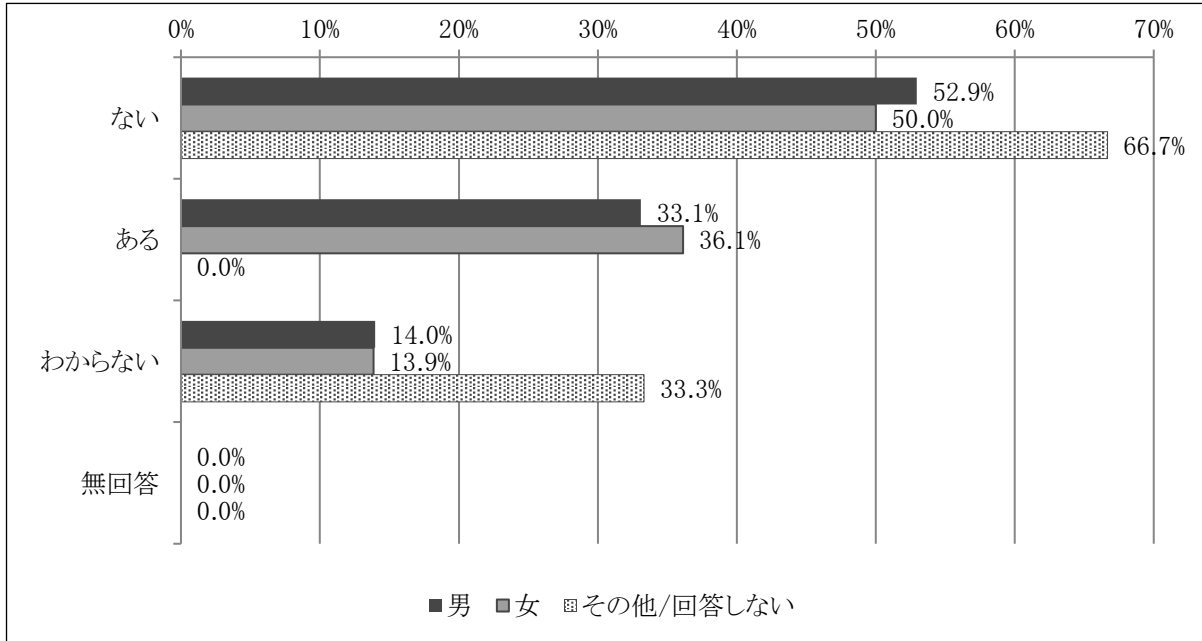
区 分	回答数	構成比
ある	118	34.6%
ない	175	51.3%
わからない	48	14.1%
無回答	0	0.0%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

人権が侵害されたと感じたことが「ない」は、男女ともに50%を超えている。



【年代別】

40歳代を除く各年代において、人権が侵害されたと感じたことが「ない」が最も高くなっている。40歳代では、人権が侵害されたと感じたことが「ある」は「ない」と比べ、12.5ポイント高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
ない	59.5%	59.7%	35.9%	46.3%	55.2%
ある	28.6%	30.6%	48.4%	35.8%	30.2%
わからない	11.9%	9.7%	15.6%	17.9%	14.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

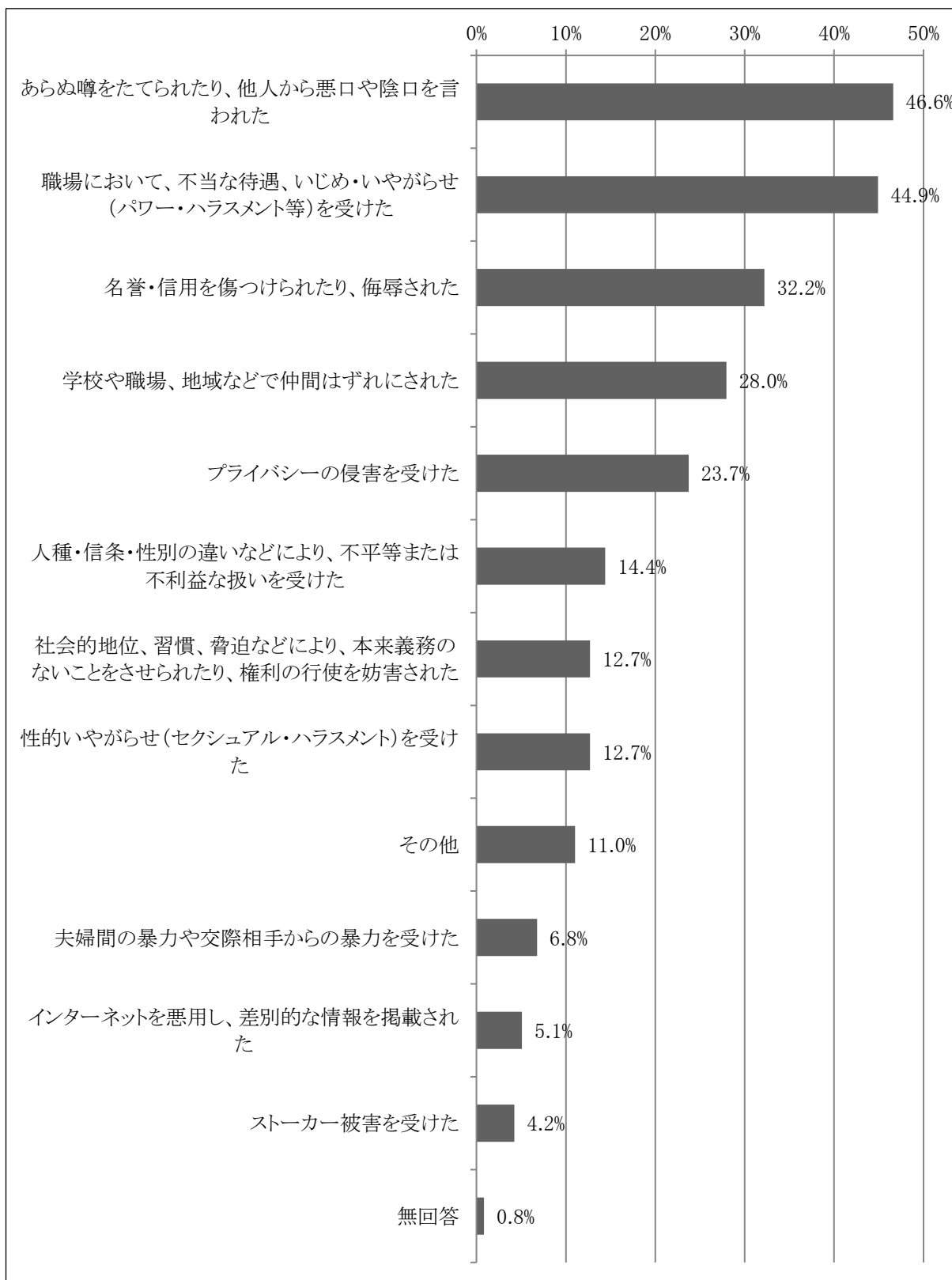
(問3で「人権が侵害されたと感じたことがある」と回答した人に対して)
問3-1 それはどのような内容ですか。(該当するものすべてに○)

【全体】

「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が46.6%と最も高く、次いで「職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ(パワー・ハラスメント等)を受けた」が44.9%と続いている。

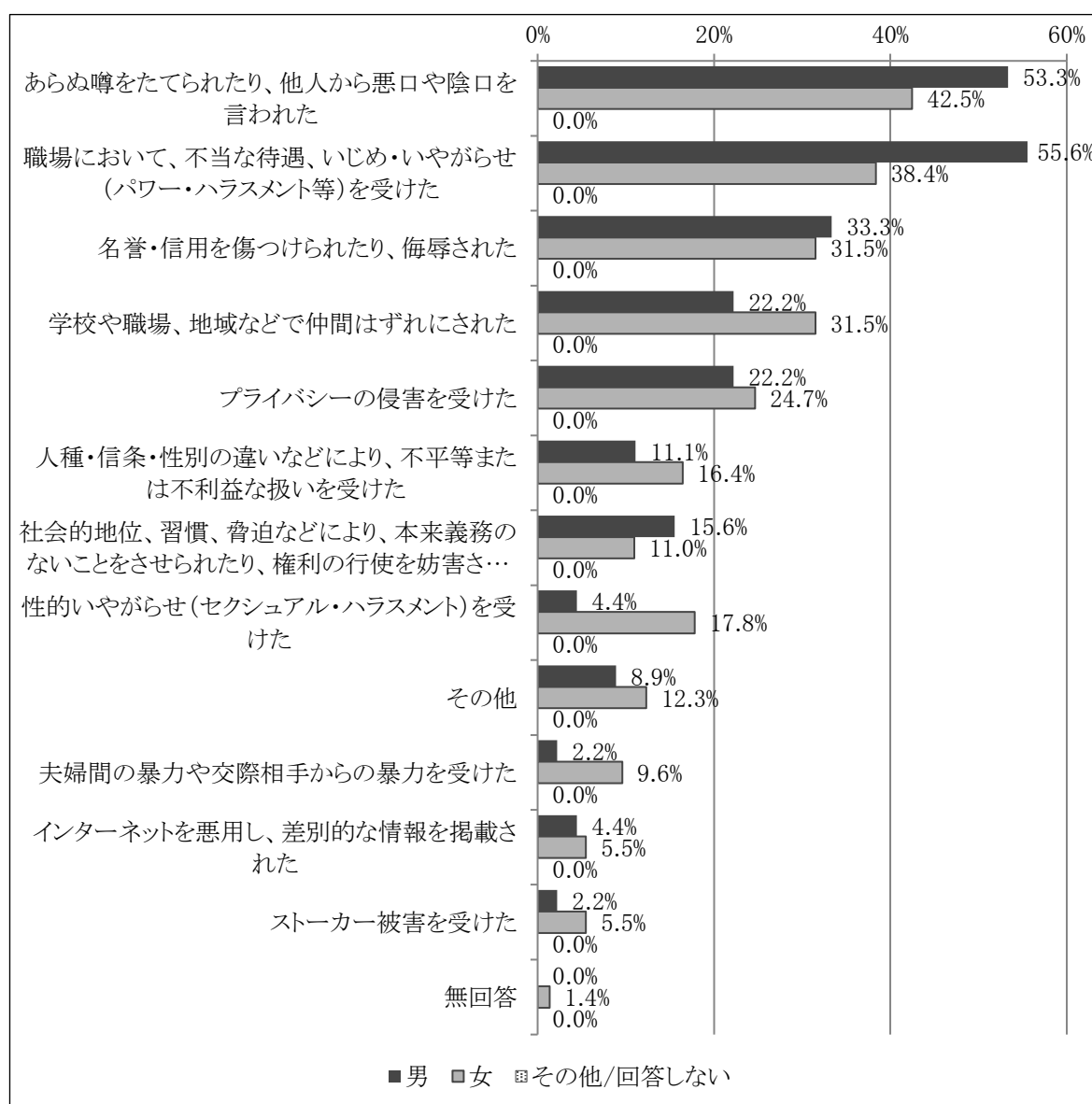
区 分	回答数	構成比
あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた	55	46.6%
名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	38	32.2%
社会的地位、習慣、脅迫などにより、本来義務のないことをさせられたり、権利の行使を妨害された	15	12.7%
職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ(パワー・ハラスメント等)を受けた	53	44.9%
人種・信条・性別の違いなどにより、不平等または不利益な扱いを受けた	17	14.4%
プライバシーの侵害を受けた	28	23.7%
インターネットを悪用し、差別的な情報を掲載された	6	5.1%
性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた	15	12.7%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力を受けた	8	6.8%
ストーカー被害を受けた	5	4.2%
学校や職場、地域などで仲間はずれにされた	33	28.0%
その他	13	11.0%
無回答	1	0.8%
計	287	

(回答者数 118 人)



【性別】

男性は「職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が55.6%と最も高く、次いで「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が53.3%と続いている。女性は、「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が42.5%と最も高く、次いで「職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が38.4%と続いている。



【年代別】

18～29歳、60歳以上は「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」、30歳代、40歳代、50歳代は「職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた	66.7%	50.0%	48.4%	33.3%	44.8%
職場において、不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた	25.0%	54.5%	54.8%	41.7%	37.9%
名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	16.7%	27.3%	48.4%	16.7%	37.9%
学校や職場、地域などで仲間はずれにされた	25.0%	27.3%	38.7%	25.0%	20.7%
プライバシーの侵害を受けた	25.0%	18.2%	29.0%	16.7%	27.6%
人種・信条・性別の違いなどにより、不平等または不利益な扱いを受けた	16.7%	18.2%	12.9%	16.7%	10.3%
社会的地位、習慣、脅迫などにより、本来義務のないことをさせられたり、権利の行使を妨害された	16.7%	9.1%	12.9%	8.3%	17.2%
性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	8.3%	27.3%	12.9%	8.3%	6.9%
その他	8.3%	9.1%	12.9%	12.5%	10.3%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力を受けた	8.3%	13.6%	3.2%	0.0%	10.3%
インターネットを悪用し、差別的な情報を掲載された	0.0%	0.0%	9.7%	4.2%	6.9%
ストーカー被害を受けた	0.0%	4.5%	6.5%	4.2%	3.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%
回答者数（人）	12	22	31	24	29

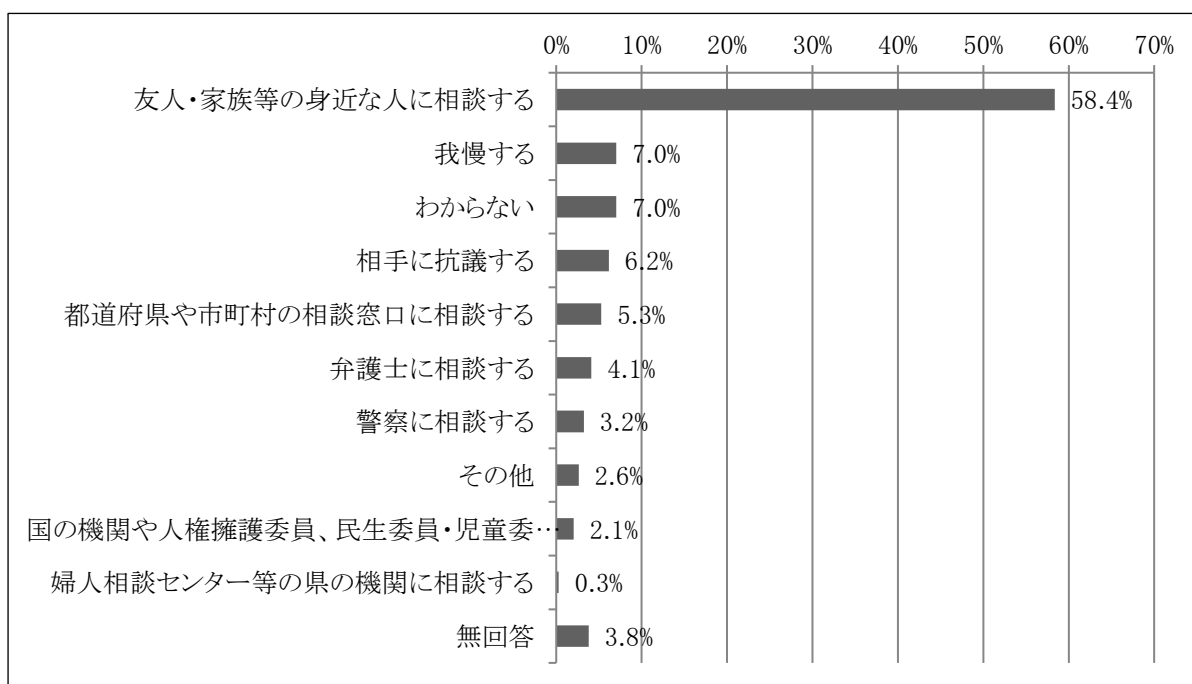
問4 もし、あなたが、ご自身の人権を侵害されたと感じた場合、まず、どのような対応をしますか。(〇は1つ)

【全体】

「友人・家族等の身近な人に相談する」が58.4%と最も高く、次いで「我慢する」、「わからない」が7.0%と続いている。

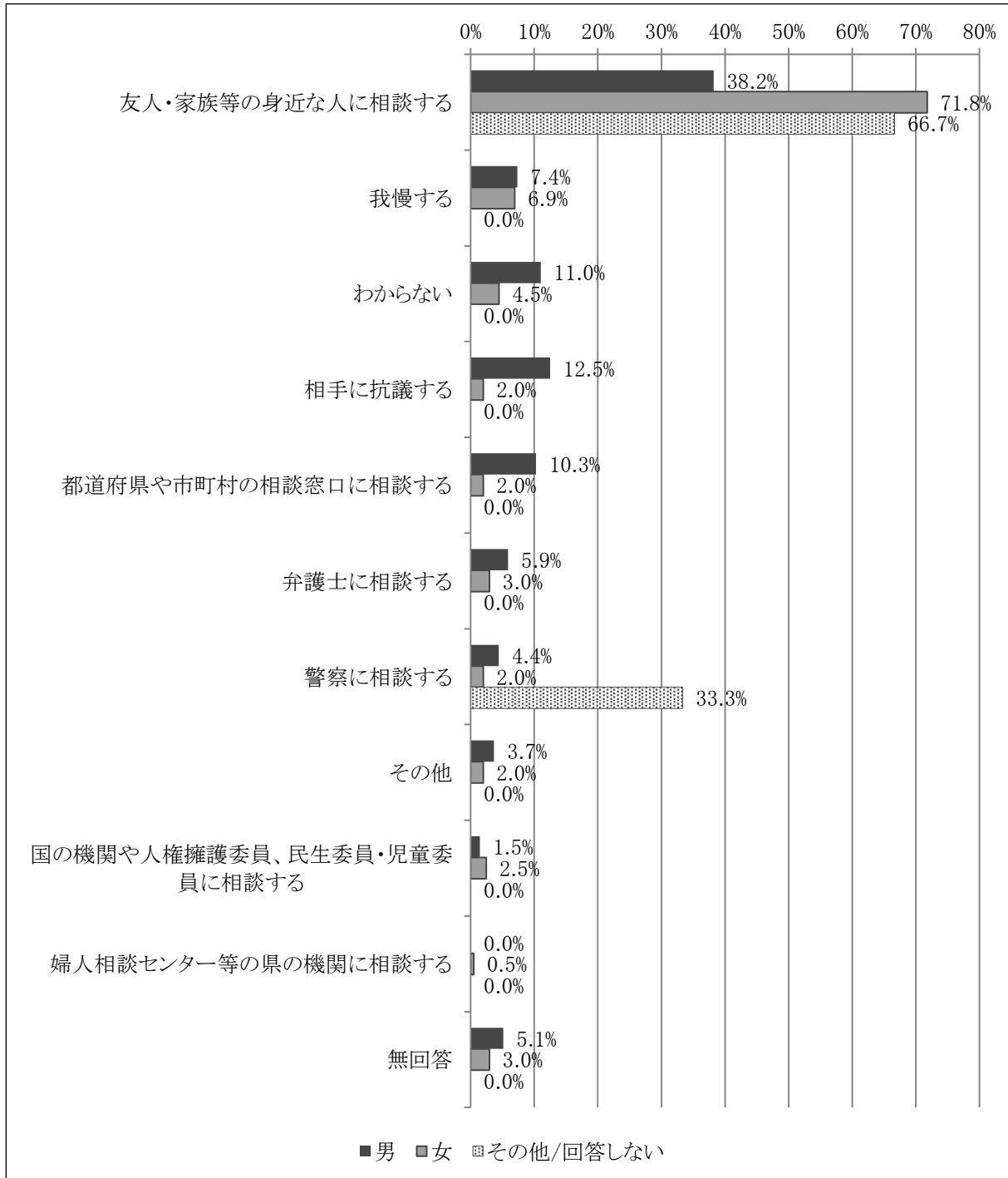
区 分	回答数	構成比
友人・家族等の身近な人に相談する	199	58.4%
弁護士に相談する	14	4.1%
国の機関や人権擁護委員、民生委員・児童委員に相談する	7	2.1%
婦人相談センター等の県の機関に相談する	1	0.3%
都道府県や市町村の相談窓口相談する	18	5.3%
警察に相談する	11	3.2%
相手に抗議する	21	6.2%
我慢する	24	7.0%
その他	9	2.6%
わからない	24	7.0%
無回答	13	3.8%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「友人・家族等の身近な人に相談する」が最も高く、女性は男性に比べ、33.6ポイント高くなっている。男性は、「相手に抗議する」、「都道府県や市町村の相談窓口」等の他の項目に分散している。



【年代別】

各年代において、「友人・家族等の身近な人に相談する」が最も高く、特に18～29歳と60歳以上の差は、39.0ポイントとなっている。一方、その18～29歳では「都道府県や市町村の相談窓口相談する」、「弁護士に相談する」、「国の機関や人権擁護委員、民生委員・児童委員に相談する」、「婦人相談センター等の県の機関に相談する」が0%となっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
友人・家族等の身近な人に相談する	78.6%	61.1%	64.1%	64.2%	39.6%
我慢する	4.8%	6.9%	6.3%	7.5%	8.3%
わからない	2.4%	9.7%	4.7%	7.5%	8.3%
相手に抗議する	4.8%	6.9%	7.8%	1.5%	8.3%
都道府県や市町村の相談窓口相談する	0.0%	1.4%	3.1%	3.0%	13.5%
弁護士に相談する	0.0%	4.2%	6.3%	4.5%	4.2%
警察に相談する	2.4%	0.0%	3.1%	6.0%	4.2%
その他	4.8%	1.4%	3.1%	3.0%	2.1%
国の機関や人権擁護委員、民生委員・児童委員に相談する	0.0%	1.4%	1.6%	0.0%	5.2%
婦人相談センター等の県の機関に相談する	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.4%	5.6%	0.0%	3.0%	6.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

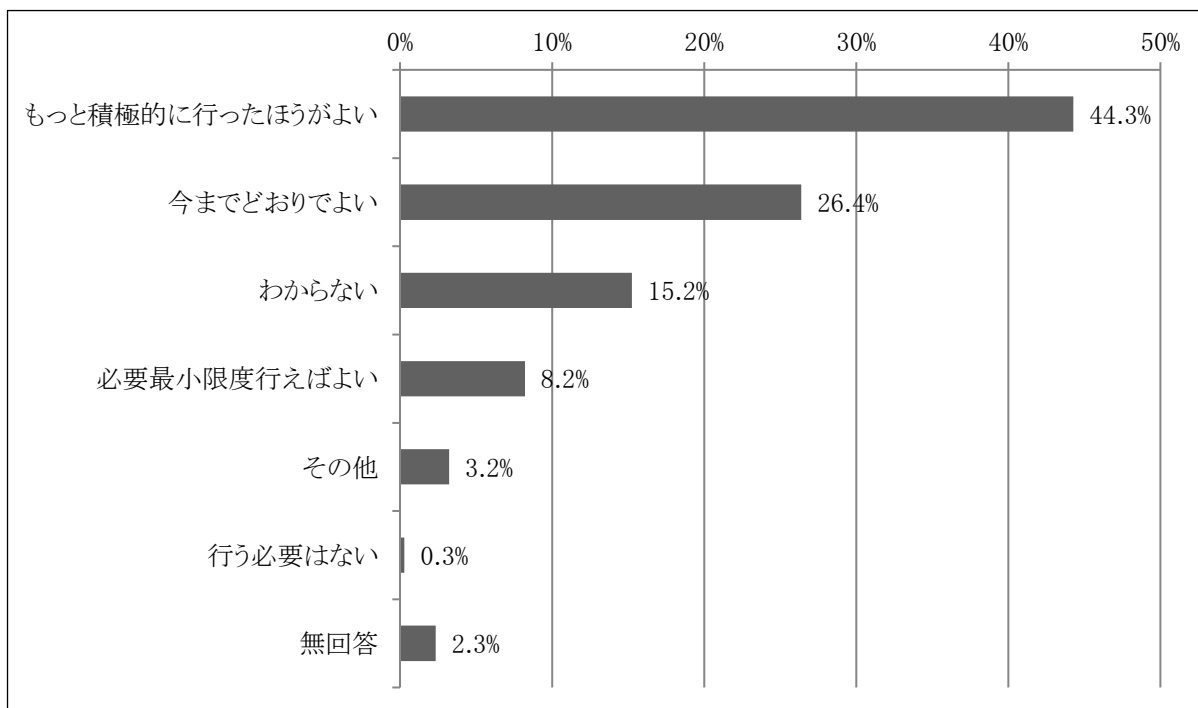
問5 あなたは、市や町において、人権教育・啓発をどのように進めたらよいと思いますか。（〇は1つ）

【全体】

「もっと積極的に行ったほうがよい」が44.3%と最も高く、次いで「今までどおりでよい」が26.4%と続いている。

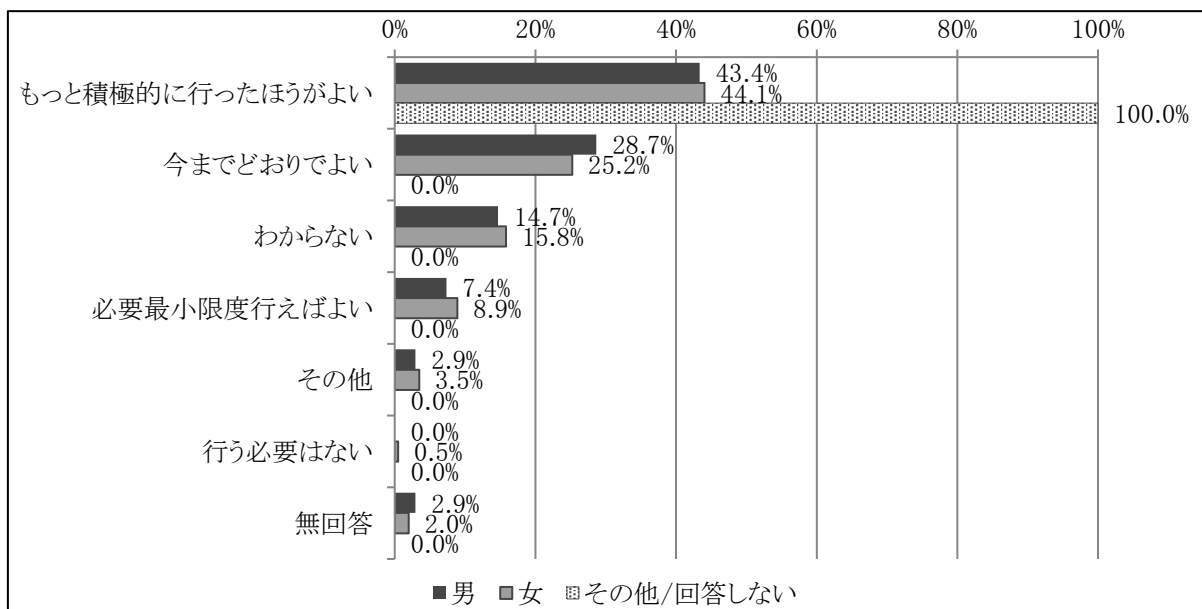
区 分	回答数	構成比
もっと積極的に行ったほうがよい	151	44.3%
今までどおりでよい	90	26.4%
必要最小限度行えばよい	28	8.2%
行う必要はない	1	0.3%
その他	11	3.2%
わからない	52	15.2%
無回答	8	2.3%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「もっと積極的に行ったほうがよい」が最も高く、次いで「今までどおりでよい」と続いている。



【年代別】

60歳以上を除く各年代においては「もっと積極的に行ったほうがよい」が最も高く、次いで「今までどおりでよい」と続いている。60歳以上では「今までどおりでよい」が31.3%と最も高く、次の「もっと積極的に行ったほうがよい」との差は、僅か1.1ポイントとなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
もっと積極的に行ったほうがよい	50.0%	48.6%	56.3%	44.8%	30.2%
今までどおりでよい	19.0%	18.1%	29.7%	29.9%	31.3%
わからない	16.7%	15.3%	9.4%	14.9%	18.8%
必要最小限度行えばよい	9.5%	11.1%	0.0%	3.0%	14.6%
その他	4.8%	2.8%	3.1%	3.0%	3.1%
行う必要はない	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	4.2%	0.0%	4.5%	2.1%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

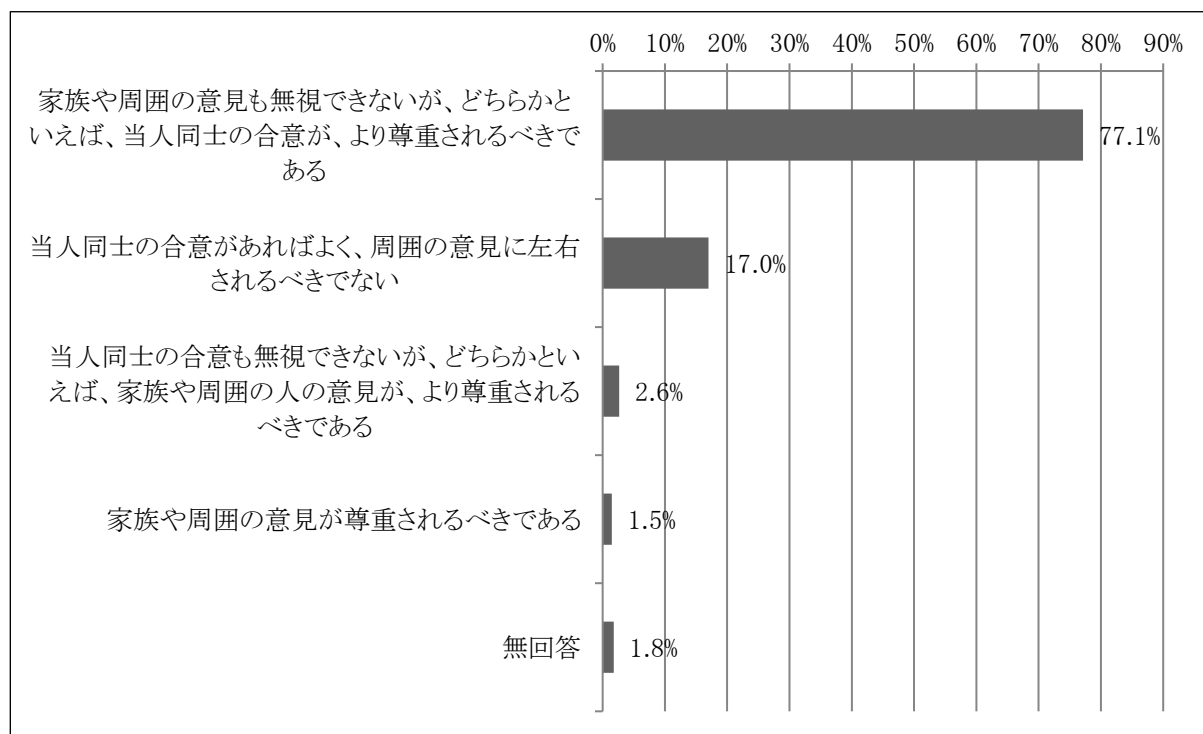
問6 あなたは、結婚についてどのように考えますか。(〇は1つ)

【全体】

「家族や周囲の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである」が77.1%と最も高く、次いで「当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきでない」が17.0%と続いている。

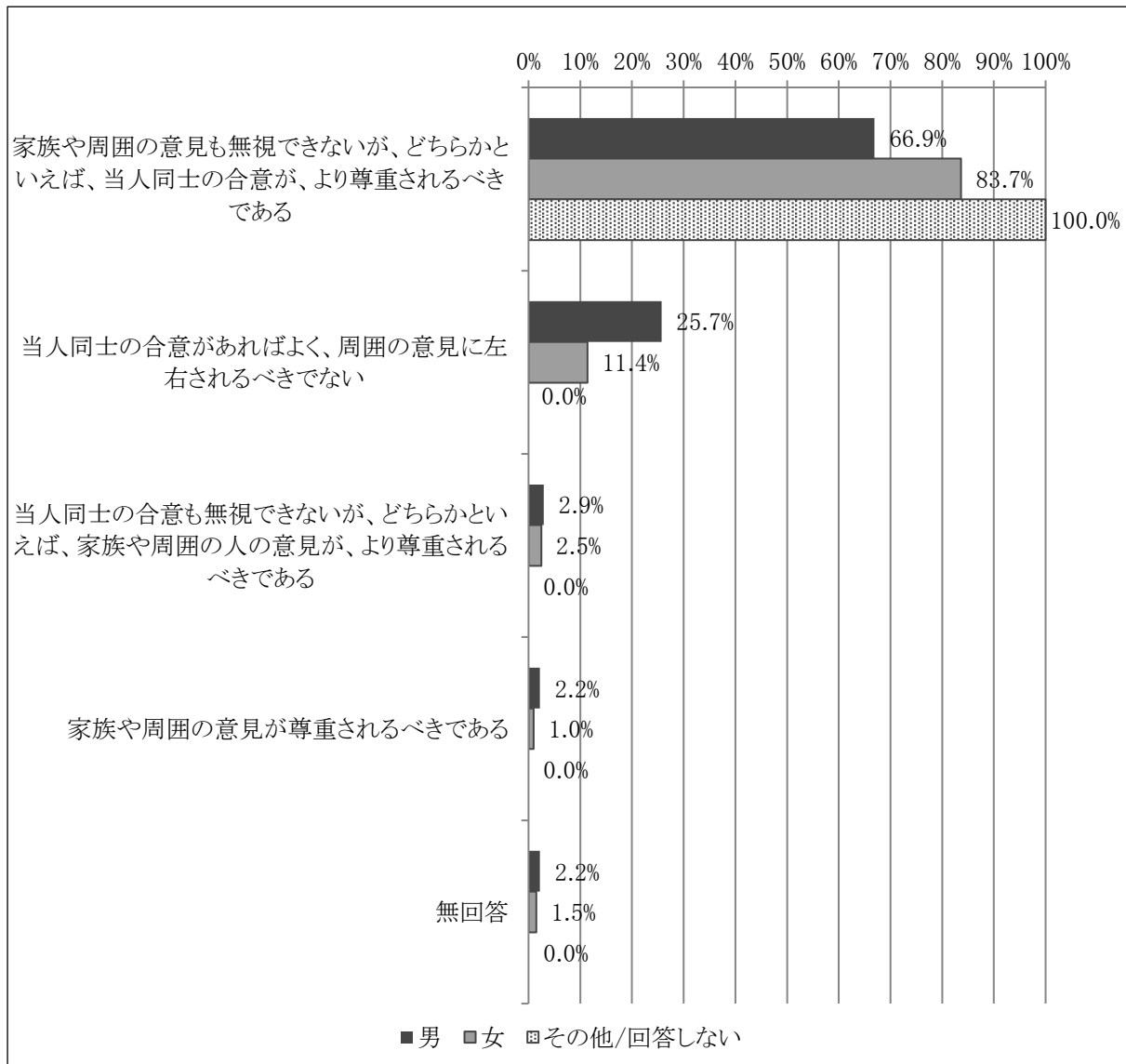
区 分	回答数	構成比
当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきでない	58	17.0%
家族や周囲の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである	263	77.1%
当人同士の合意も無視できないが、どちらかといえば、家族や周囲の人の意見が、より尊重されるべきである	9	2.6%
家族や周囲の意見が尊重されるべきである	5	1.5%
無回答	6	1.8%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「家族や周囲の意見も無視できないが、どちらかといえば、本人同士の合意が、より尊重されるべきである」が最も高く、女性は男性に比べ、16.8ポイント高くなっている。次いで「本人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきではない」と続いているが、こちらは、男性は女性に比べ、14.3ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「家族や周囲の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである」が最も高く、次いで「当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきでない」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
家族や周囲の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである	78.6%	70.8%	87.5%	79.1%	72.9%
当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきでない	21.4%	22.2%	12.5%	16.4%	14.6%
当人同士の合意も無視できないが、どちらかといえば、家族や周囲の人の意見が、より尊重されるべきである	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	7.3%
家族や周囲の意見が尊重されるべきである	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	3.1%
無回答	0.0%	4.2%	0.0%	1.5%	2.1%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

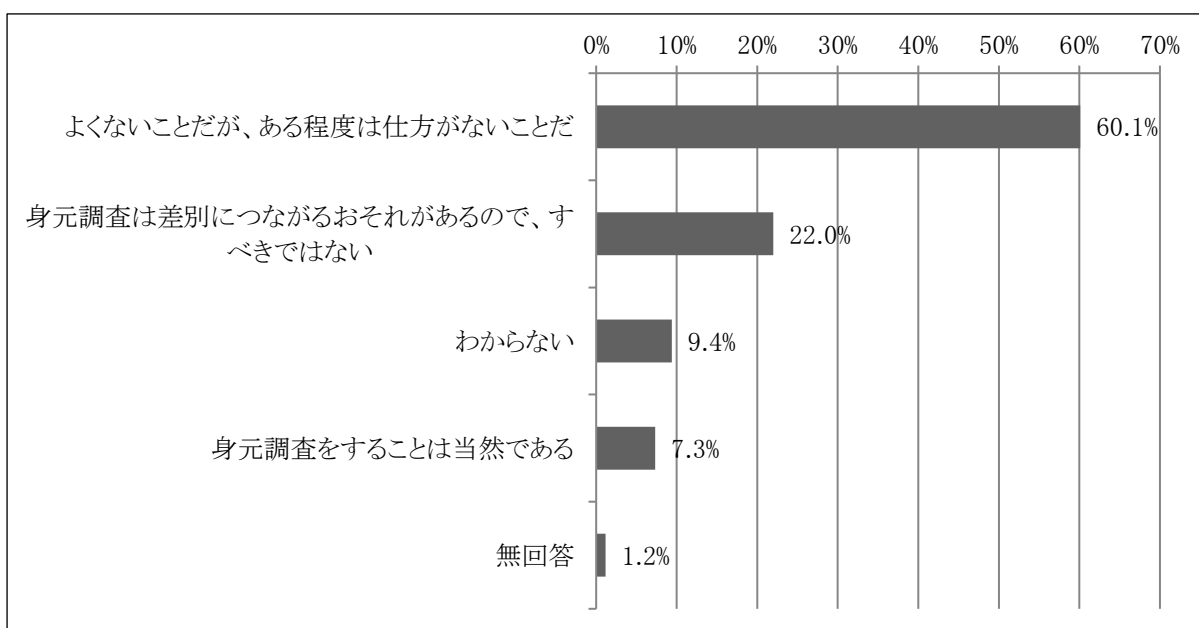
問7 あなたは、結婚や就職の際に、身元調査をすることをどう思いますか。
(○は1つ)

【全体】

「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が60.1%と最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」が22.0%と続いている。

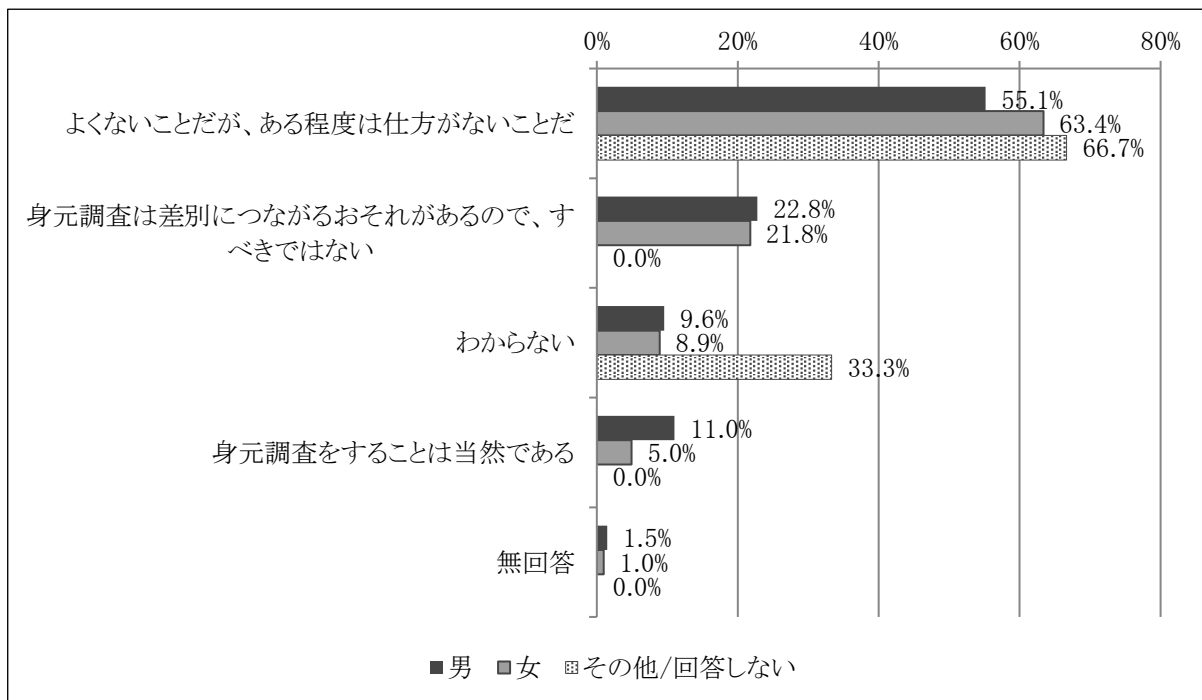
区 分	回答数	構成比
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない	75	22.0%
よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ	205	60.1%
身元調査をすることは当然である	25	7.3%
わからない	32	9.4%
無回答	4	1.2%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」と続いている。



【年代別】

各年代において「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が50%を超え最も高くなっている。次いで、「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ	64.3%	66.7%	60.9%	58.2%	54.2%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない	11.9%	16.7%	20.3%	26.9%	28.1%
わからない	11.9%	4.2%	12.5%	10.4%	9.4%
身元調査をすることは当然である	11.9%	8.3%	6.3%	4.5%	7.3%
無回答	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	1.0%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

2 女性の人権に対する意識

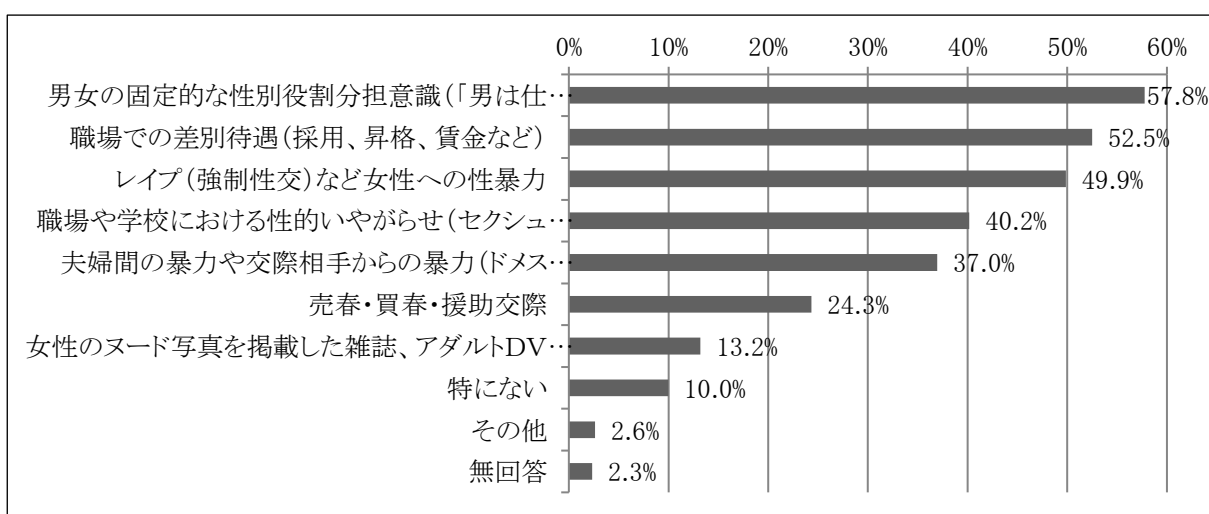
問8 あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのような行為に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」が57.8%と最も高く、次いで「職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）」が52.5%と続いている。

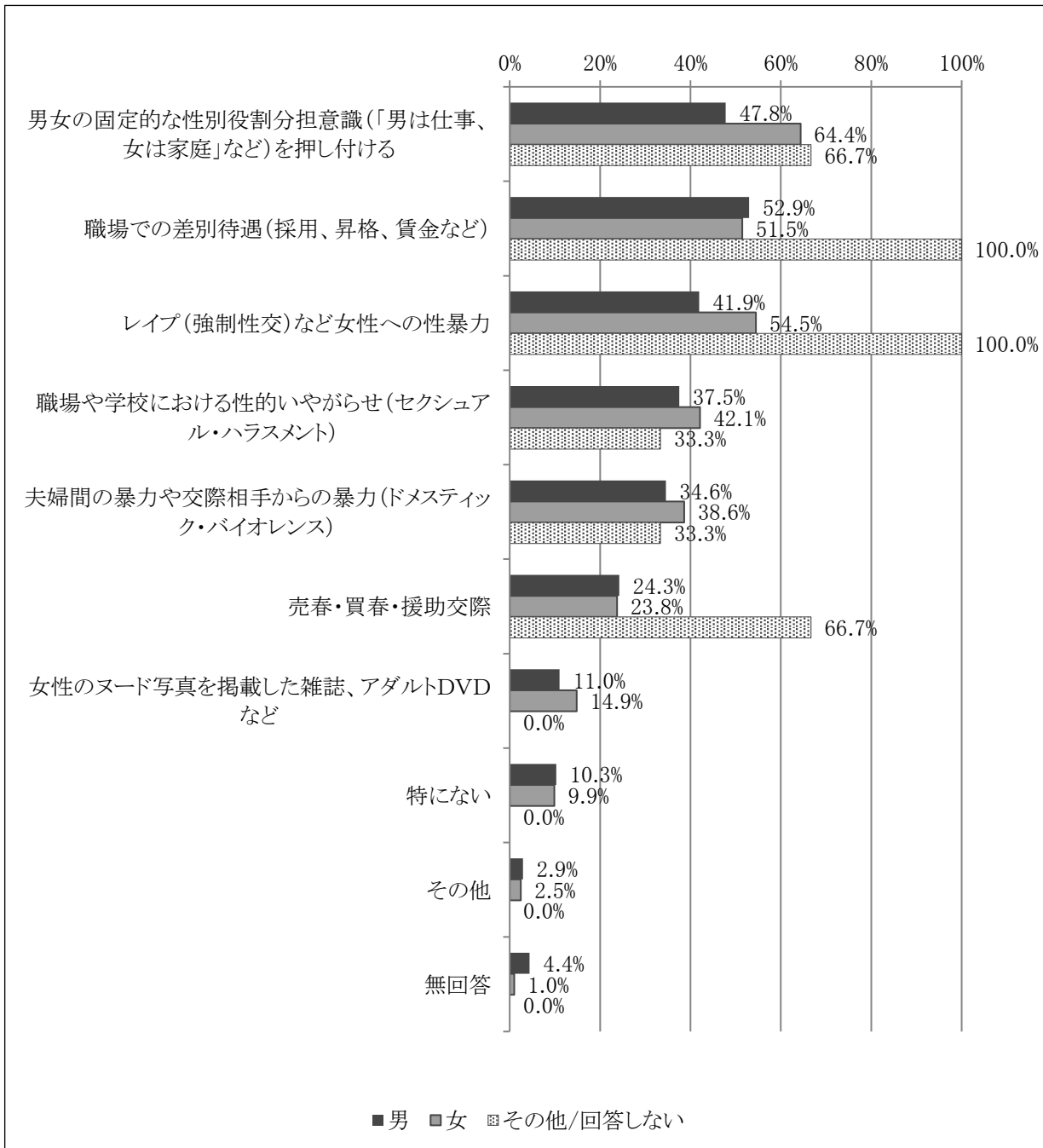
区 分	回答数	構成比
男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける	197	57.8%
職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）	179	52.5%
売春・買春・援助交際	83	24.3%
レイプ（強制性交）など女性への性暴力	170	49.9%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）	126	37.0%
職場や学校における性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	137	40.2%
女性のヌード写真を掲載した雑誌、アダルトDVDなど	45	13.2%
その他	9	2.6%
特にない	34	10.0%
無回答	8	2.3%
計	988	

（回答者数 341 人）



【性別】

男性は「職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）」が52.9%、女性は「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」が64.4%と最も高くなっている。「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」では、女性は男性に比べ、16.6ポイント高くなっている。



【年代別】

60歳以上を除く各世代においては「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」、60歳以上では「職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）」が最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける	71.4%	59.7%	60.9%	58.2%	47.9%
職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）	61.9%	52.8%	56.3%	44.8%	51.0%
レイプ（強姦性交）など女性への性暴力	52.4%	56.9%	57.8%	56.7%	33.3%
職場や学校における性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	38.1%	50.0%	45.3%	37.3%	32.3%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）	33.3%	37.5%	45.3%	40.3%	30.2%
売春・買春・援助交際	16.7%	25.0%	34.4%	25.4%	19.8%
女性のヌード写真を掲載した雑誌、アダルトDVDなど	11.9%	11.1%	14.1%	10.4%	16.7%
特にない	7.1%	6.9%	4.7%	9.0%	17.7%
その他	0.0%	4.2%	0.0%	1.5%	5.2%
無回答	0.0%	0.0%	1.6%	4.5%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

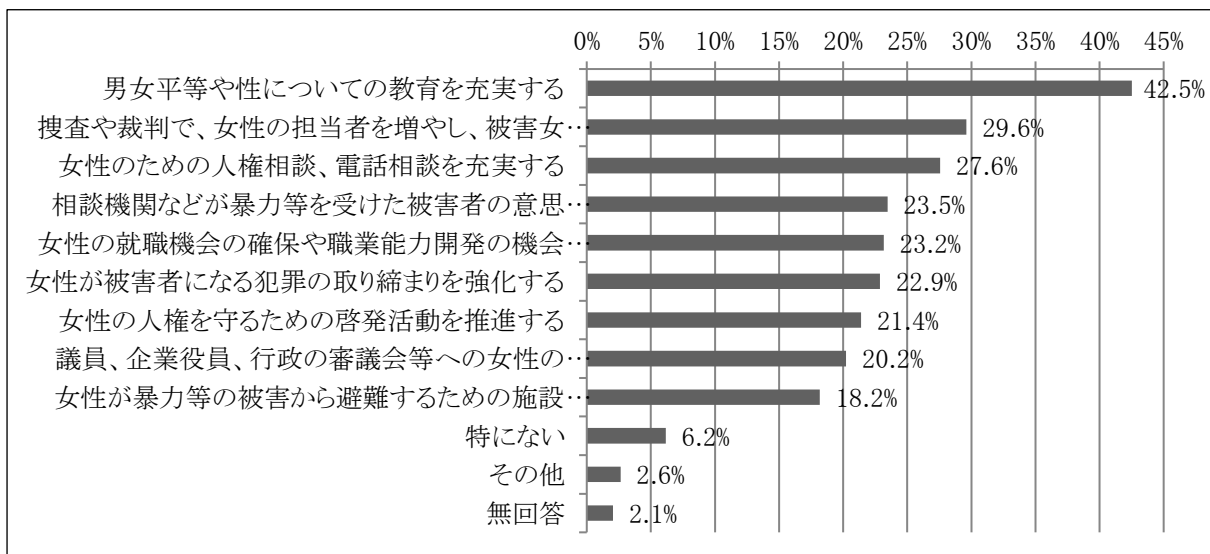
問9 あなたは、女性の人権をまもるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「男女平等や性についての教育を充実する」42.5%と最も高く、次いで「捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届けやすいようにする」が29.6%と続いている。

区 分	回答数	構成比
女性の人権を守るための啓発活動を推進する	73	21.4%
女性のための人権相談、電話相談を充実する	94	27.6%
男女平等や性についての教育を充実する	145	42.5%
女性の就職機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	79	23.2%
議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	69	20.2%
女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	62	18.2%
女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	78	22.9%
相談機関などが暴力等を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	80	23.5%
捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届けやすいようにする	101	29.6%
その他	9	2.6%
特にない	21	6.2%
無回答	7	2.1%
計	818	

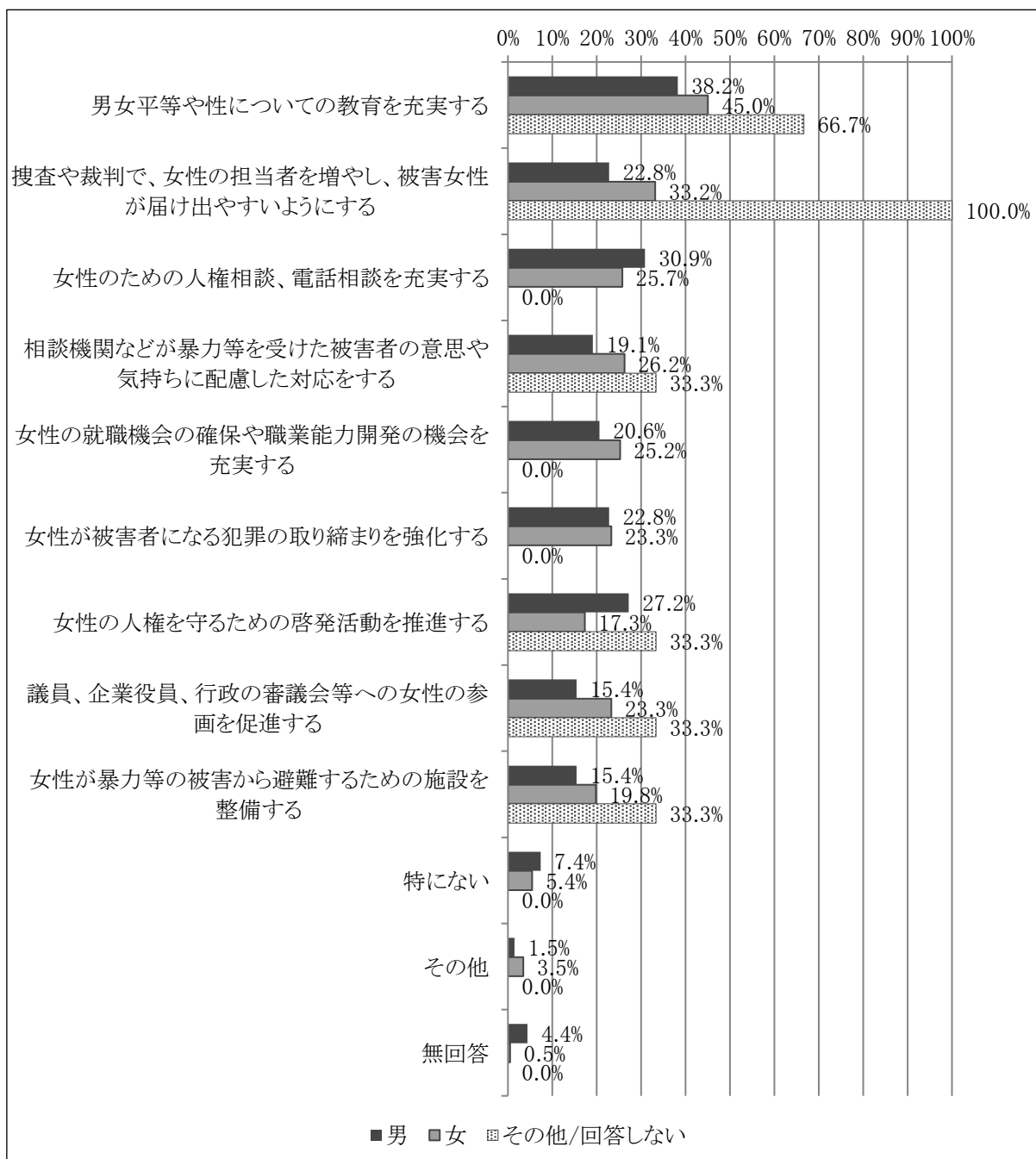
(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「男女平等や性についての教育を充実する」が最も高くなっている。

「女性の人権を守るための啓発活動を推進する」では、男性は女性に比べ、9.9ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳、30歳代、40歳代、60歳以上では「男女平等や性についての教育を充実する」、50歳代では「捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする」と「女性のための人権相談、電話相談を充実する」が同ポイントと最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男女平等や性についての教育を充実する	45.2%	52.8%	50.0%	32.8%	35.4%
捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする	31.0%	30.6%	37.5%	37.3%	17.7%
女性のための人権相談、電話相談を充実する	14.3%	22.2%	34.4%	37.3%	26.0%
相談機関などが暴力等を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	16.7%	13.9%	18.8%	34.3%	29.2%
女性の就職機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	26.2%	29.2%	18.8%	17.9%	24.0%
女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	14.3%	34.7%	25.0%	20.9%	17.7%
女性の人権を守るための啓発活動を推進する	23.8%	11.1%	23.4%	19.4%	28.1%
議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	23.8%	23.6%	18.8%	16.4%	19.8%
女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	23.8%	20.8%	21.9%	23.9%	7.3%
特にない	4.8%	5.6%	4.7%	4.5%	9.4%
その他	4.8%	4.2%	1.6%	1.5%	2.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

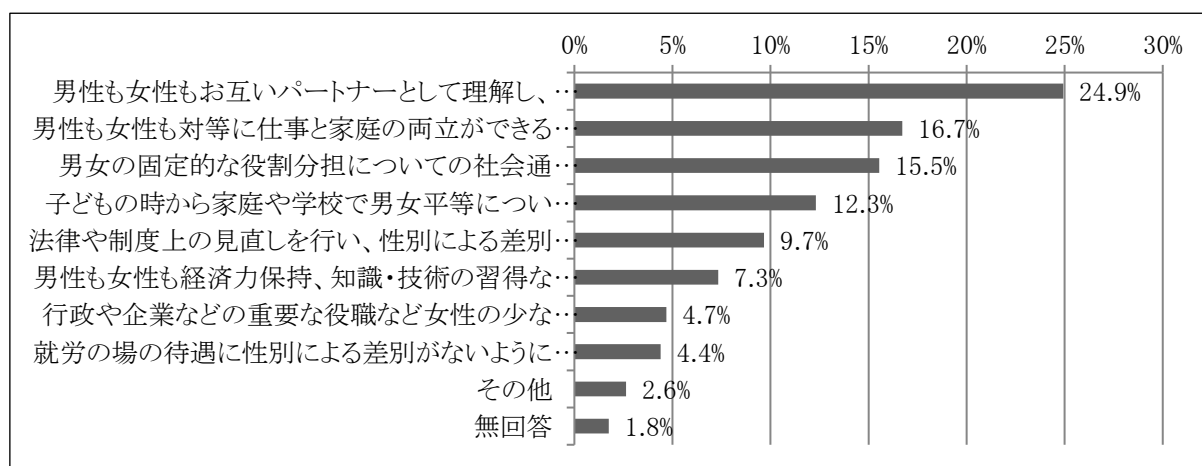
問10 今後、男性も女性も、ともに社会のあらゆる分野にバランスよく積極的に参加していくためには、あなたは、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(〇は1つまで)

【全体】

「男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する」が24.9%と最も高く、次いで「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図る」が16.7%と続いている。

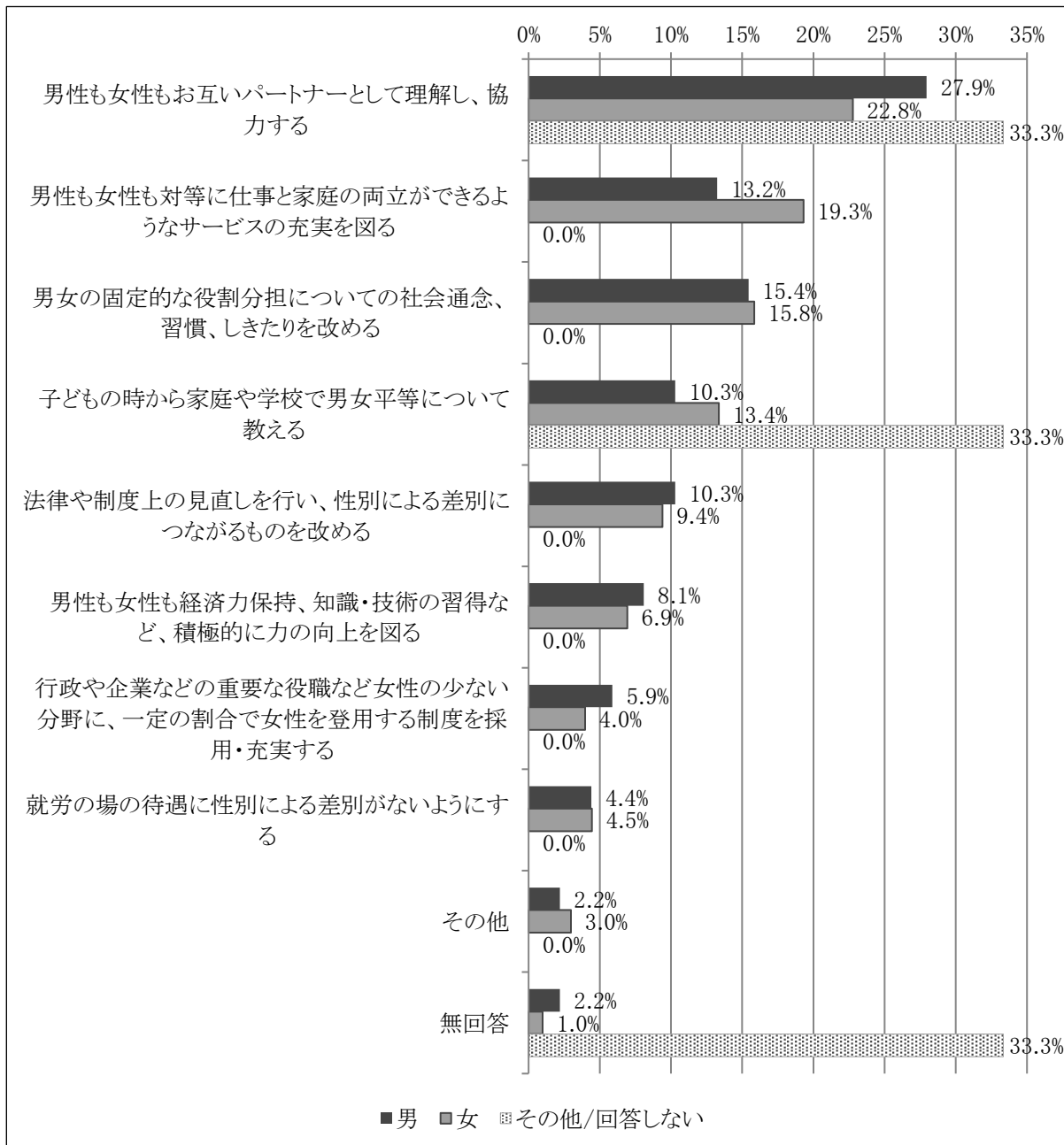
区 分	回答数	構成比
法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改める	33	9.7%
男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める	53	15.5%
男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する	85	24.9%
子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える	42	12.3%
男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図る	57	16.7%
男性も女性も経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図る	25	7.3%
就労の場の待遇に性別による差別がないようにする	15	4.4%
行政や企業などの重要な役職など女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する	16	4.7%
その他	9	2.6%
無回答	6	1.8%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する」が最も高くなっている。「男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する」では、男性は女性に比べ、5.1ポイント高くなっている。一方、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図る」では、女性は男性に比べ、6.1ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳は「男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める」、それ以外の年代では「男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する」が最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
男性も女性もお互いパートナーとして理解し、協力する	23.8%	25.0%	25.0%	28.4%	22.9%
男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図る	19.0%	18.1%	18.8%	13.4%	15.6%
男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改める	26.2%	19.4%	20.3%	4.5%	12.5%
子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える	9.5%	11.1%	6.3%	20.9%	12.5%
法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改める	4.8%	8.3%	14.1%	13.4%	7.3%
男性も女性も経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図る	4.8%	9.7%	7.8%	1.5%	10.4%
行政や企業などの重要な役職など女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する	2.4%	4.2%	1.6%	9.0%	5.2%
就労の場の待遇に性別による差別がないようにする	9.5%	1.4%	3.1%	3.0%	6.3%
その他	0.0%	1.4%	3.1%	4.5%	3.1%
無回答	0.0%	1.4%	0.0%	1.5%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

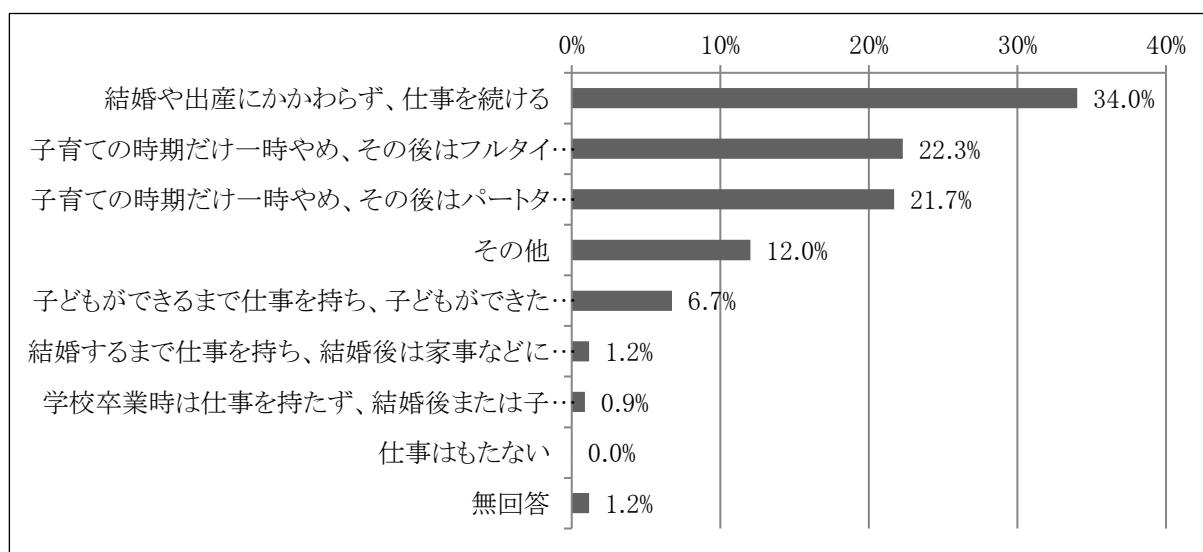
問11 あなたは、女性の働き方についてどうあるべきだと思いますか。（あなたの考えに近いものに1つだけに○）

【全体】

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が34.0%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が22.3%と続いている。

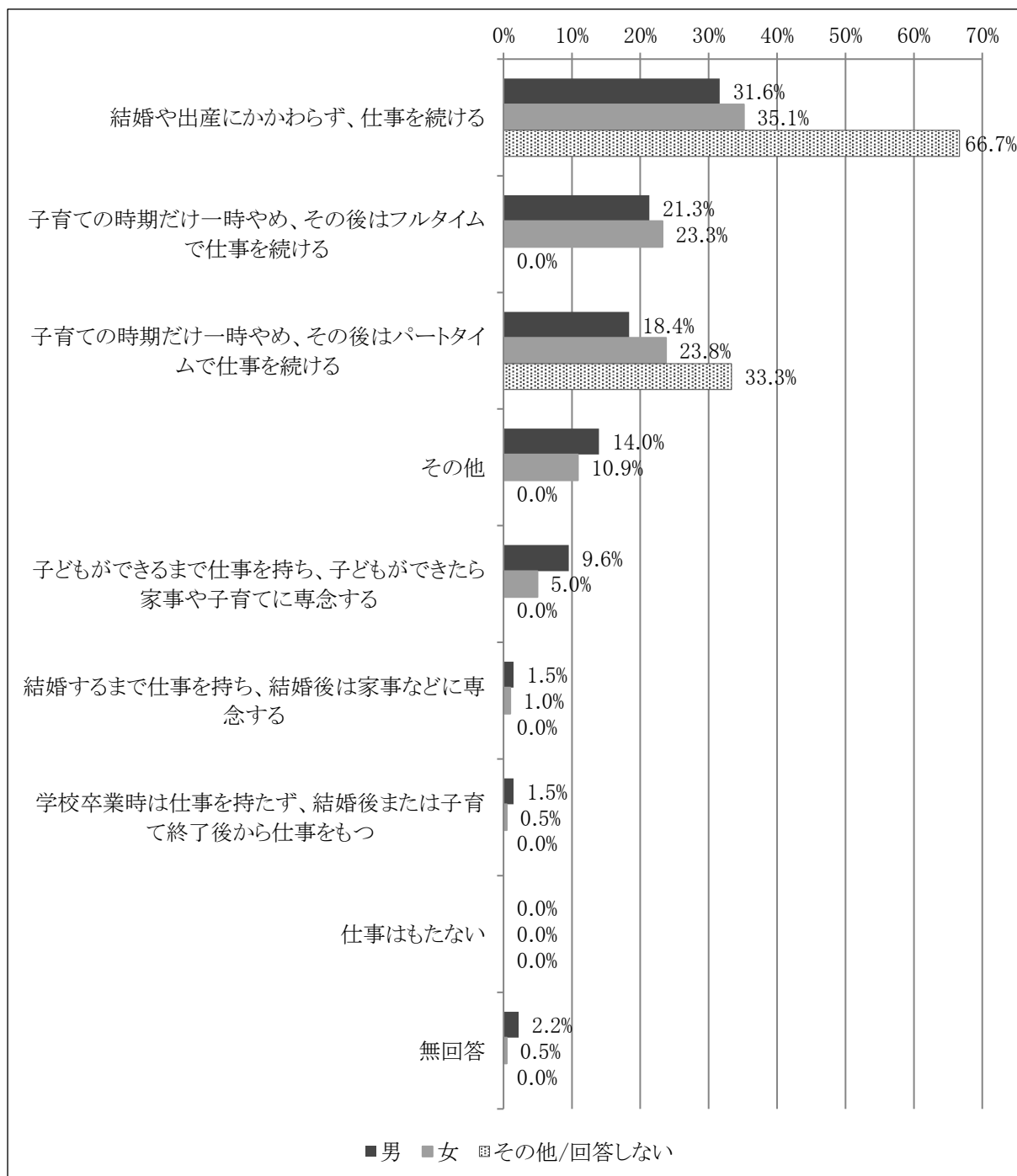
区 分	回答数	構成比
結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	116	34.0%
子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	76	22.3%
子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	74	21.7%
学校卒業時は仕事を持たず、結婚後または子育て終了後から仕事をもつ	3	0.9%
子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する	23	6.7%
結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事などに専念する	4	1.2%
仕事はもたない	0	0.0%
その他	41	12.0%
無回答	4	1.2%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が最も高く、次いで男性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、女性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」と続いている。



【年代別】

各年代において「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	31.0%	40.3%	32.8%	31.3%	33.3%
子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	31.0%	13.9%	29.7%	20.9%	20.8%
子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	16.7%	25.0%	15.6%	20.9%	26.0%
その他	9.5%	12.5%	14.1%	13.4%	10.4%
子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する	11.9%	5.6%	6.3%	7.5%	5.2%
結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事などに専念する	0.0%	1.4%	0.0%	3.0%	1.0%
学校卒業時は仕事を持たず、結婚後または子育て終了後から仕事をもつ	0.0%	0.0%	1.6%	1.5%	1.0%
仕事はもたない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	1.4%	0.0%	1.5%	2.1%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

3 子どもの人権に対する意識

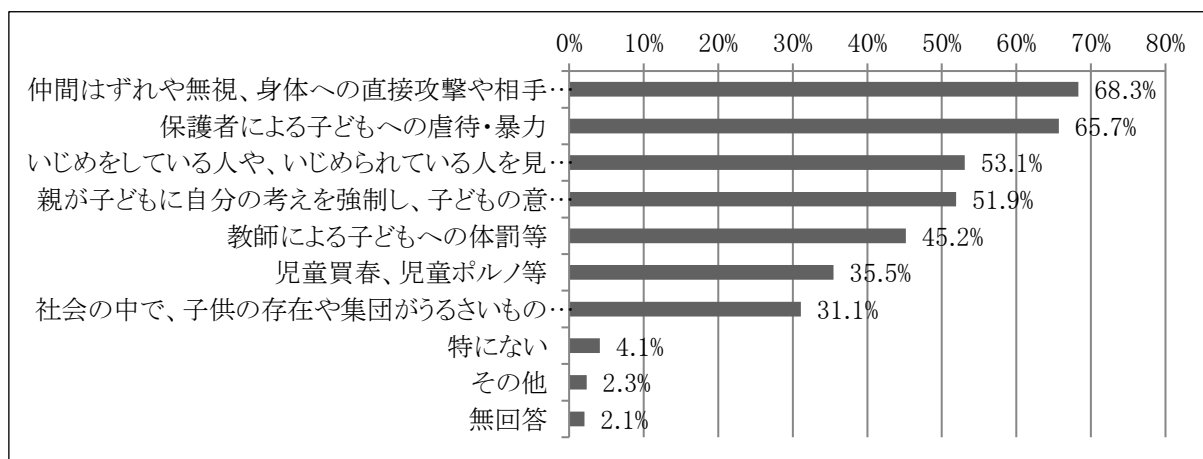
問12 あなたは、子どもの人権が尊重されていないと感じるのはどのような状況に対してですか（該当するものすべてに○）

【全体】

「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が68.3%と最も高く、次いで「保護者による子どもへの虐待・暴力」が65.7%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬ振りをする」が53.1%と続いている。

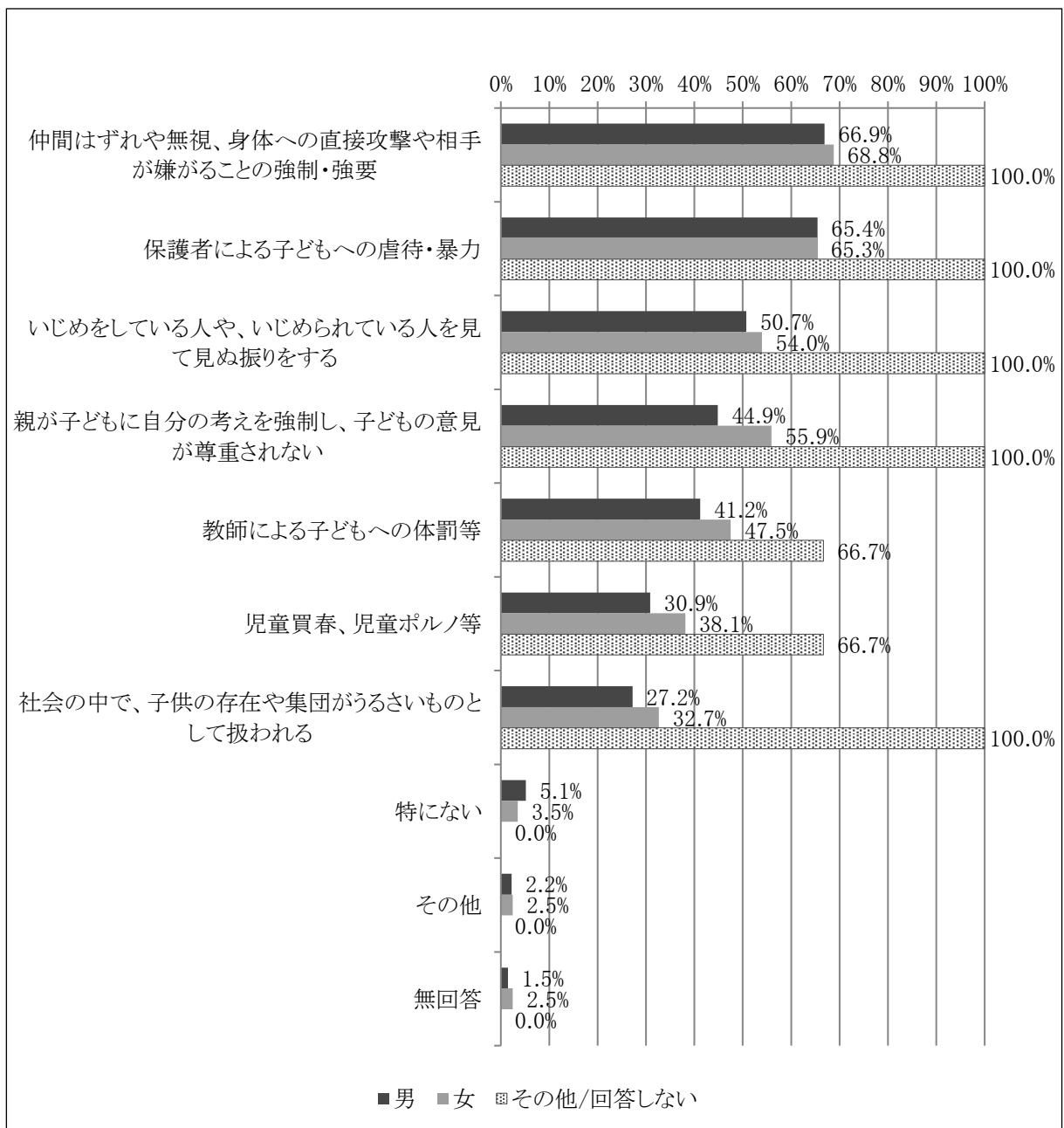
区 分	回答数	構成比
仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要	233	68.3%
いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬ振りをする	181	53.1%
教師による子どもへの体罰等	154	45.2%
保護者による子どもへの虐待・暴力	224	65.7%
親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見が尊重されない	177	51.9%
児童買春、児童ポルノ等	121	35.5%
社会の中で、子供の存在や集団がうるさいものとして扱われる	106	31.1%
その他	8	2.3%
特にない	14	4.1%
無回答	7	2.1%
計	1,225	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が最も高く、次いで「保護者による子どもへの虐待・暴力」と続いている。



【年代別】

各年代において「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が60%を超え最も高く、次いで「保護者による子どもへの虐待・暴力」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要	69.0%	68.1%	71.9%	74.6%	61.5%
保護者による子どもへの虐待・暴力	61.9%	69.4%	64.1%	74.6%	59.4%
いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬ振りをする	52.4%	48.6%	51.6%	58.2%	54.2%
親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見が尊重されない	61.9%	59.7%	54.7%	56.7%	36.5%
教師による子どもへの体罰等	40.5%	51.4%	46.9%	44.8%	41.7%
児童買春、児童ポルノ等	16.7%	38.9%	40.6%	41.8%	33.3%
社会の中で、子供の存在や集団がうるさいものとして扱われる	26.2%	38.9%	31.3%	38.8%	21.9%
特にない	2.4%	4.2%	3.1%	1.5%	7.3%
その他	2.4%	1.4%	1.6%	3.0%	3.1%
無回答	0.0%	0.0%	3.1%	1.5%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

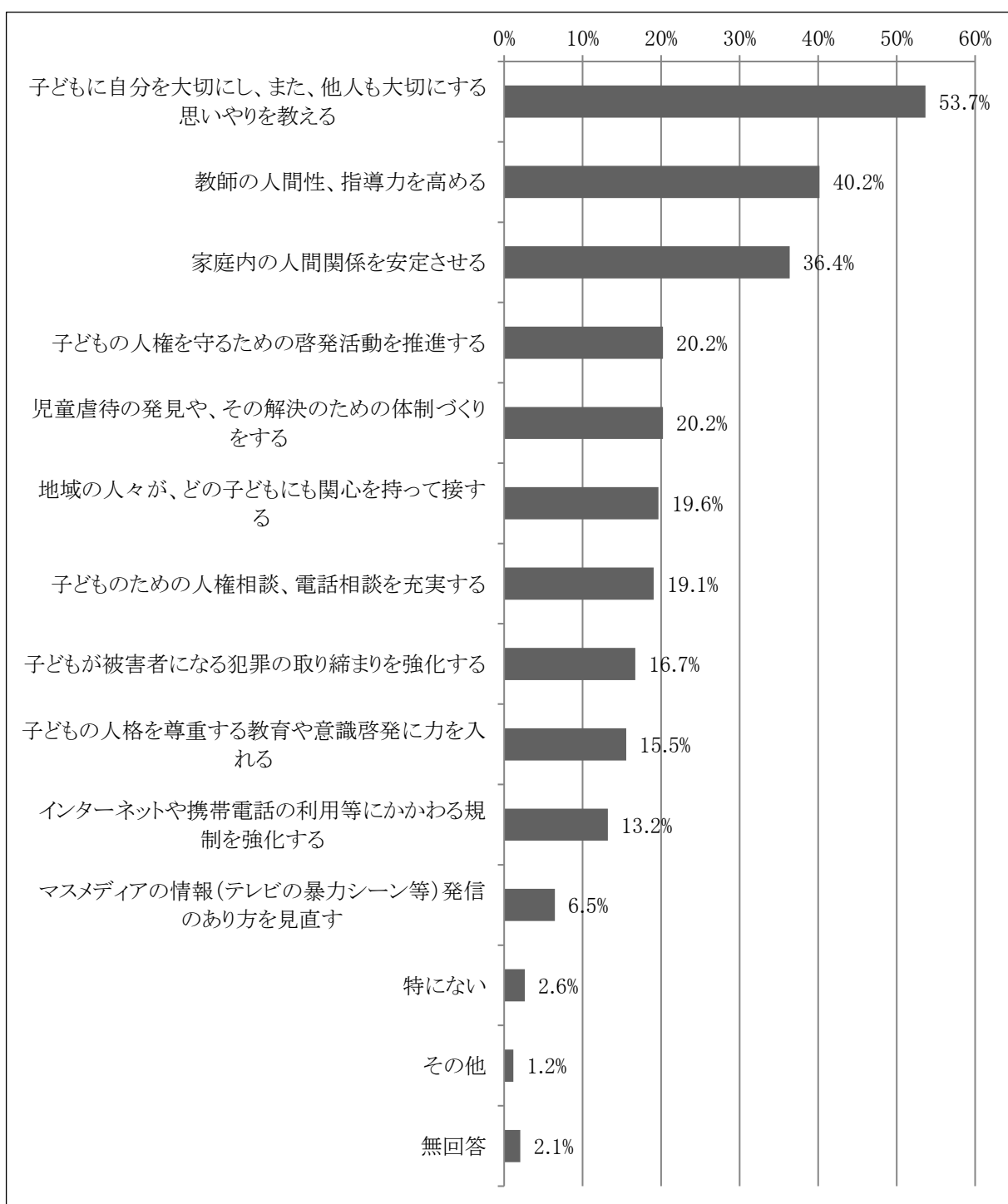
問13 あなたは、子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える」が53.7%と最も高く、次いで「教師の人間性、指導力を高める」が40.2%、「家庭内の人間関係を安定させる」が36.4%と続いている。

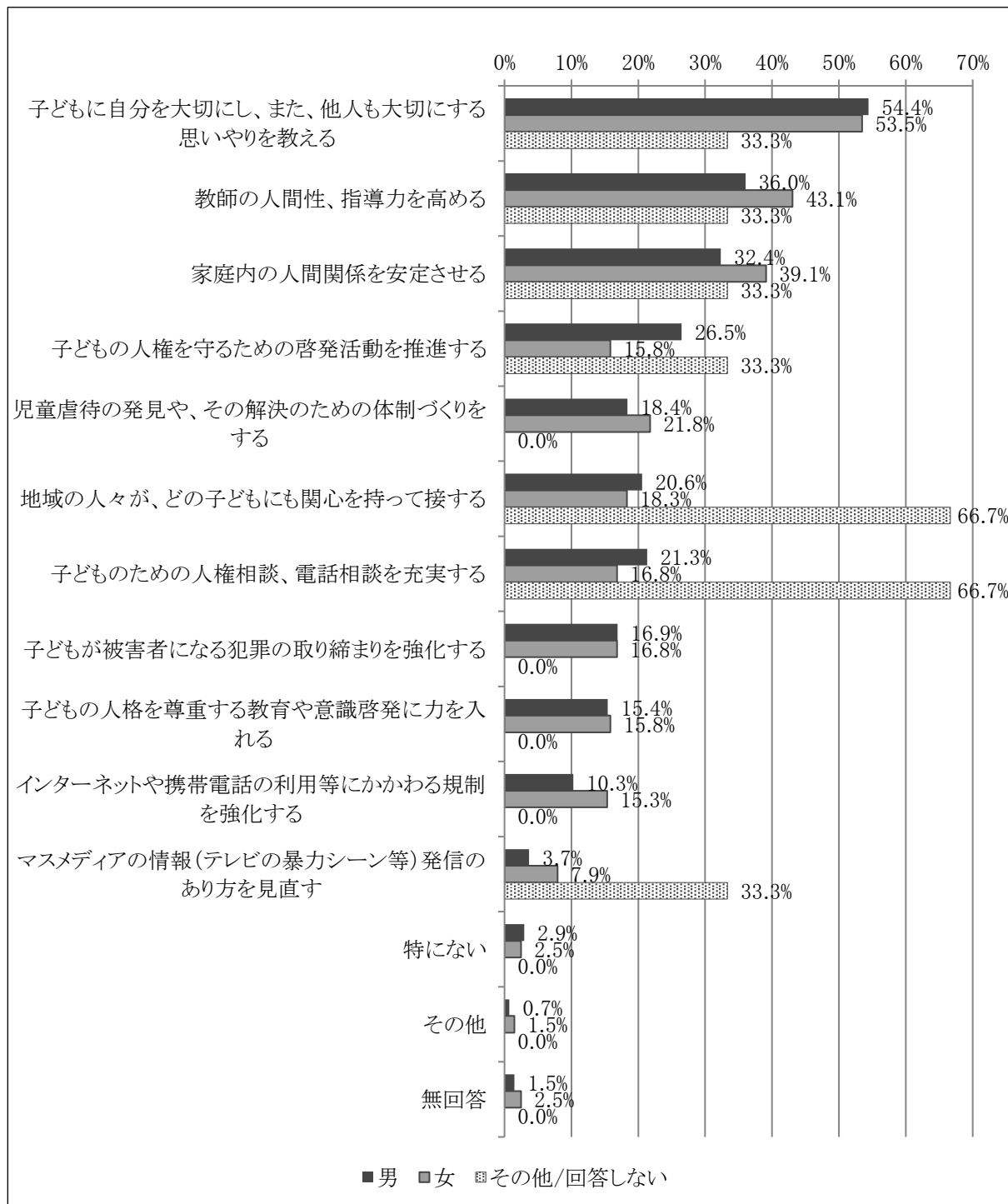
区 分	回答数	構成比
子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	69	20.2%
子どものための人権相談、電話相談を充実する	65	19.1%
教師の人間性、指導力を高める	137	40.2%
家庭内の人間関係を安定させる	124	36.4%
子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える	183	53.7%
子どもの人格を尊重する教育や意識啓発に力を入れる	53	15.5%
地域の人々が、どの子どもにも関心を持って接する	67	19.6%
子どもが被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	57	16.7%
児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	69	20.2%
マスメディアの情報（テレビの暴力シーン等）発信のあり方を見直す	22	6.5%
インターネットや携帯電話の利用等にかかわる規制を強化する	45	13.2%
その他	4	1.2%
特にない	9	2.6%
無回答	7	2.1%
計	911	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にす思いやりを教える」が50%を超え最も高く、次いで「教師の人間性、指導力を高める」と続いている。



【年代別】

18～29歳を除く各世代においては「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切に
する思いやりを教える」が最も高く、次いで「教師の人間性、指導力を高める」、「家
庭内の人間関係を安定させる」と続いている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上
子どもに自分を大切にし、また、他人も大切に する思いやりを教える	42.9%	50.0%	56.3%	52.2%	60.4%
教師の人間性、指導力を高める	42.9%	36.1%	48.4%	35.8%	39.6%
家庭内の人間関係を安定させる	50.0%	36.1%	39.1%	41.8%	25.0%
子どもの人権を守るための啓 発活動を推進する	19.0%	9.7%	20.3%	19.4%	29.2%
児童虐待の発見や、その解決 のための体制づくりをする	19.0%	30.6%	20.3%	22.4%	11.5%
地域の人々が、どの子どもに も関心を持って接する	21.4%	19.4%	12.5%	22.4%	21.9%
子どものための人権相談、電 話相談を充実する	9.5%	18.1%	23.4%	22.4%	18.8%
子どもが被害者になる犯罪の 取り締まりを強化する	9.5%	26.4%	15.6%	16.4%	13.5%
子どもの人格を尊重する教育 や意識啓発に力を入れる	23.8%	15.3%	7.8%	13.4%	18.8%
インターネットや携帯電話の 利用等にかかわる規制を強化 する	9.5%	20.8%	15.6%	13.4%	7.3%
マスメディアの情報（テレビ の暴力シーン等）発信のあり 方を見直す	2.4%	4.2%	7.8%	7.5%	8.3%
特になし	2.4%	4.2%	1.6%	1.5%	3.1%
その他	0.0%	1.4%	1.6%	1.5%	1.0%
無回答	0.0%	0.0%	3.1%	1.5%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

4 高齢者の人権に対する意識

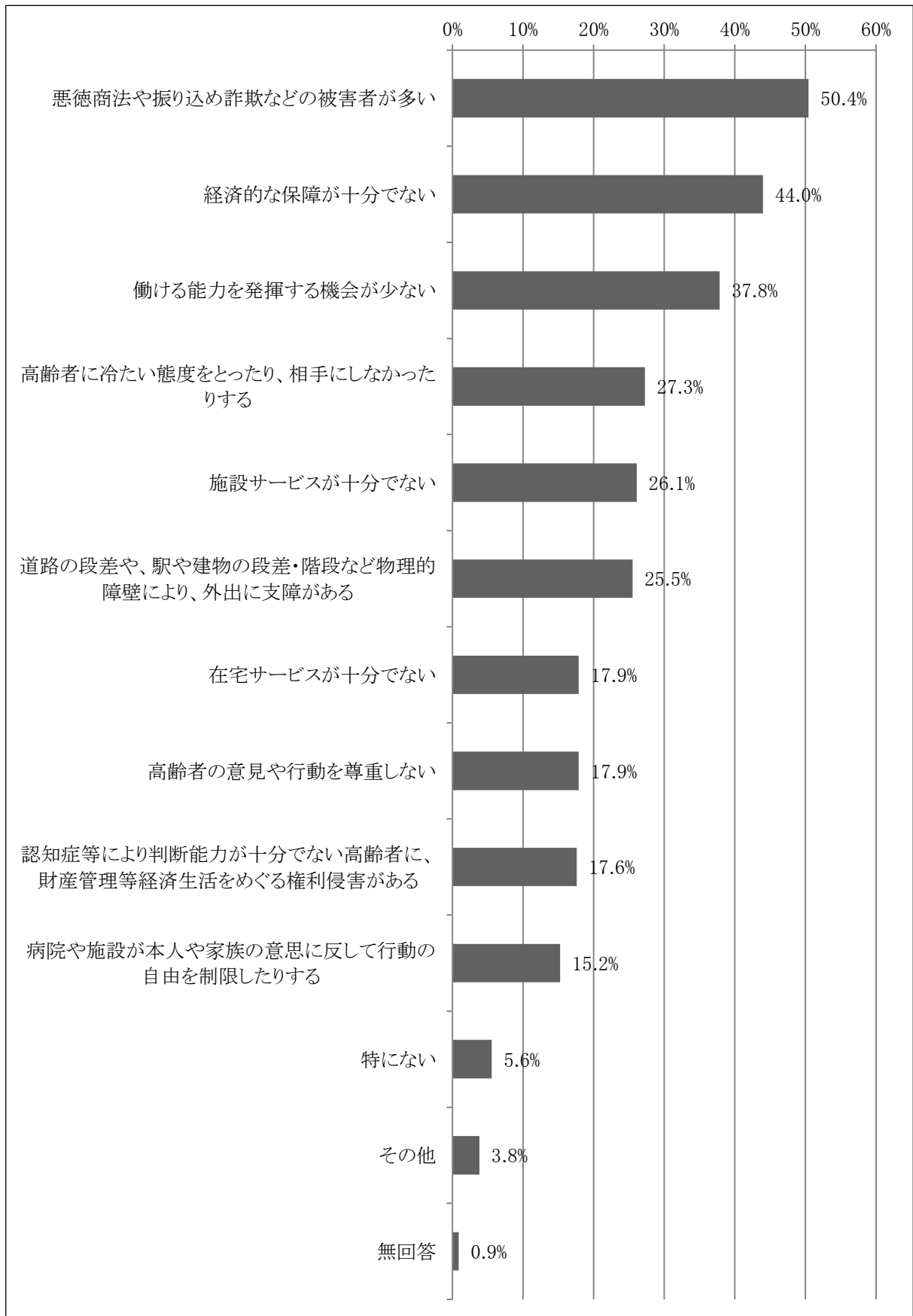
問14 あなたは、高齢者の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」が50.4%と最も高く、次いで「経済的な保障が十分でない」が44.0%、「働ける能力を発揮する機会が少ない」が37.8%と続いている。

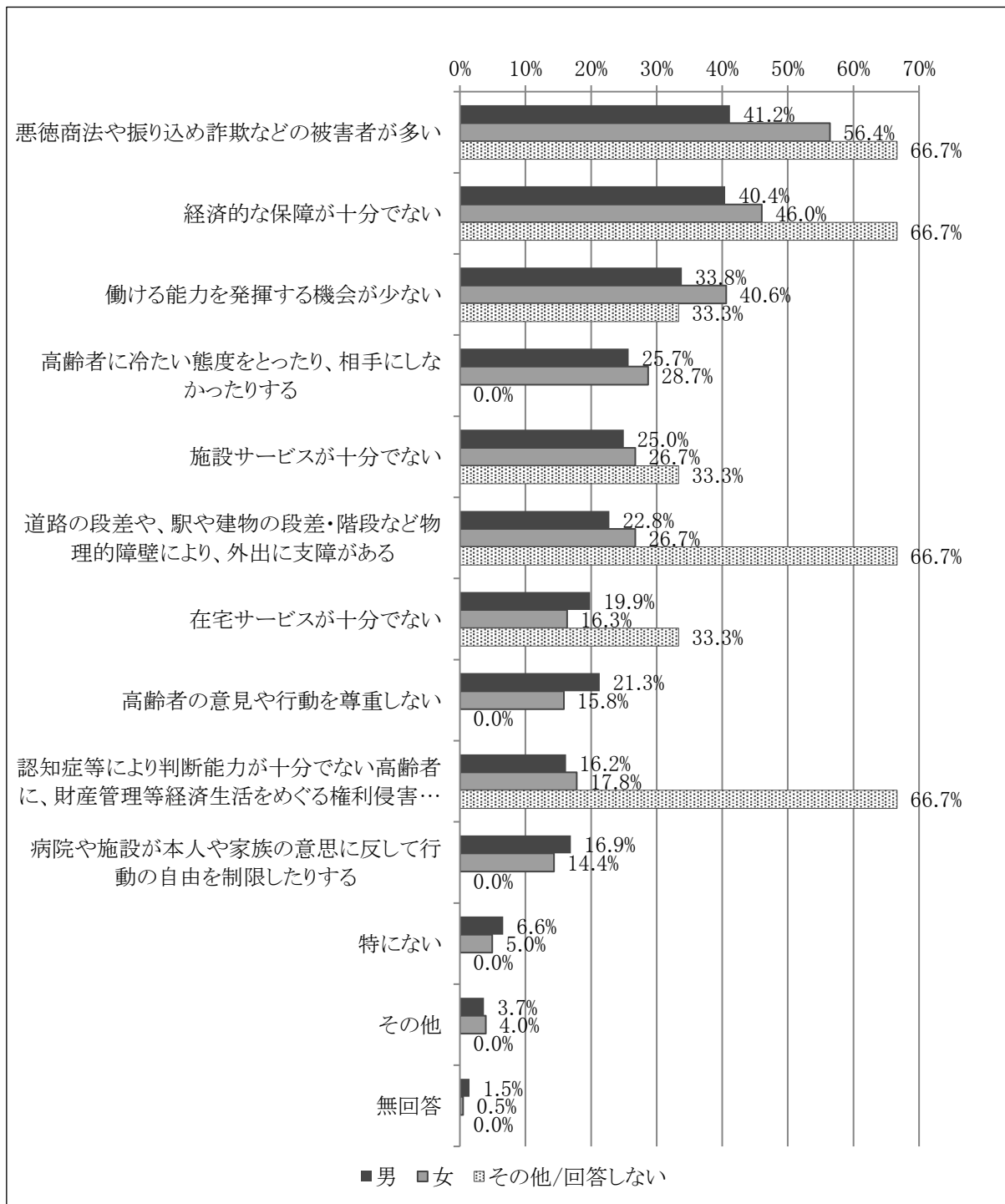
区 分	回答数	構成比
経済的な保障が十分でない	150	44.0%
働ける能力を発揮する機会が少ない	129	37.8%
施設サービスが十分でない	89	26.1%
在宅サービスが十分でない	61	17.9%
病院や施設が本人や家族の意思に反して行動の自由を制限したりする	52	15.2%
道路の段差や、駅や建物の段差・階段など物理的障壁により、外出に支障がある	87	25.5%
高齢者に冷たい態度をとったり、相手にしなかったりする	93	27.3%
認知症等により判断能力が十分でない高齢者に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	60	17.6%
高齢者の意見や行動を尊重しない	61	17.9%
悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い	172	50.4%
その他	13	3.8%
特にない	19	5.6%
無回答	3	0.9%
計	989	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害が多い」が最も高く、次いで「経済的な保障が十分でない」、「働ける能力を発揮する機会が少ない」と続いている。



【年代別】

18～29歳、30歳代、50歳代、60歳以上は「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」、40歳代は「働ける能力を発揮する機会が少ない」、60歳以上は「経済的な保障が十分でない」が44.8%と同ポイントで最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い	47.6%	51.4%	45.3%	64.2%	44.8%
経済的な保障が十分でない	31.0%	41.7%	46.9%	50.7%	44.8%
働ける能力を発揮する機会が少ない	38.1%	41.7%	50.0%	34.3%	29.2%
高齢者に冷たい態度をとったり、相手にしなかったりする	38.1%	26.4%	32.8%	17.9%	26.0%
施設サービスが十分でない	19.0%	20.8%	29.7%	37.3%	22.9%
道路の段差や、駅や建物の段差・階段など物理的障壁により、外出に支障がある	23.8%	34.7%	20.3%	26.9%	21.9%
在宅サービスが十分でない	4.8%	20.8%	28.1%	17.9%	14.6%
高齢者の意見や行動を尊重しない	7.1%	15.3%	23.4%	17.9%	20.8%
認知症等により判断能力が十分でない高齢者に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	9.5%	20.8%	28.1%	14.9%	13.5%
病院や施設が本人や家族の意思に反して行動の自由を制限したりする	14.3%	6.9%	25.0%	10.4%	18.8%
特にない	7.1%	9.7%	4.7%	3.0%	4.2%
その他	0.0%	2.8%	6.3%	4.5%	4.2%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

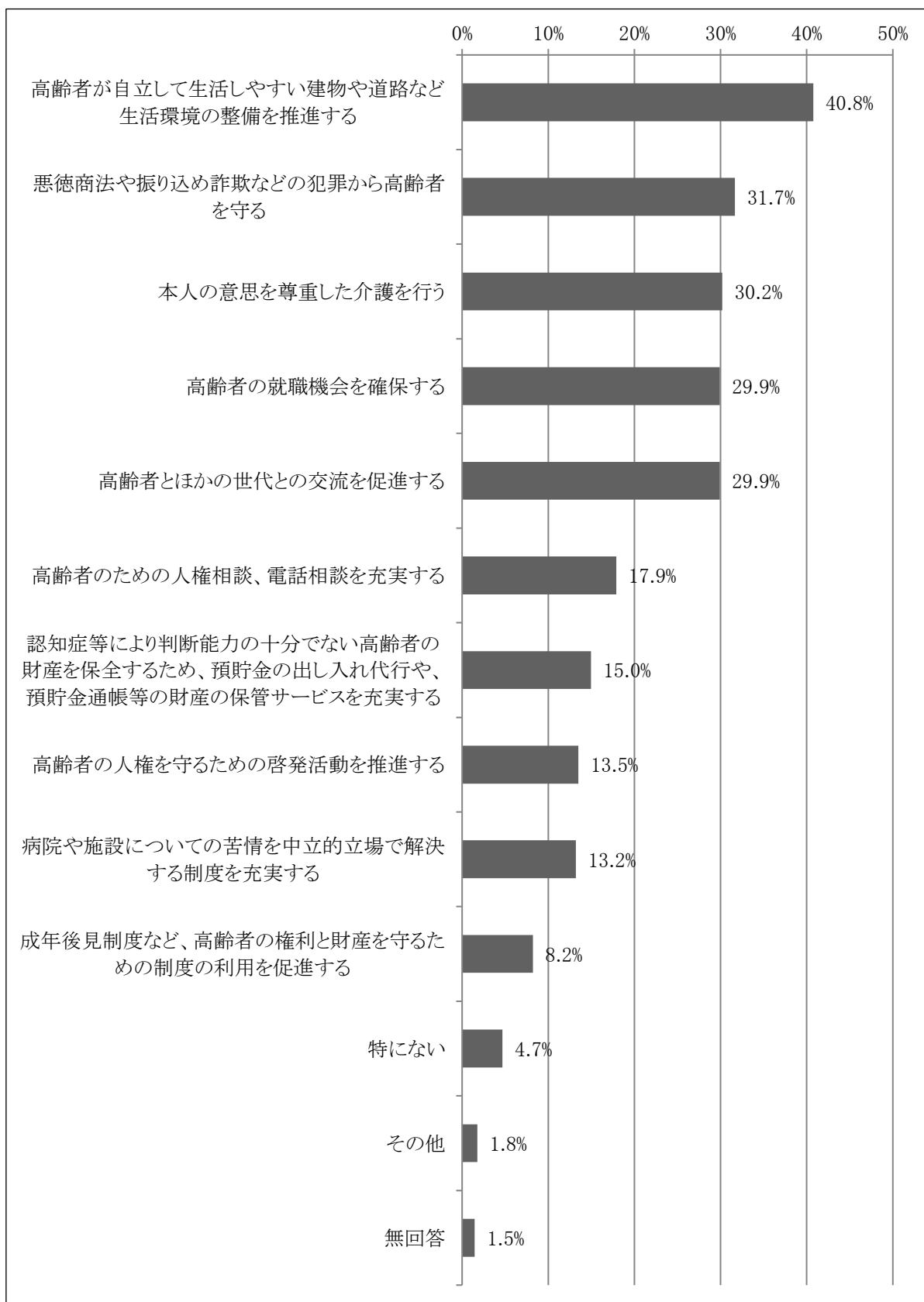
問15 あなたは、高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する」が40.8%と最も高く、次いで「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」が31.7%、「本人の意思を尊重した介護を行う」が30.2%と続いている。

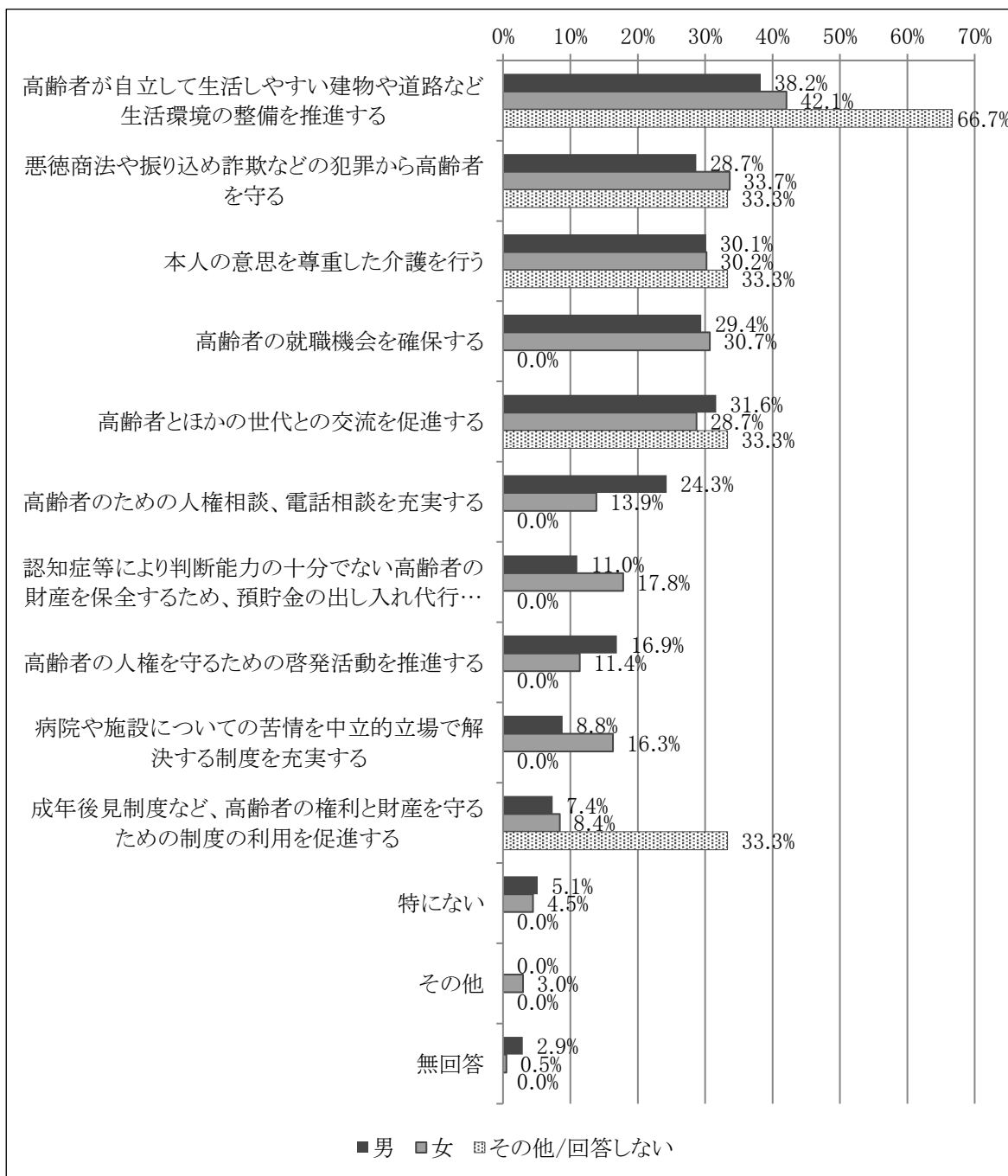
区 分	回答数	構成比
高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	46	13.5%
高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	61	17.9%
高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する	139	40.8%
高齢者の就職機会を確保する	102	29.9%
高齢者とほかの世代との交流を促進する	102	29.9%
認知症等により判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	51	15.0%
成年後見制度など、高齢者の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	28	8.2%
本人の意思を尊重した介護を行う	103	30.2%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	45	13.2%
悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	108	31.7%
その他	6	1.8%
特にない	16	4.7%
無回答	5	1.5%
計	812	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する」が最も高くなっている。「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」、「本人の意思を尊重した介護を行う」、「高齢者の就職機会を確保する」、「高齢者とほかの世代との交流を促進する」は、男女ともに30%前後となっている。



【年代別】

18～29歳、30歳代、50歳代は「高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する」、40歳代は「高齢者の就職機会を確保する」、60歳以上は「本人の意思を尊重した介護を行う」が最も高くなっている。「本人の意思を尊重した介護を行う」では、60歳以上が他の年代に比べ、ポイントが高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する	35.7%	48.6%	32.8%	41.8%	41.7%
悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	31.0%	34.7%	31.3%	34.3%	28.1%
本人の意思を尊重した介護を行う	26.2%	27.8%	17.2%	26.9%	44.8%
高齢者の就職機会を確保する	33.3%	37.5%	42.2%	31.3%	13.5%
高齢者とほかの世代との交流を促進する	31.0%	23.6%	37.5%	35.8%	25.0%
高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	11.9%	9.7%	23.4%	14.9%	25.0%
認知症等により判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	9.5%	23.6%	14.1%	16.4%	10.4%
高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	9.5%	4.2%	15.6%	10.4%	22.9%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	9.5%	13.9%	10.9%	16.4%	13.5%
成年後見制度など、高齢者の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	0.0%	4.2%	12.5%	16.4%	6.3%
特にない	7.1%	8.3%	3.1%	1.5%	4.2%
その他	0.0%	2.8%	3.1%	1.5%	1.0%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	3.0%	2.1%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

5 障がいのある人の人権に対する意識

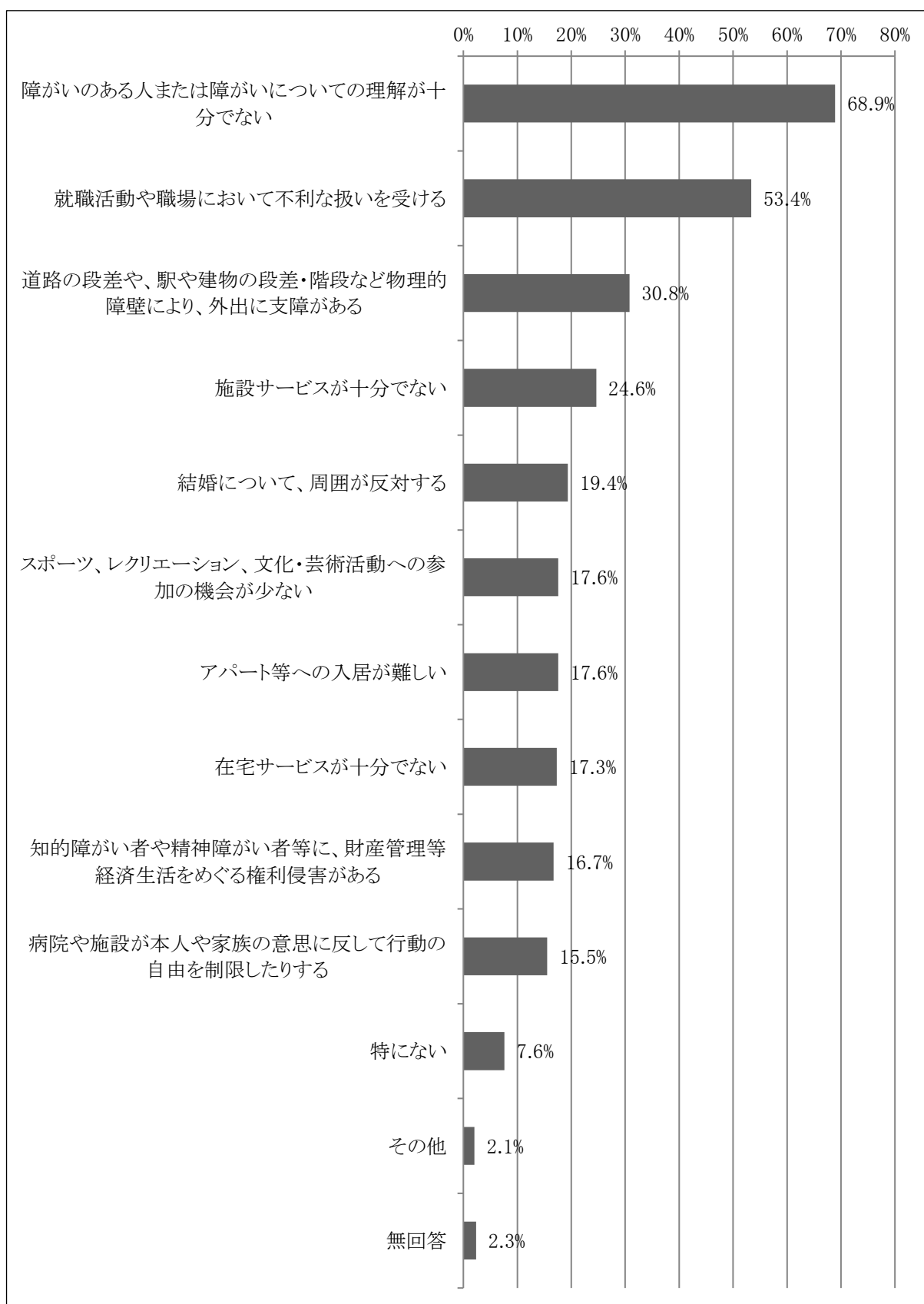
問16 あなたは、障がいのある人の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「障がいのある人または障がいについての理解が十分でない」が68.9%と最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が53.4%、「道路の段差や、駅や建物の段差・階段など物理的障壁により、外出に支障がある」が30.8%と続いている。

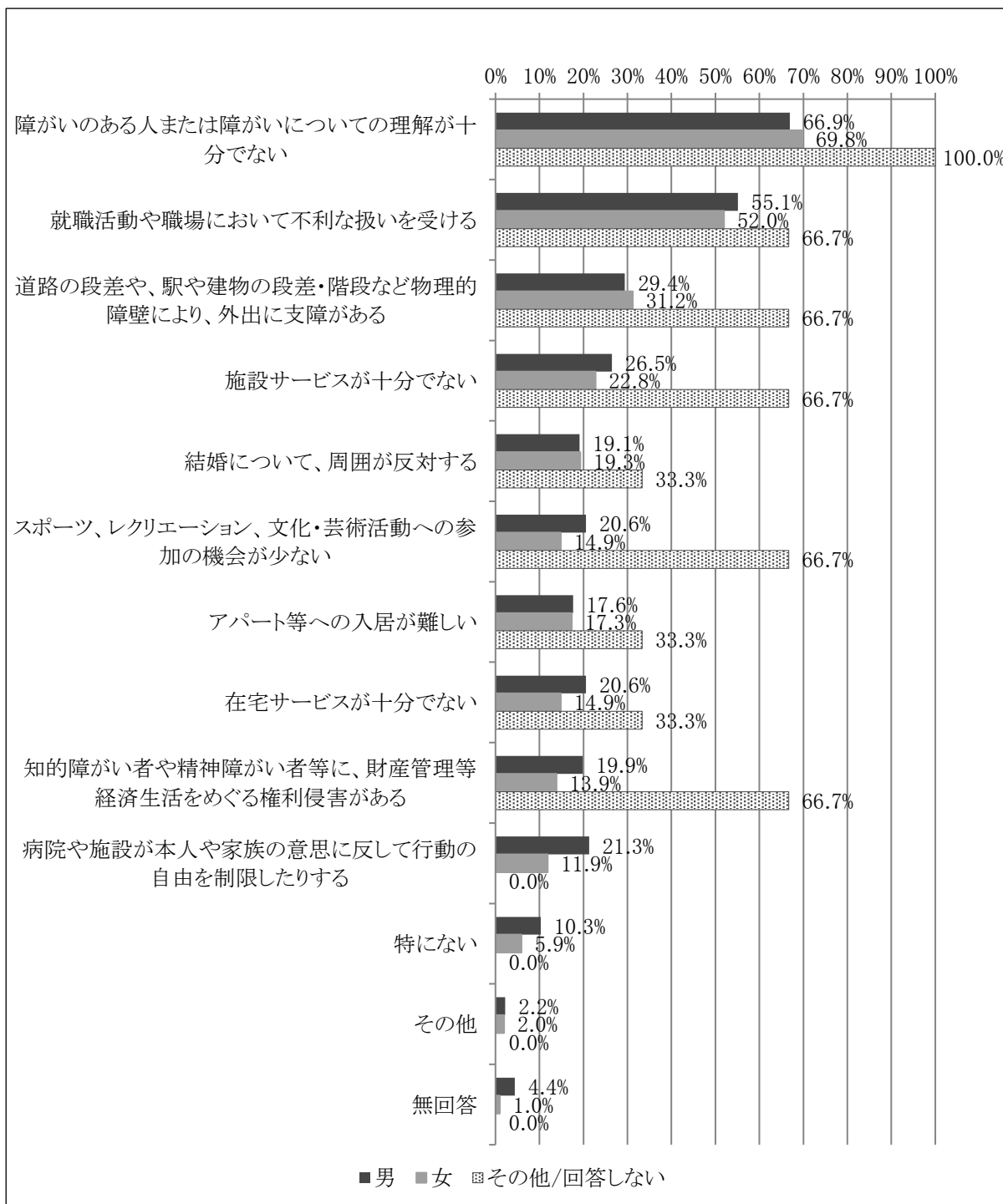
区 分	回答数	構成比
障がいのある人または障がいについての理解が十分でない	235	68.9%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	182	53.4%
施設サービスが十分でない	84	24.6%
在宅サービスが十分でない	59	17.3%
病院や施設が本人や家族の意思に反して行動の自由を制限したりする	53	15.5%
知的障がい者や精神障がい者等に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	57	16.7%
道路の段差や、駅や建物の段差・階段など物理的障壁により、外出に支障がある	105	30.8%
スポーツ、レクリエーション、文化・芸術活動への参加の機会が少ない	60	17.6%
結婚について、周囲が反対する	66	19.4%
アパート等への入居が難しい	60	17.6%
その他	7	2.1%
特にない	26	7.6%
無回答	8	2.3%
計	1,002	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「障がいのある人または障がいについての理解が十分でない」が60%を超え最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」と続いている。



【年代別】

各年代において「障がいのある人または障がいについての理解が十分でない」が最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」と続いている。「障がいのある人または障がいについての理解が十分でない」では、30歳代が81.9%と最も高く、60歳以上と比べ、23.6ポイント高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
障がいのある人または障がいについての理解が十分でない	69.0%	81.9%	75.0%	64.2%	58.3%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	64.3%	55.6%	53.1%	49.3%	50.0%
道路の段差や、駅や建物の段差・階段など物理的障壁により、外出に支障がある	26.2%	34.7%	20.3%	37.3%	32.3%
施設サービスが十分でない	19.0%	11.1%	35.9%	31.3%	25.0%
結婚について、周囲が反対する	28.6%	19.4%	17.2%	17.9%	17.7%
スポーツ、レクリエーション、文化・芸術活動への参加の機会が少ない	23.8%	6.9%	14.1%	19.4%	24.0%
アパート等への入居が難しい	11.9%	8.3%	26.6%	19.4%	19.8%
在宅サービスが十分でない	7.1%	12.5%	21.9%	20.9%	19.8%
知的障がい者や精神障がい者等に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	14.3%	12.5%	25.0%	19.4%	13.5%
病院や施設が本人や家族の意思に反して行動の自由を制限したりする	16.7%	9.7%	21.9%	10.4%	18.8%
特にない	7.1%	5.6%	4.7%	10.4%	9.4%
その他	2.4%	1.4%	4.7%	1.5%	1.0%
無回答	0.0%	1.4%	0.0%	1.5%	6.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

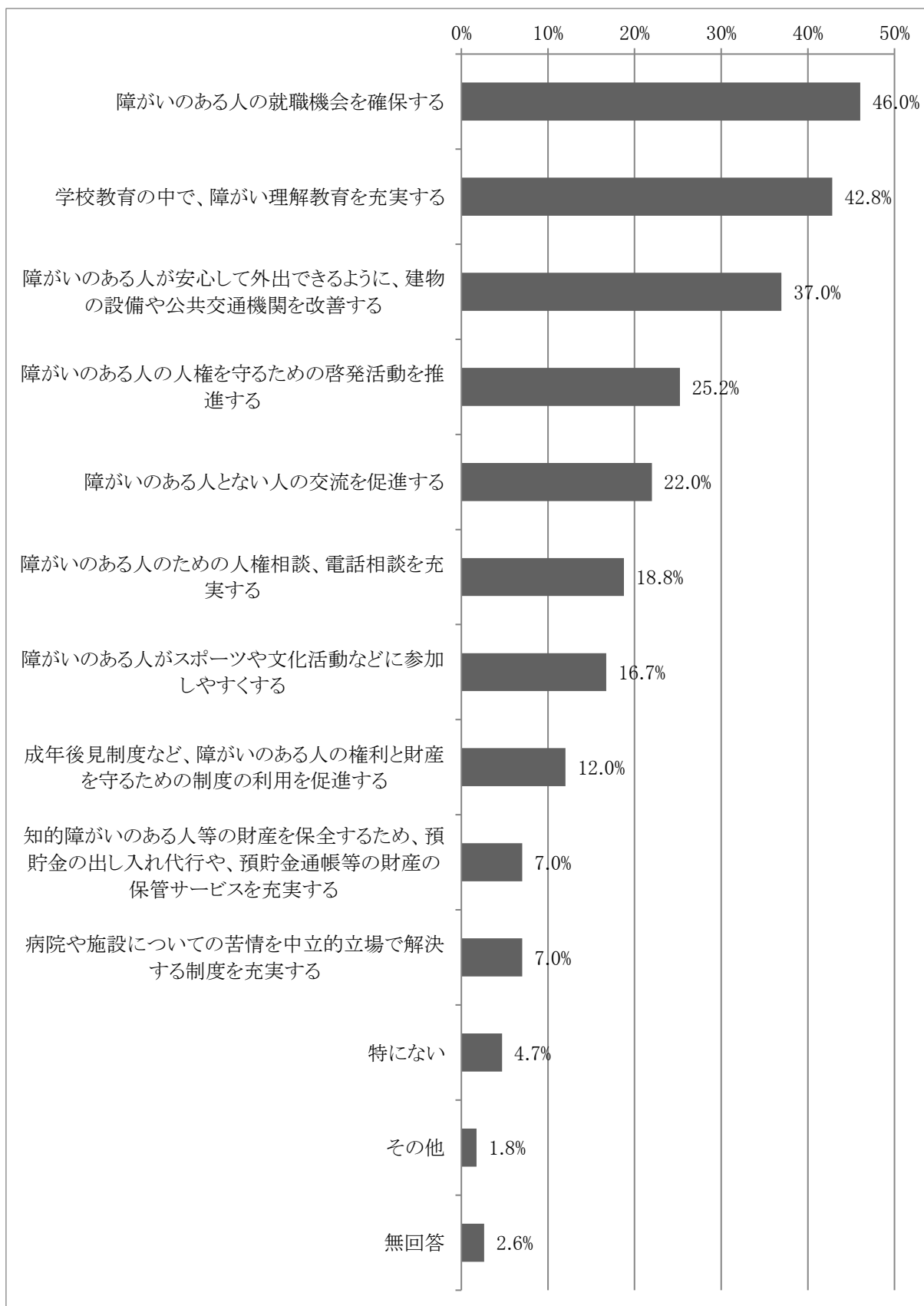
問17 あなたは、障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「障がいのある人の就職機会を確保する」が46.0%と最も高く、次いで「学校教育の中で、障がい理解教育を充実する」が42.8%、「障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する」が37.0%と続いている。

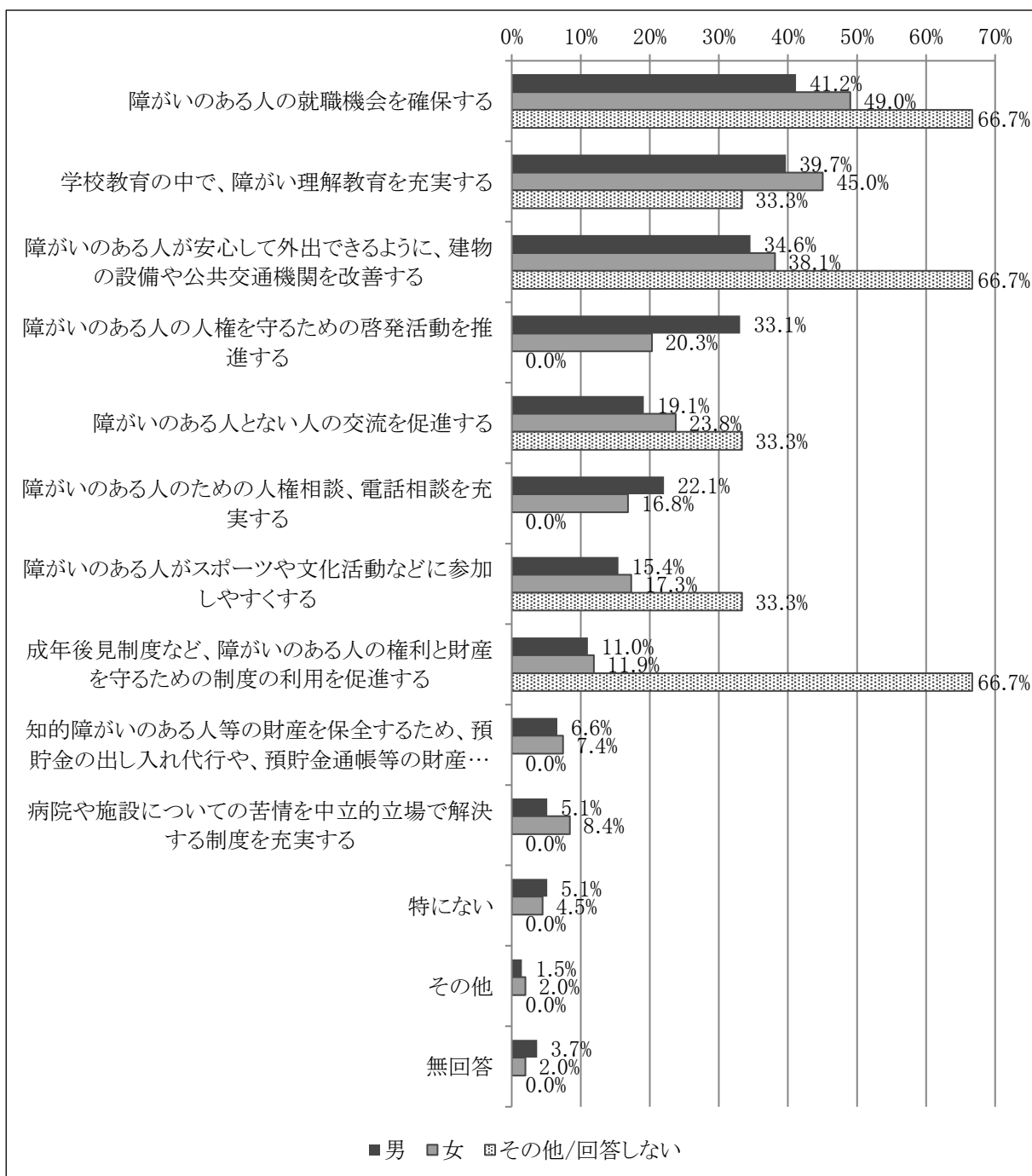
区 分	回答数	構成比
障がいのある人の人権を守るための啓発活動を推進する	86	25.2%
障がいのある人のための人権相談、電話相談を充実する	64	18.8%
障がいのある人の就職機会を確保する	157	46.0%
知的障がいのある人等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	24	7.0%
成年後見制度など、障がいのある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	41	12.0%
障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	126	37.0%
障がいのある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	57	16.7%
障がいのある人とない人の交流を促進する	75	22.0%
学校教育の中で、障がい理解教育を充実する	146	42.8%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	24	7.0%
その他	6	1.8%
特になし	16	4.7%
無回答	9	2.6%
計	831	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「障がいのある人の就職機会を確保する」が最も高く、次いで「学校教育の中で、障がい理解教育を充実する」と続いている。「障がいのある人の人権を守るための啓発活動を推進する」では、男性は女性に比べ、12.8ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳、50歳代、60歳以上は「障がいのある人の就職機会を確保する」、30歳代、40歳代は「学校教育の中で、障がい理解教育を充実する」が最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
障がいのある人の就職機会を確保する	50.0%	47.2%	43.8%	46.3%	44.8%
学校教育の中で、障がい理解教育を充実する	47.6%	51.4%	51.6%	43.3%	28.1%
障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	33.3%	47.2%	23.4%	34.3%	41.7%
障がいのある人の人権を守るための啓発活動を推進する	16.7%	20.8%	28.1%	23.9%	31.3%
障がいのある人とない人の交流を促進する	26.2%	26.4%	20.3%	23.9%	16.7%
障がいのある人のための人権相談、電話相談を充実する	9.5%	8.3%	28.1%	19.4%	24.0%
障がいのある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	28.6%	13.9%	9.4%	13.4%	20.8%
成年後見制度など、障がいのある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	4.8%	6.9%	17.2%	17.9%	11.5%
知的障がいのある人等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	4.8%	6.9%	6.3%	13.4%	4.2%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	4.8%	4.2%	10.9%	11.9%	4.2%
特にない	7.1%	4.2%	4.7%	6.0%	3.1%
その他	0.0%	1.4%	3.1%	4.5%	0.0%
無回答	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	7.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

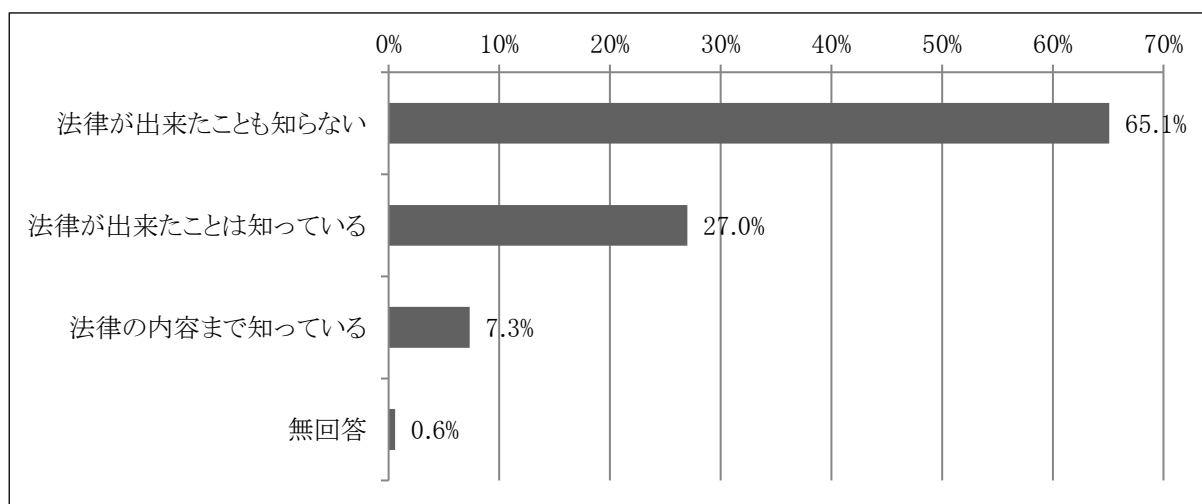
問18 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（※下記参照）を、ご存じですか。（○は1つ）

【全体】

「法律が出来たことも知らない」が65.1%と最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」が27.0%と続いている。

区 分	回答数	構成比
法律の内容まで知っている	25	7.3%
法律が出来たことは知っている	92	27.0%
法律が出来たことも知らない	222	65.1%
無回答	2	0.6%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



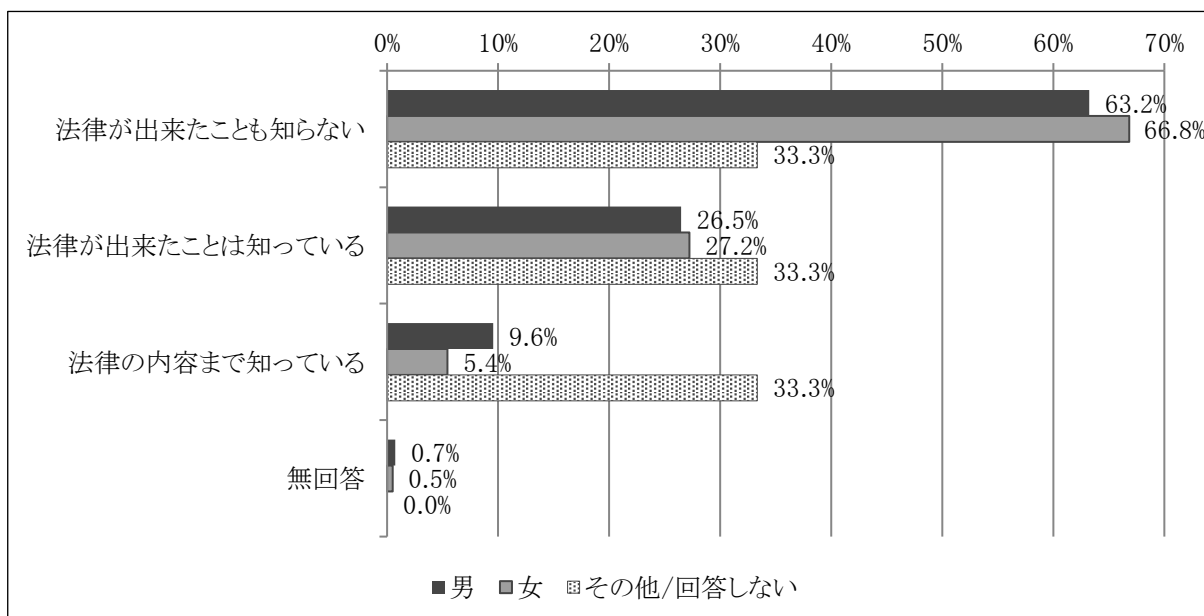
※ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」とは・・・

すべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的としています。この法律では、国・地方公共団体や会社・お店などの事業者が、障がいのある人に対して正当な理由がなく障がいを理由とした「不当な差別的扱い」を禁止するとともに、「合理的配慮の提供」に努めることなどについて規定されています。

【性別】

男女ともに「法律が出来たことも知らない」が、60%を超え最も高くなっている。

「法律が出来たことは知っている」、「法律の内容まで知っている」の合計は、男性36.1%、女性32.6%となっている。



【年代別】

各年代において「法律が出来たことも知らない」が最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」と続いている。「法律が出来たことは知っている」、「法律の内容まで知っている」の合計は、60歳以上が42.7%でと他の年代と比べ、最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
法律が出来たことも知らない	64.3%	66.7%	68.8%	73.1%	56.3%
法律が出来たことは知っている	28.6%	25.0%	20.3%	19.4%	37.5%
法律の内容まで知っている	7.1%	6.9%	10.9%	7.5%	5.2%
無回答	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.0%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

6 同和問題（部落差別）に対する意識

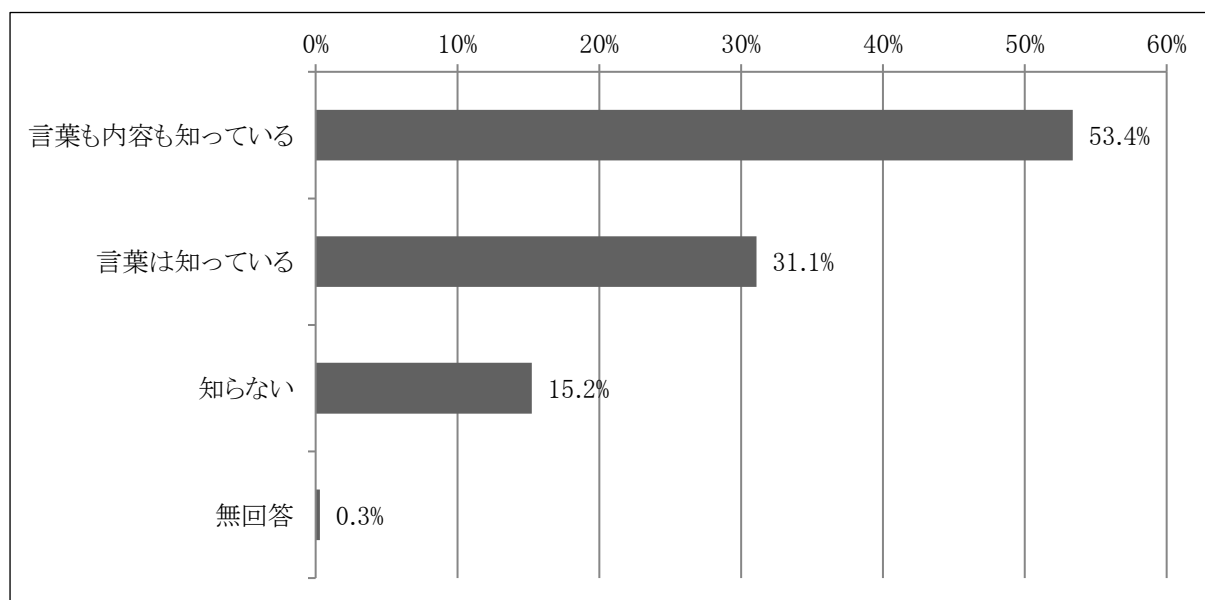
問19 あなたは、同和問題について知っていますか。（○は1つ）

【全体】

「言葉も内容も知っている」が53.4%と最も高く、次いで「言葉は知っている」が31.1%、「知らない」が15.2%と続いている。

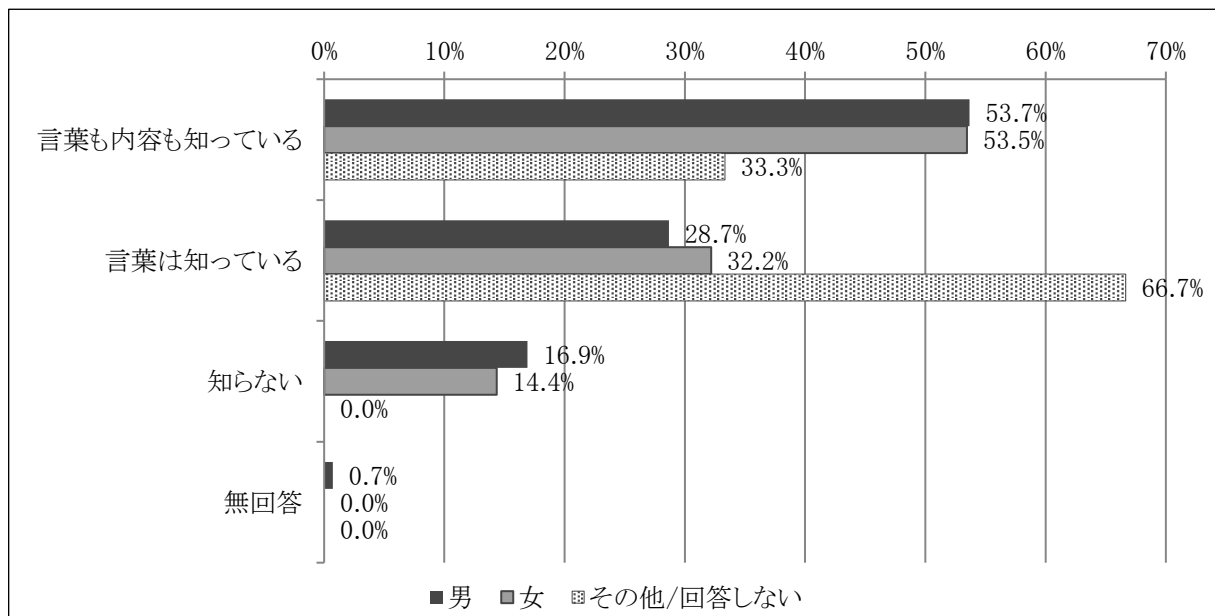
区 分	回答数	構成比
言葉も内容も知っている	182	53.4%
言葉は知っている	106	31.1%
知らない	52	15.2%
無回答	1	0.3%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「言葉も内容も知っている」が50%を超え最も高く、次いで「言葉は知っている」と続いている。



【年代別】

18～29歳は「知らない」が最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」と続いている。それ以外の年代は、「言葉も内容も知っている」が最も高く、次いで「言葉は知っている」と続いている。18～29歳では「言葉も内容も知っている」、「言葉は知っている」の合計が、「知らない」と比べ、2.4ポイント高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
言葉も内容も知っている	31.0%	43.1%	64.1%	64.2%	56.3%
言葉は知っている	19.0%	37.5%	29.7%	23.9%	37.5%
知らない	47.6%	19.4%	6.3%	11.9%	6.3%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

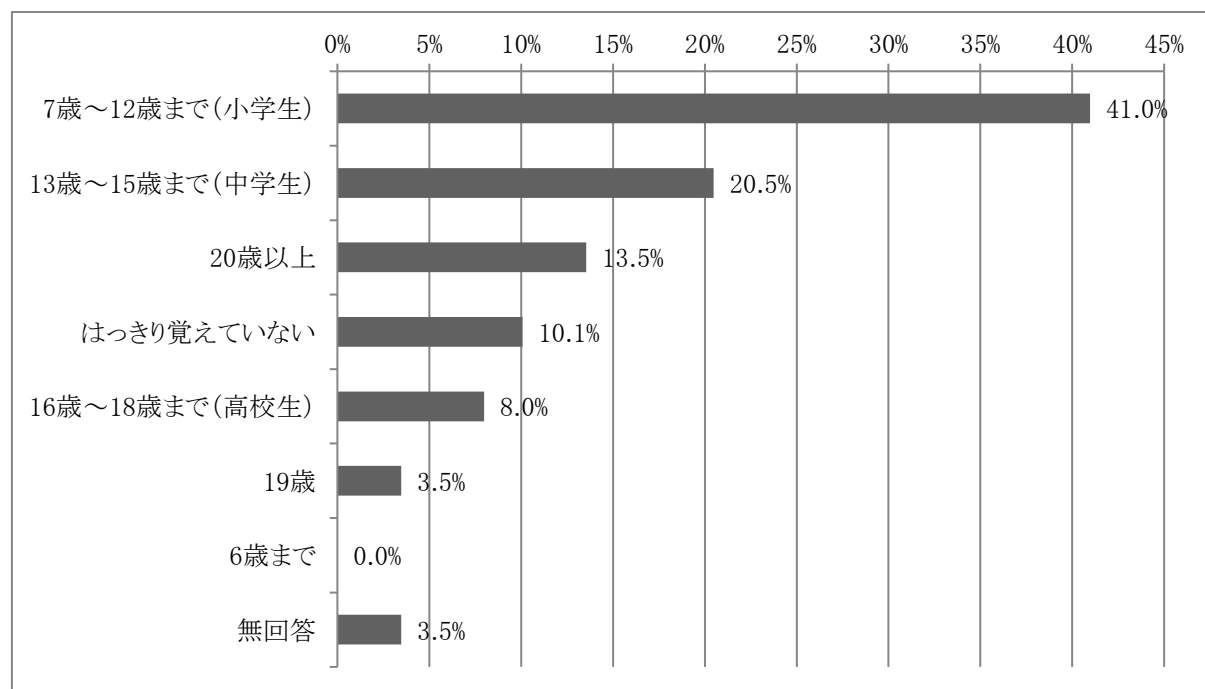
問19-1 あなたが同和問題について初めて知ったのは、いつ頃ですか。
 (○は1つ)

【全体】

「7歳～12歳まで(小学生)」が41.0%と最も高く、次いで「13歳～15歳まで(中学生)」が20.5%、「20歳以上」が13.5%と続いている。

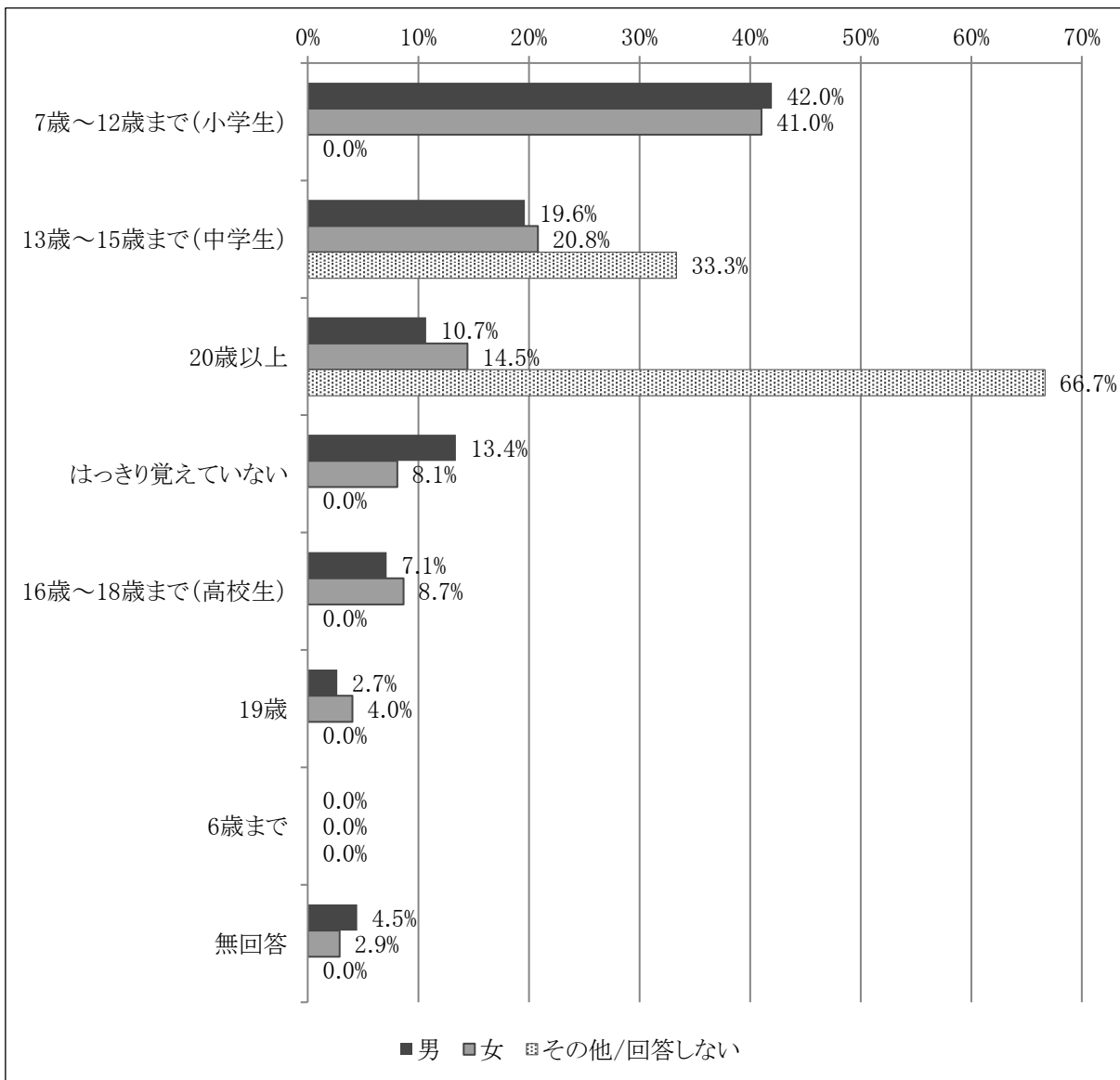
区 分	回答数	構成比
6歳まで	0	0.0%
7歳～12歳まで(小学生)	118	41.0%
13歳～15歳まで(中学生)	59	20.5%
16歳～18歳まで(高校生)	23	8.0%
19歳	10	3.5%
20歳以上	39	13.5%
はっきり覚えていない	29	10.1%
無回答	10	3.5%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「7歳～12歳まで（小学生）」が最も高く、次いで「13歳～15歳まで（中学生）」と続いている。「はっきり覚えていない」では、男性は女性に比べ、5.3ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳を除いた各年代において「7歳～12歳まで(小学生)」が最も高く、次いで30歳代を除いて「13歳～15歳まで(中学生)」と続いている。18～29歳は「13歳～15歳まで(中学生)」、「16歳～18歳まで(高校生)」が同ポイントと最も高く、次いで「7歳～12歳まで(小学生)」、「20歳以上」が同ポイントと続いている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
7歳～12歳まで（小学生）	19.0%	56.9%	58.3%	40.7%	24.4%
13歳～15歳まで（中学生）	23.8%	12.1%	23.3%	22.0%	22.2%
20歳以上	19.0%	6.9%	8.3%	18.6%	16.7%
はっきり覚えていない	9.5%	13.8%	5.0%	5.1%	14.4%
16歳～18歳まで（高校生）	23.8%	6.9%	3.3%	8.5%	7.8%
19歳	0.0%	0.0%	1.7%	5.1%	6.7%
6歳まで	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.8%	3.4%	0.0%	0.0%	7.8%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

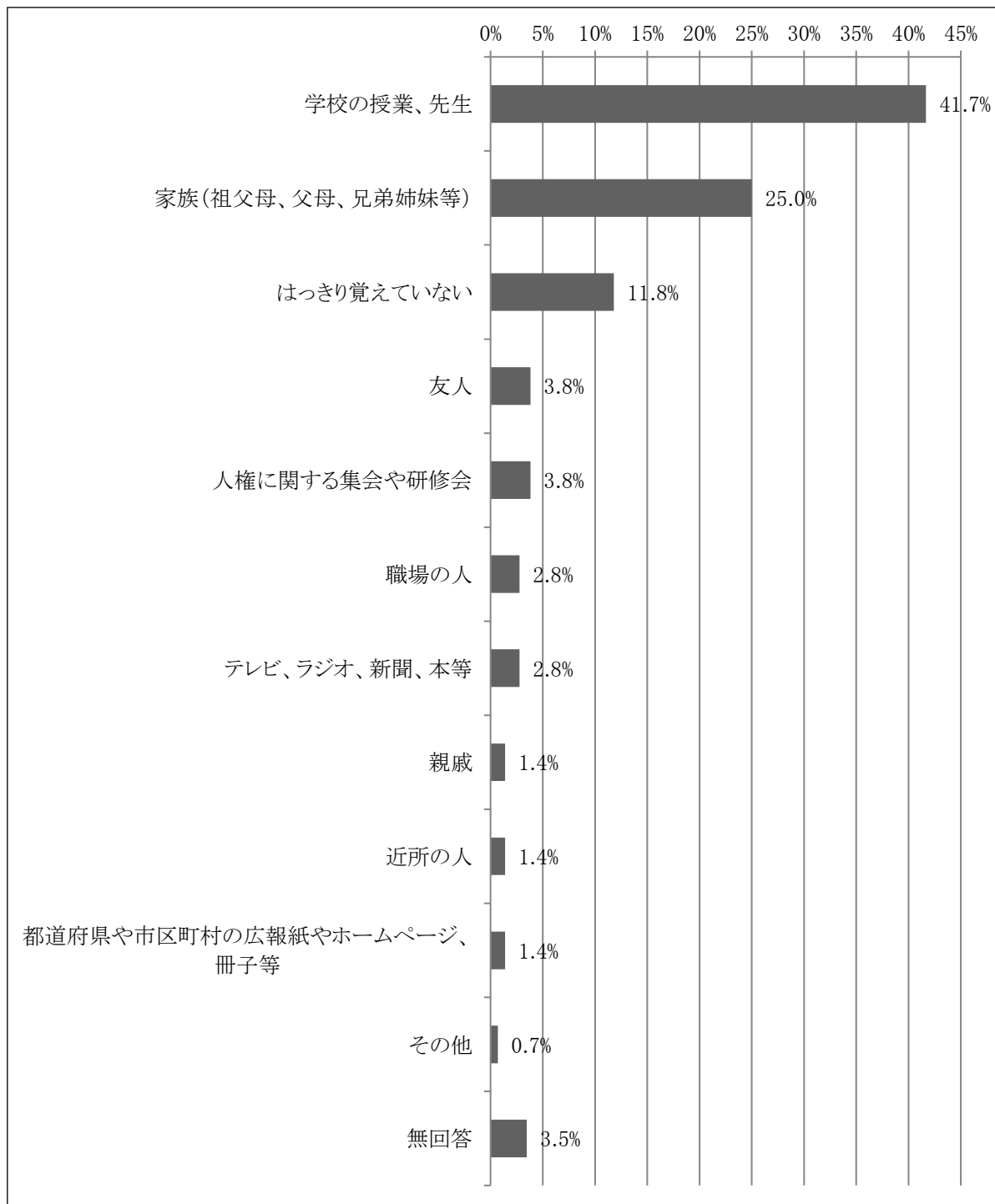
問19-2 あなたが同和問題について初めて知ったのは、誰（なに）からですか。
（〇は1つ）

【全体】

「学校の授業、先生」が41.7%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」が25.0%、「はっきり覚えていない」が11.8%と続いている。

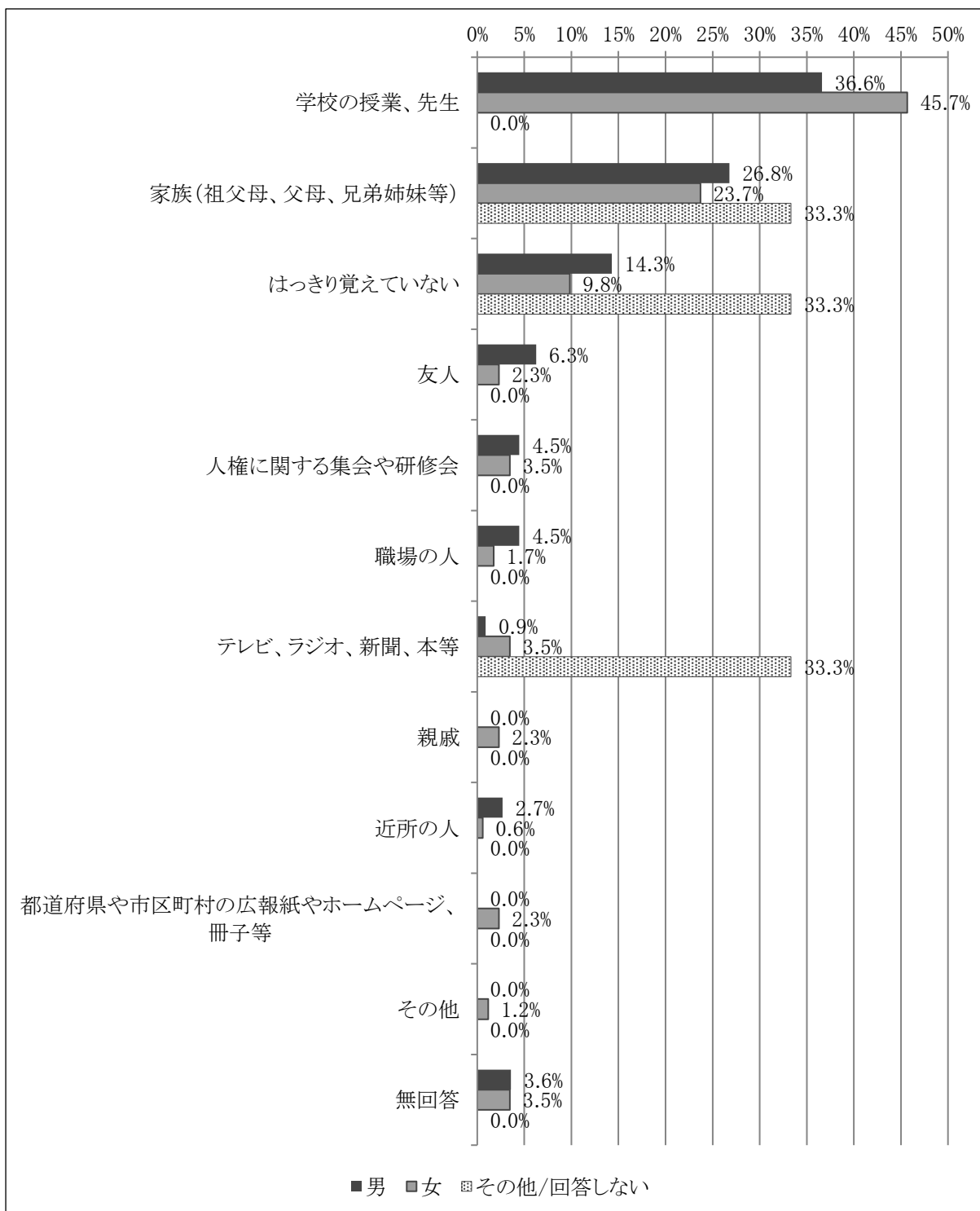
区 分	回答数	構成比
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）	72	25.0%
親戚	4	1.4%
近所の人	4	1.4%
職場の人	8	2.8%
友人	11	3.8%
学校の授業、先生	120	41.7%
テレビ、ラジオ、新聞、本等	8	2.8%
人権に関する集会や研修会	11	3.8%
都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等	4	1.4%
はっきり覚えていない	34	11.8%
その他	2	0.7%
無回答	10	3.5%
計	288	100.0%

（回答者数 288 人）



【性別】

男女ともに「学校の授業、先生」が最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」と続いている。「学校の授業、先生」では、女性は男性に比べ、9.1ポイント高くなっている。



【年代別】

60歳以上は、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」、それ以外の年代は「学校の授業、先生」が最も高くなっている。60歳以上では「学校の授業、先生」が、50歳代以下の年代と比べ、大きな差となっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
学校の授業、先生	57.1%	62.1%	55.0%	50.8%	10.0%
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）	28.6%	10.3%	25.0%	18.6%	37.8%
はっきり覚えていない	4.8%	12.1%	5.0%	11.9%	17.8%
友人	0.0%	1.7%	5.0%	5.1%	4.4%
人権に関する集会や研修会	0.0%	3.4%	3.3%	5.1%	4.4%
職場の人	4.8%	0.0%	3.3%	3.4%	3.3%
テレビ、ラジオ、新聞、本等	0.0%	5.2%	0.0%	3.4%	3.3%
親戚	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%
近所の人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%
都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	3.3%
その他	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%
無回答	4.8%	5.2%	0.0%	0.0%	6.7%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

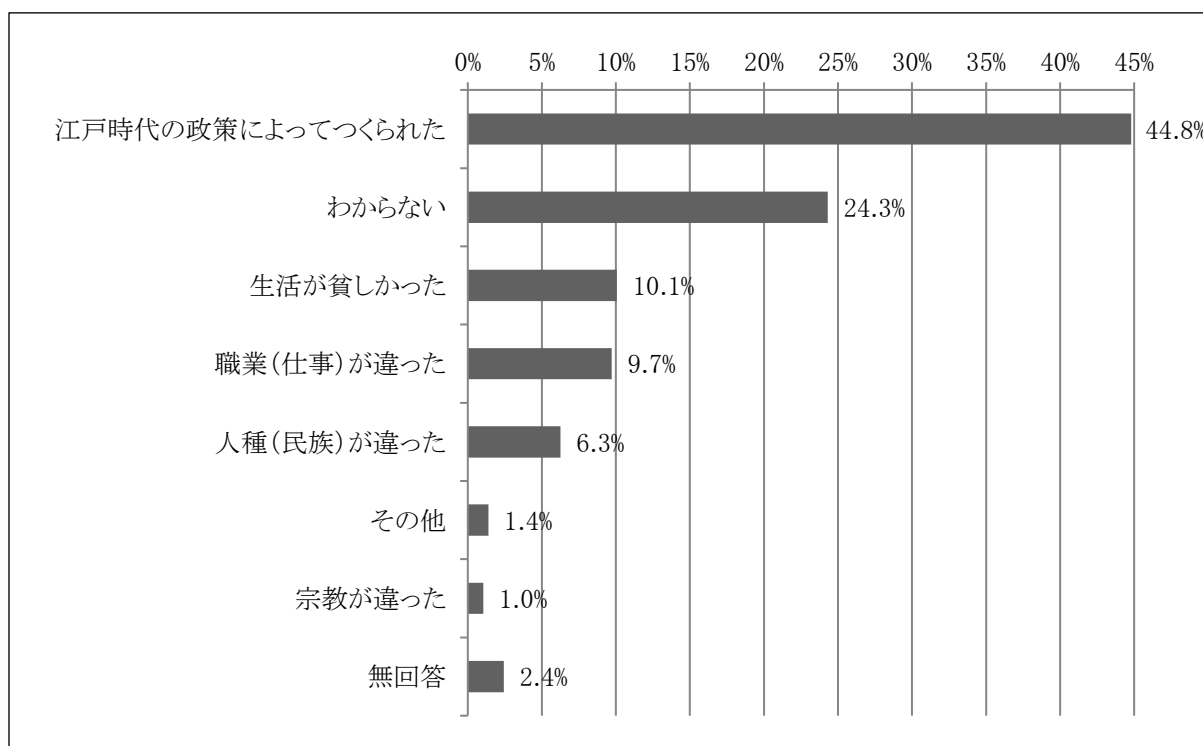
問19-3 あなたは同和地区の起こりについて、どのように受けとめていますか。
 (○は1つ)

【全体】

「江戸時代の政策によってつくられた」が44.8%と最も高く、次いで「わからない」が24.3%と続いている。

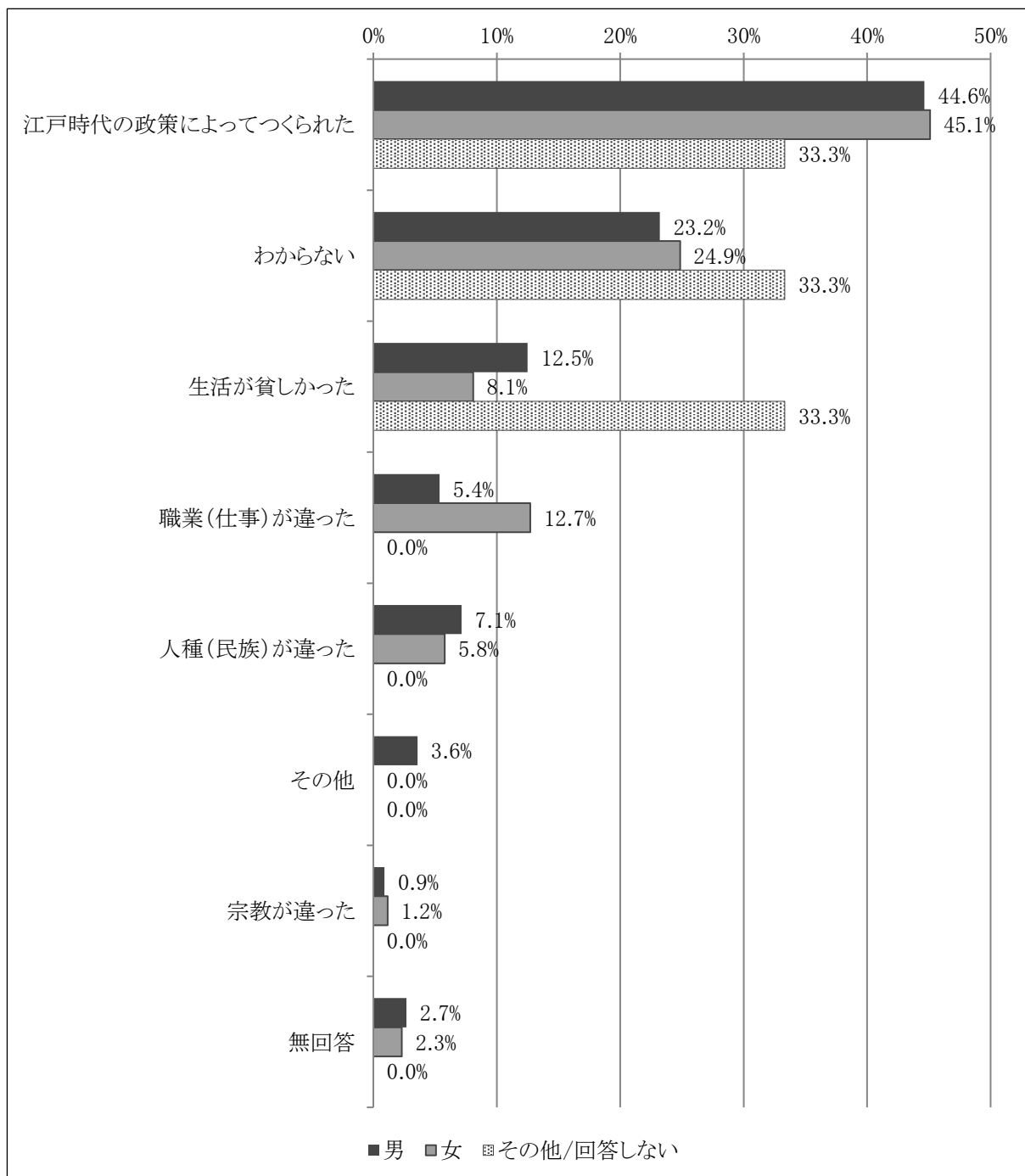
区 分	回答数	構成比
人種（民族）が違った	18	6.3%
宗教が違った	3	1.0%
職業（仕事）が違った	28	9.7%
生活が貧しかった	29	10.1%
江戸時代の政策によってつくられた	129	44.8%
わからない	70	24.3%
その他	4	1.4%
無回答	7	2.4%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「江戸時代の政策によってつくられた」が最も高く、次いで「わからない」と続いている。



【年代別】

各年代において「江戸時代の政策によってつくられた」が最も高く、次いで「わからない」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳 以上
江戸時代の政策によってつくられた	33.3%	48.3%	48.3%	40.7%	45.6%
わからない	28.6%	20.7%	26.7%	20.3%	26.7%
生活が貧しかった	0.0%	15.5%	8.3%	16.9%	5.6%
職業（仕事）が違った	19.0%	5.2%	10.0%	5.1%	13.3%
人種（民族）が違った	9.5%	6.9%	3.3%	10.2%	4.4%
その他	0.0%	0.0%	1.7%	5.1%	0.0%
宗教が違った	4.8%	0.0%	0.0%	1.7%	1.1%
無回答	4.8%	3.4%	1.7%	0.0%	3.3%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

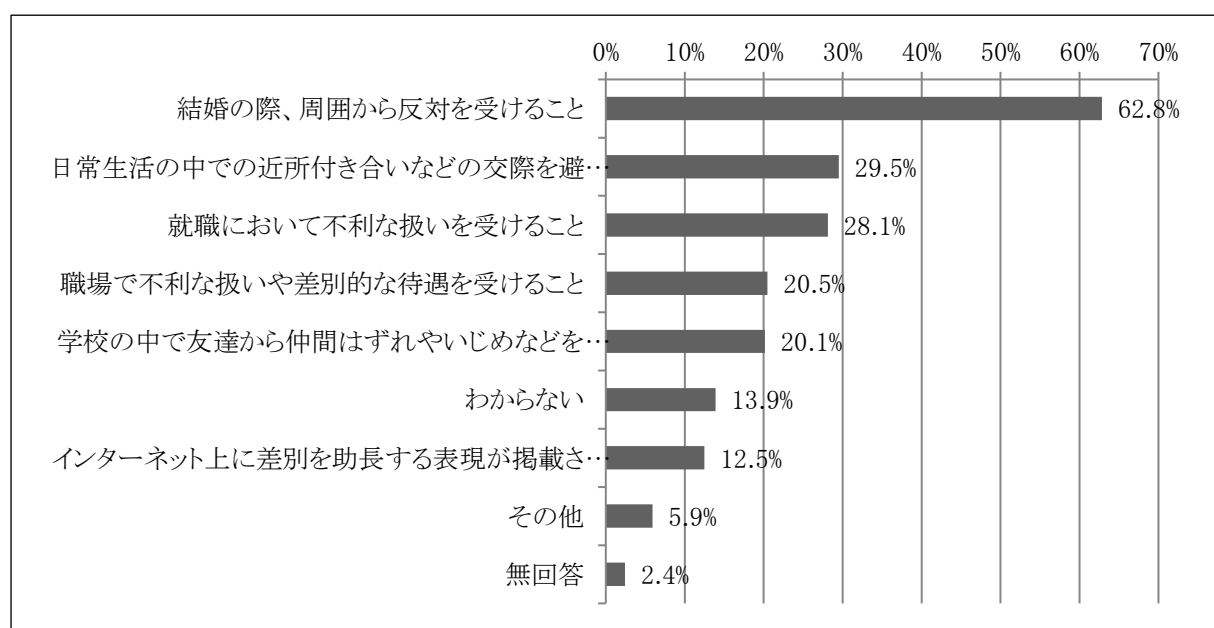
問19-4 あなたは、同和問題に関する事柄で、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

【全体】

「結婚の際、周囲から反対を受けること」が62.8%と最も高く、次いで「日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること」が29.5%、「就職において不利な扱いを受けること」が28.1%と続いている。

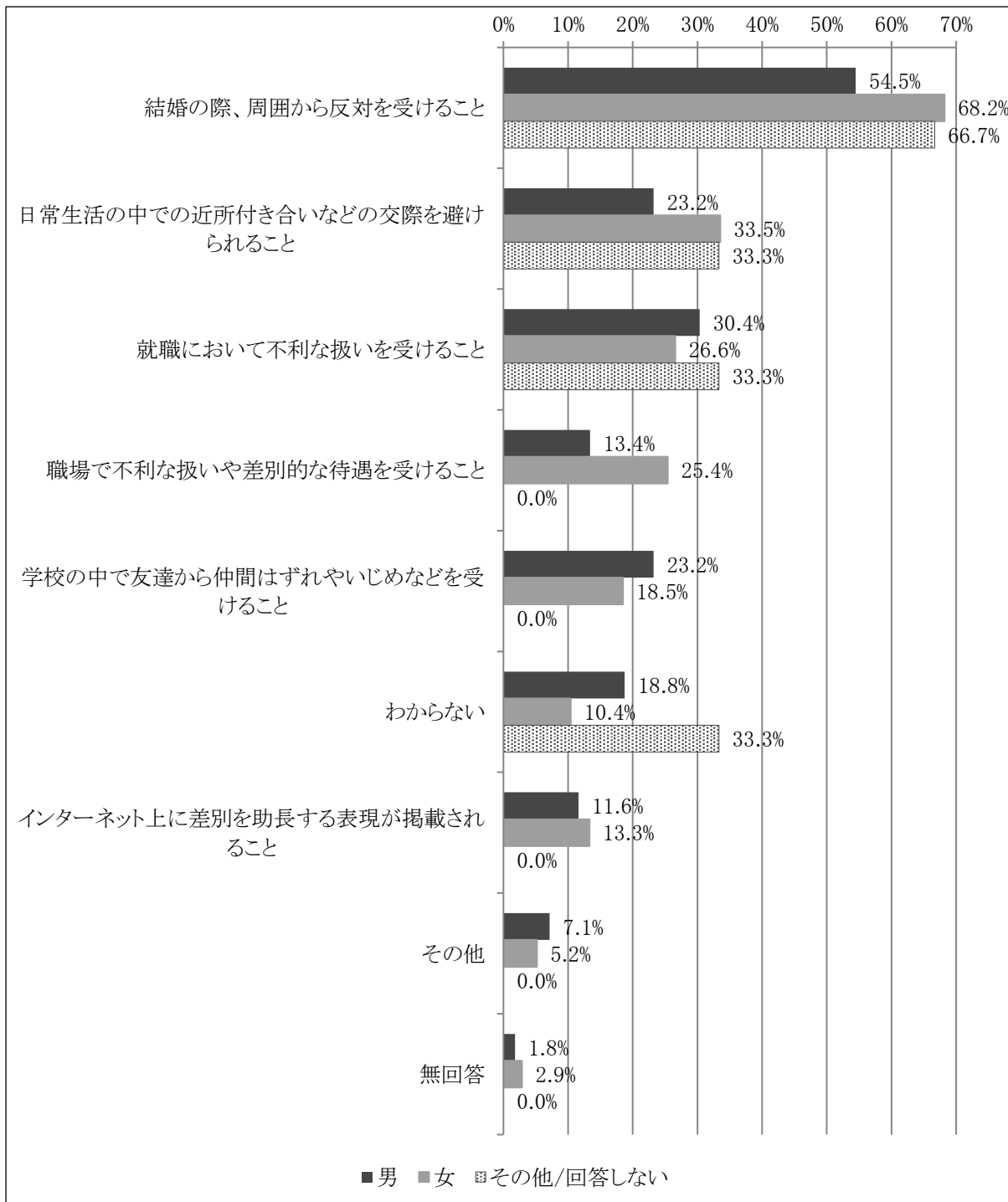
区 分	回答数	構成比
就職において不利な扱いを受けること	81	28.1%
結婚の際、周囲から反対を受けること	181	62.8%
日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること	85	29.5%
職場で不利な扱いや差別的な待遇を受けること	59	20.5%
学校の中で友達から仲間はずれやいじめなどを受けること	58	20.1%
インターネット上に差別を助長する表現が掲載されること	36	12.5%
わからない	40	13.9%
その他	17	5.9%
無回答	7	2.4%
計	564	

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「結婚の際、周囲から反対を受けること」が最も高く、次いで男性では「就職において不利な扱いを受けること」、女性では「日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること」と続いている。



【年代別】

各年代において「結婚の際、周囲から反対を受けること」が最も高く、次いで18～29歳、30歳代、50歳代は「日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること」、40歳代、60歳以上は「就職において不利な扱いを受けること」と続いている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
結婚の際、周囲から反対を受けること	57.1%	62.1%	61.7%	62.7%	65.6%
日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること	42.9%	29.3%	31.7%	33.9%	22.2%
就職において不利な扱いを受けること	33.3%	25.9%	38.3%	25.4%	23.3%
職場で不利な扱いや差別的な待遇を受けること	28.6%	24.1%	18.3%	25.4%	14.4%
学校の中で友達から仲間はずれやいじめなどを受けること	23.8%	22.4%	16.7%	27.1%	15.6%
わからない	4.8%	15.5%	15.0%	11.9%	15.6%
インターネット上に差別を助長する表現が掲載されること	19.0%	20.7%	10.0%	16.9%	4.4%
その他	0.0%	3.4%	3.3%	8.5%	8.9%
無回答	0.0%	3.4%	1.7%	1.7%	3.3%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

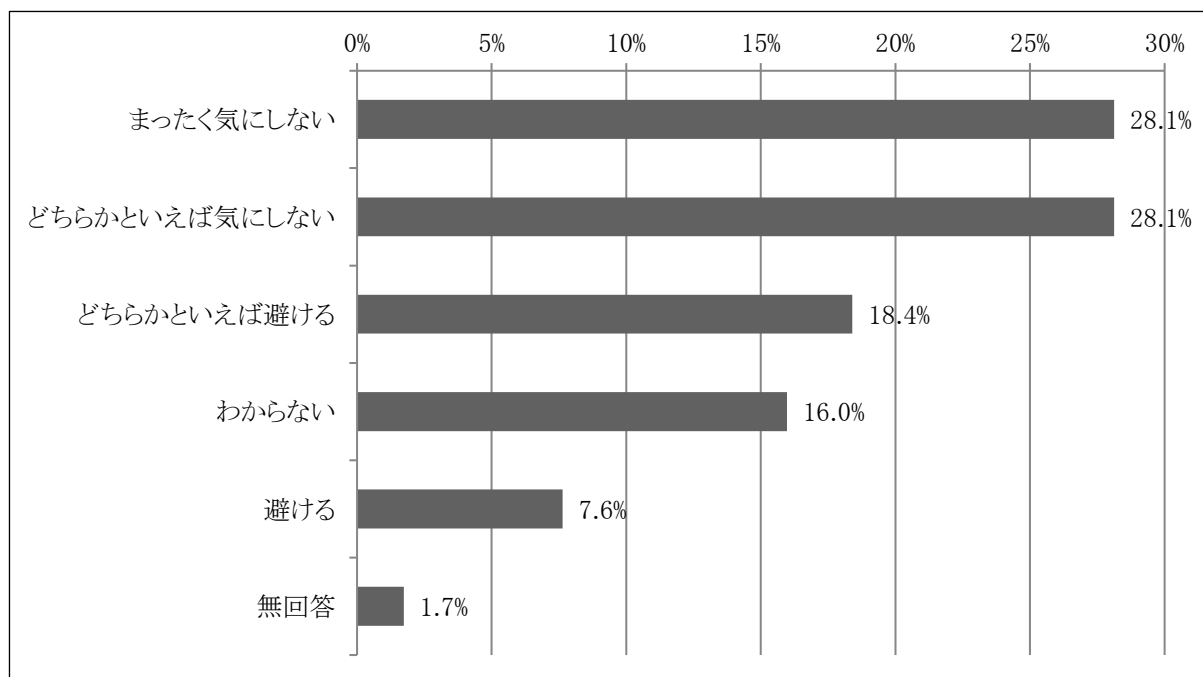
問19-5 あなたは、住宅や生活環境を選ぶ際に、同和地区であった場合、避ける
ことがあると思いますか。（〇は1つ）

【全体】

「まったく気にしない」と「どちらかといえば気にしない」が28.1%で同ポイントと最も高く、次いで、「どちらかといえば避ける」が18.4%と続いている。

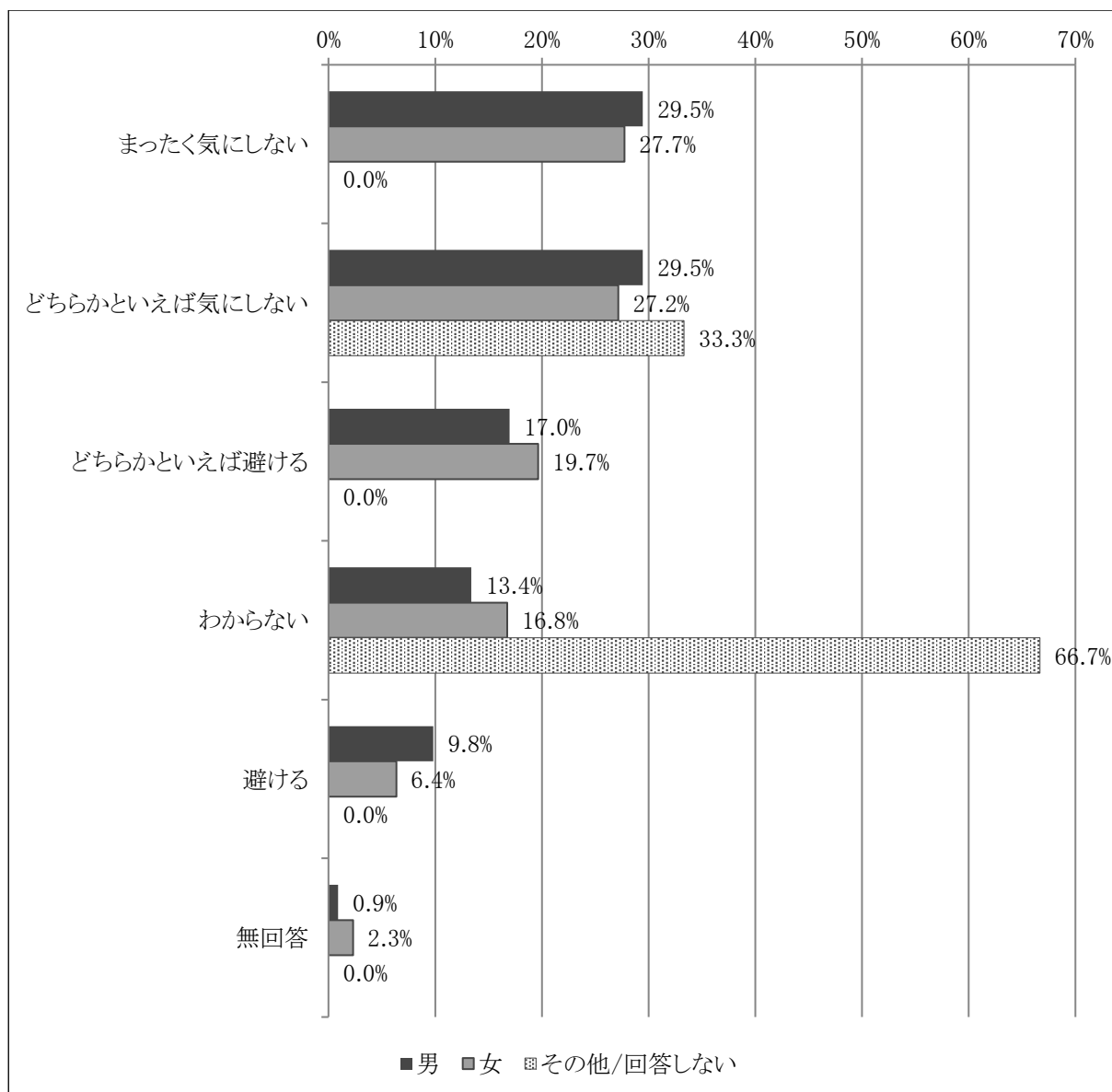
区 分	回答数	構成比
まったく気にしない	81	28.1%
どちらかといえば気にしない	81	28.1%
どちらかといえば避ける	53	18.4%
避ける	22	7.6%
わからない	46	16.0%
無回答	5	1.7%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「まったく気にしない」、「どちらかといえば気にしない」が30%程度であり、次いで、「どちらかといえば避ける」と続いている。



【年代別】

18～29歳、30歳代は「まったく気にしない」、40歳代、50歳代、60歳以上は「どちらかといえば気にしない」が最も高くなっている。18～29歳の「まったく気にしない」、「どちらかといえば気にしない」は、50歳代と比べ、25.7ポイント高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
まったく気にしない	38.1%	34.5%	25.0%	22.0%	27.8%
どちらかといえば気にしない	33.3%	29.3%	28.3%	23.7%	28.9%
どちらかといえば避ける	9.5%	12.1%	21.7%	22.0%	20.0%
わからない	14.3%	13.8%	15.0%	16.9%	17.8%
避ける	4.8%	6.9%	8.3%	15.3%	3.3%
無回答	0.0%	3.4%	1.7%	0.0%	2.2%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

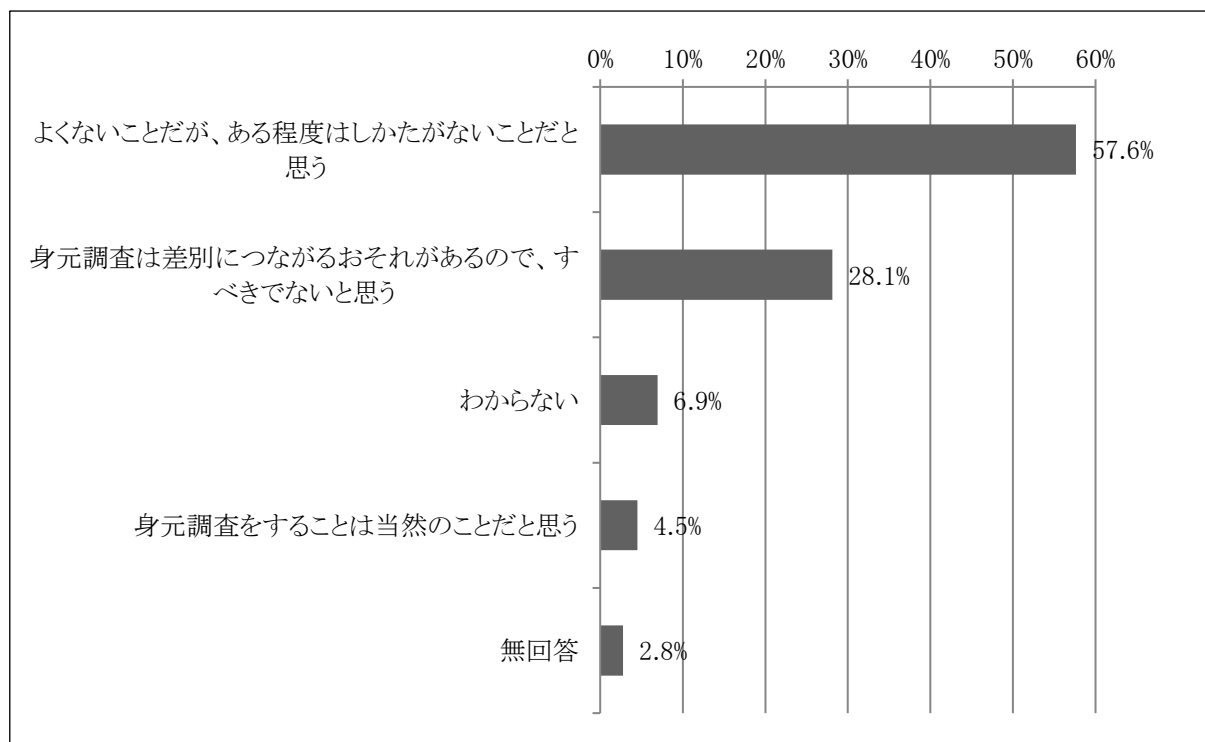
問19-6 あなたは、結婚や就職時の身元調査について、どのようにお考えですか。
 (○は1つ)

【全体】

「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が57.6%と最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」が28.1%と続いている。

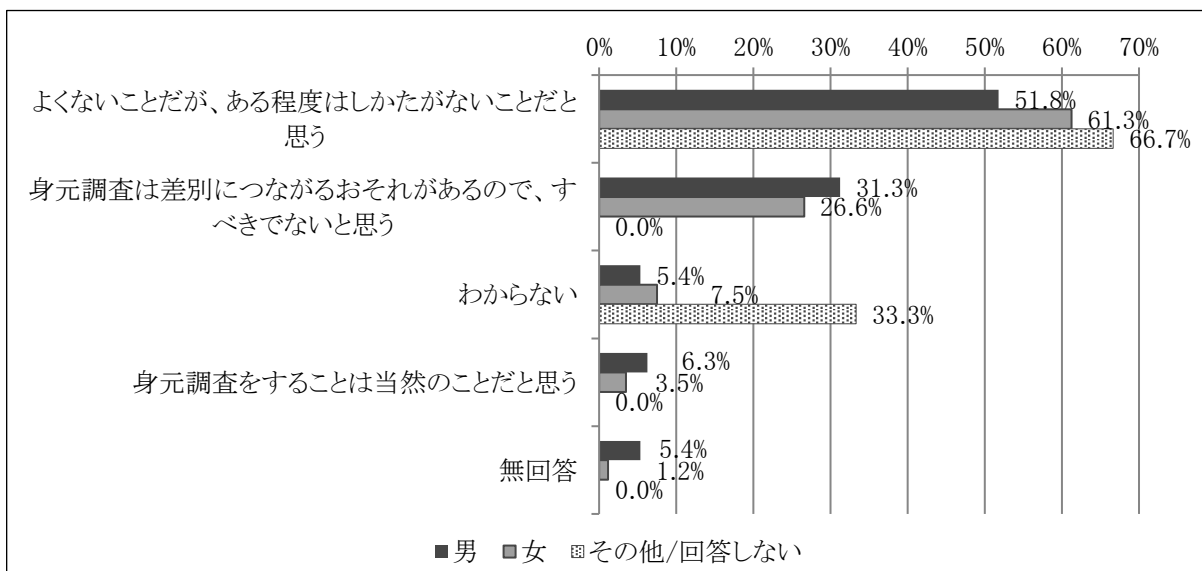
区 分	回答数	構成比
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う	81	28.1%
よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う	166	57.6%
身元調査をすることは当然のことだと思う	13	4.5%
わからない	20	6.9%
無回答	8	2.8%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が最も高く、次いで、「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」と続いている。



【年代別】

各年代において「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が50%を超え最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」と続いている。18～29歳では「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」が42.9%と、他の年代と比べ、最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う	52.4%	65.5%	63.3%	54.2%	52.2%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う	42.9%	24.1%	21.7%	30.5%	30.0%
わからない	0.0%	5.2%	8.3%	10.2%	6.7%
身元調査をすることは当然のことだと思う	0.0%	3.4%	6.7%	3.4%	5.6%
無回答	4.8%	1.7%	0.0%	1.7%	5.6%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

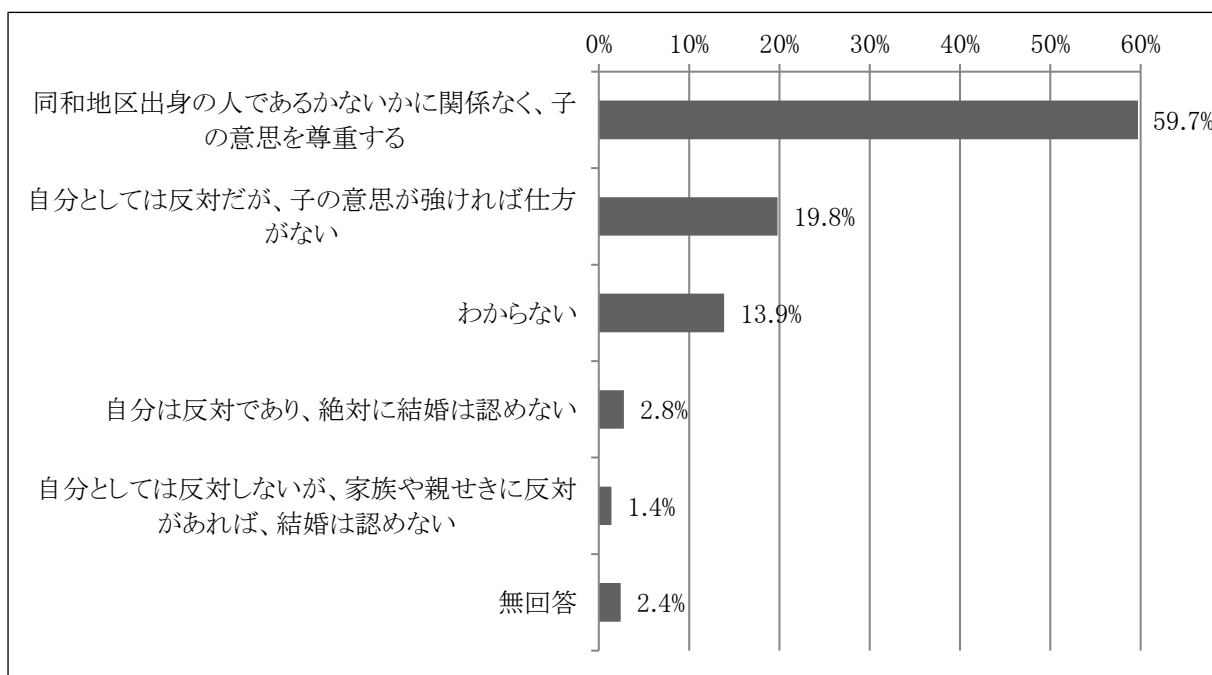
問19-7 あなたのお子さんが同和地区出身の人と結婚しようとした場合、あなたはどのように対応しますか。（○は1つ）

【全体】

「同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」が59.7%と最も高く、次いで「自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない」が19.8%と続いている。

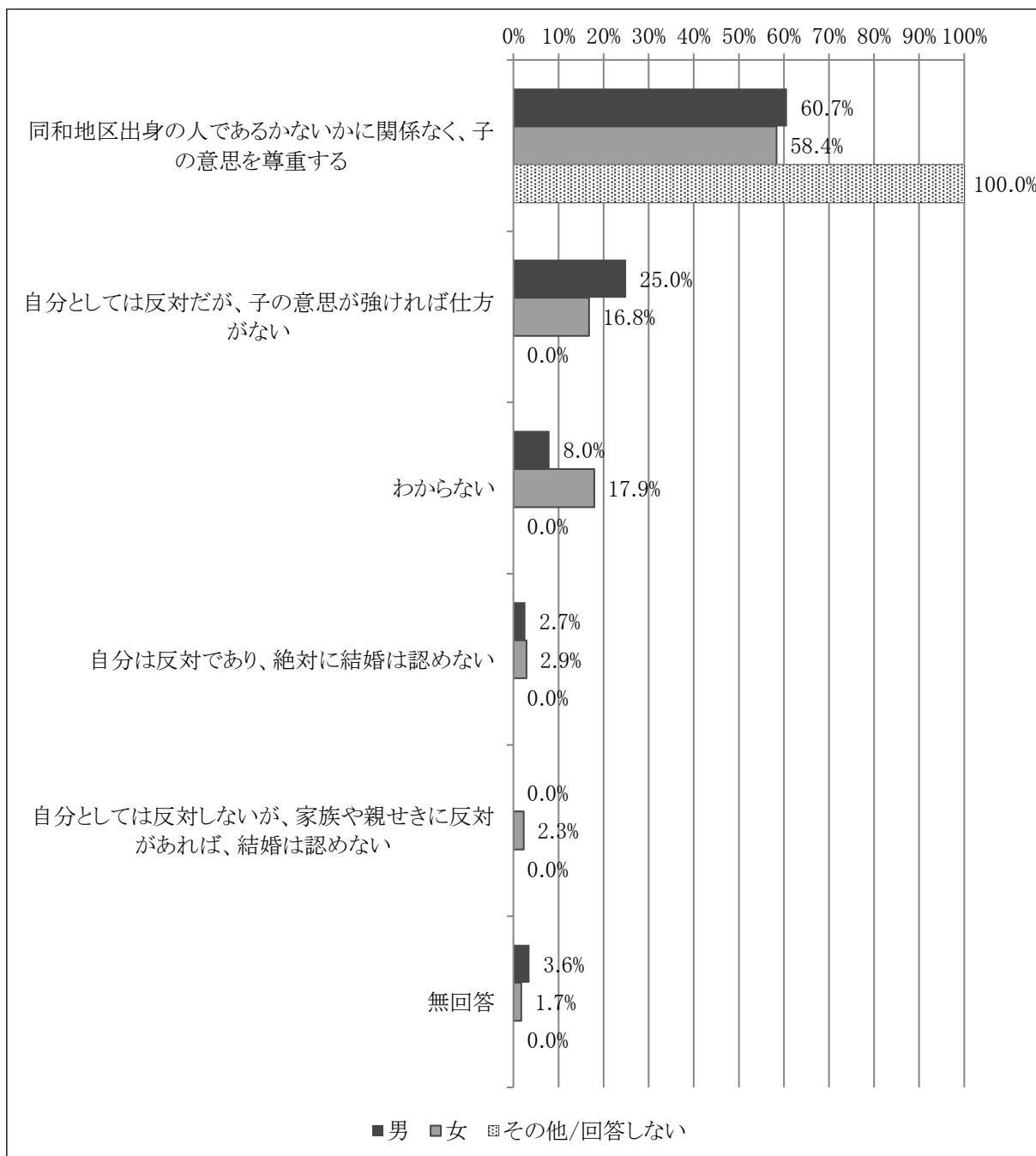
区 分	回答数	構成比
同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する	172	59.7%
自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない	57	19.8%
自分としては反対しないが、家族や親せきに反対があれば、結婚は認めない	4	1.4%
自分は反対であり、絶対に結婚は認めない	8	2.8%
わからない	40	13.9%
無回答	7	2.4%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」が最も高く、次いで男性では「自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない」が25.0%、女性では「わからない」が17.9%と続いている。



【年代別】

各年代において「同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」が50%を超え最も高く、次いで18～29歳、30歳代は「わからない」、40歳代、50歳代、60歳以上は「自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない」と続いている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する	76.2%	65.5%	61.7%	50.8%	56.7%
自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない	9.5%	10.3%	20.0%	27.1%	23.3%
わからない	14.3%	19.0%	13.3%	15.3%	10.0%
自分は反対であり、絶対に結婚は認めない	0.0%	0.0%	5.0%	3.4%	3.3%
自分としては反対しないが、家族や親せきに反対があれば、結婚は認めない	0.0%	3.4%	0.0%	3.4%	0.0%
無回答	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	6.7%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

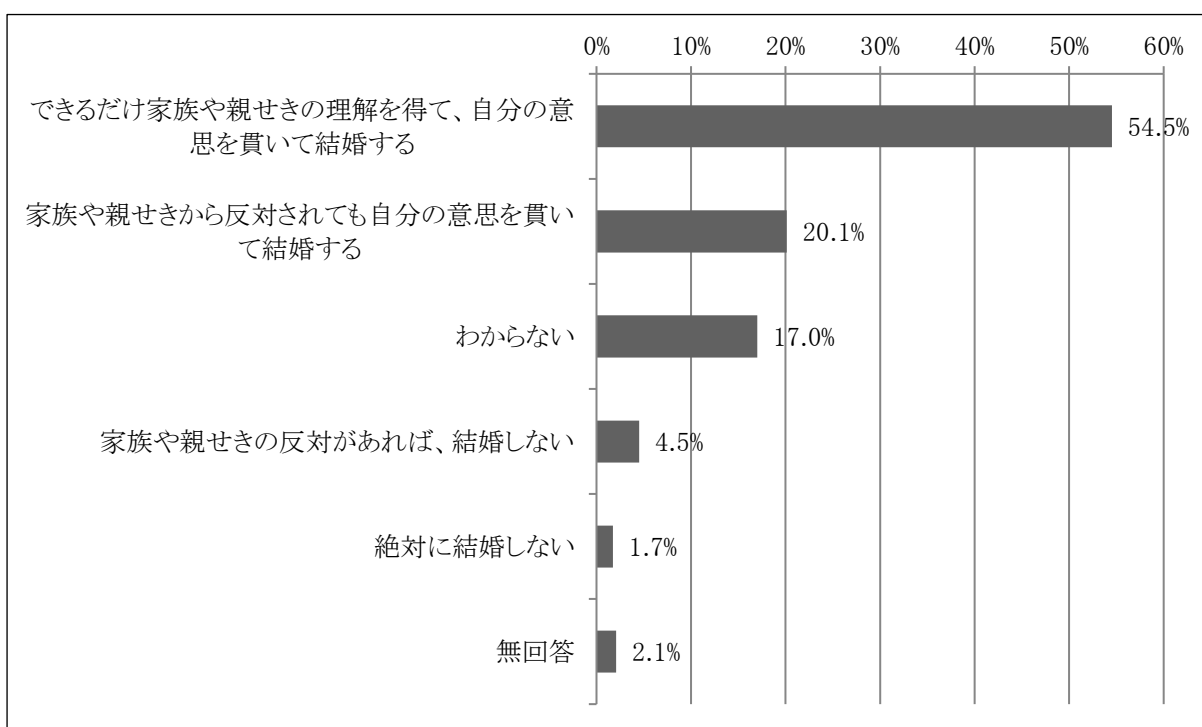
問19-8 あなたが結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であるとわかった場合、あなたはどうかされますか。（〇は1つ）

【全体】

「できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」が54.5%と最も高く、次いで「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」が20.1%と続いている。

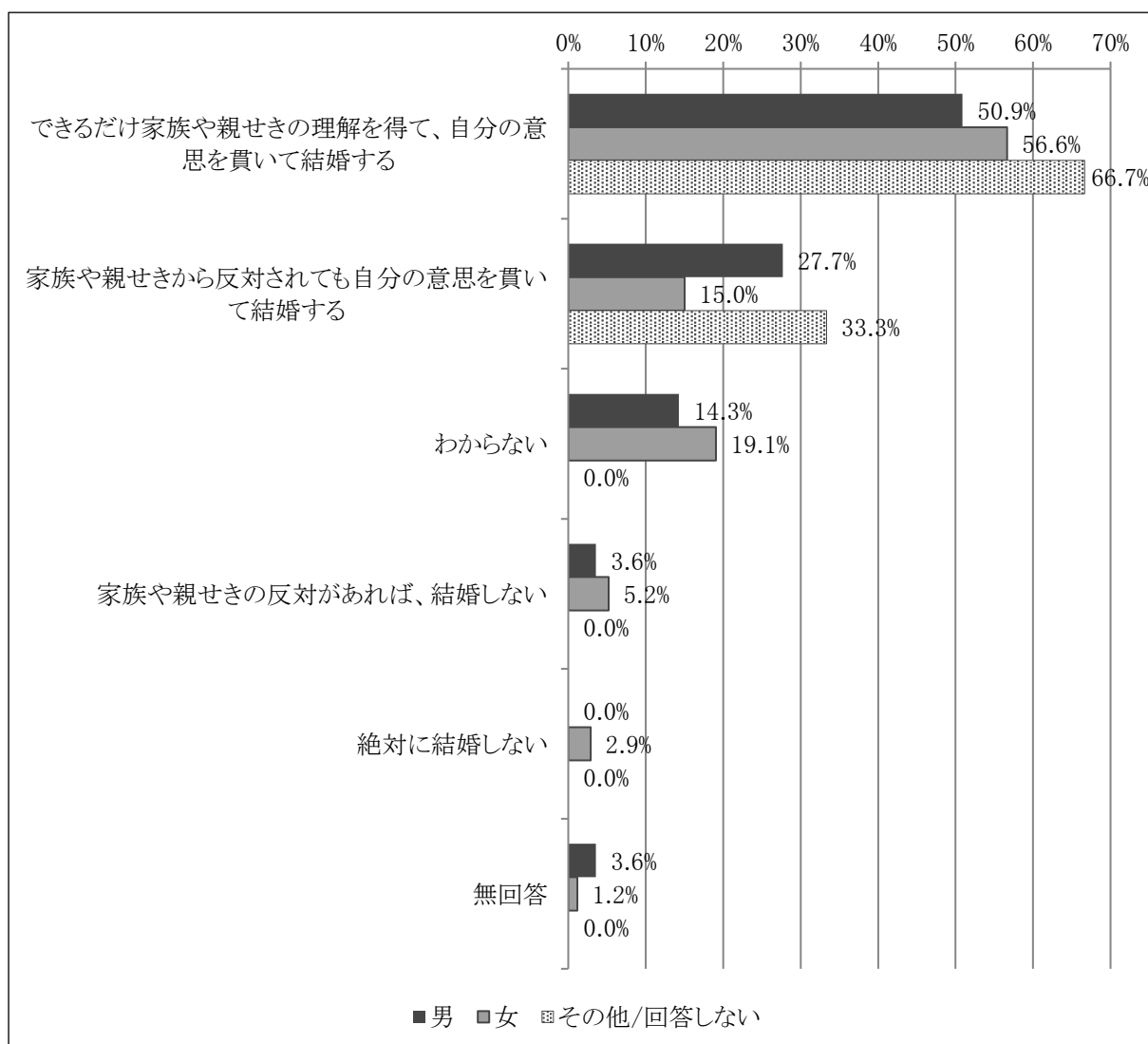
区 分	回答数	構成比
家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する	58	20.1%
できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する	157	54.5%
家族や親せきの反対があれば、結婚しない	13	4.5%
絶対に結婚しない	5	1.7%
わからない	49	17.0%
無回答	6	2.1%
計	288	100.0%

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」が最も高く、次いで男性では「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」、女性では「わからない」が続いている。「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」では、男性は女性に比べ、12.7ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」が最も高く、次いで、18～29歳、40歳代、60歳以上は「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」、30歳代は「わからない」と続いている。50歳代は「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」と「わからない」が同ポイントとなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する	57.1%	55.2%	60.0%	47.5%	54.4%
家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する	28.6%	17.2%	20.0%	22.0%	18.9%
わからない	14.3%	22.4%	10.0%	22.0%	15.6%
家族や親せきの反対があれば、結婚しない	0.0%	3.4%	5.0%	6.8%	4.4%
絶対に結婚しない	0.0%	0.0%	5.0%	1.7%	1.1%
無回答	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	5.6%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

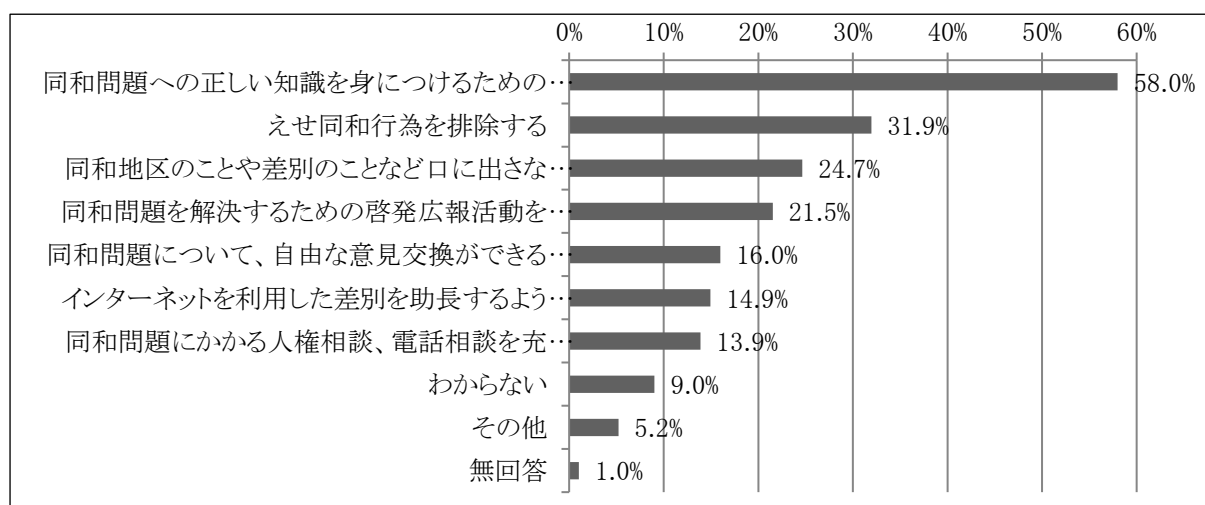
問19-9 あなたは、同和問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「同和問題への正しい知識を身につけるための学校教育を充実する」が58.0%と最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」が31.9%、「同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく」が24.7%と続いている。

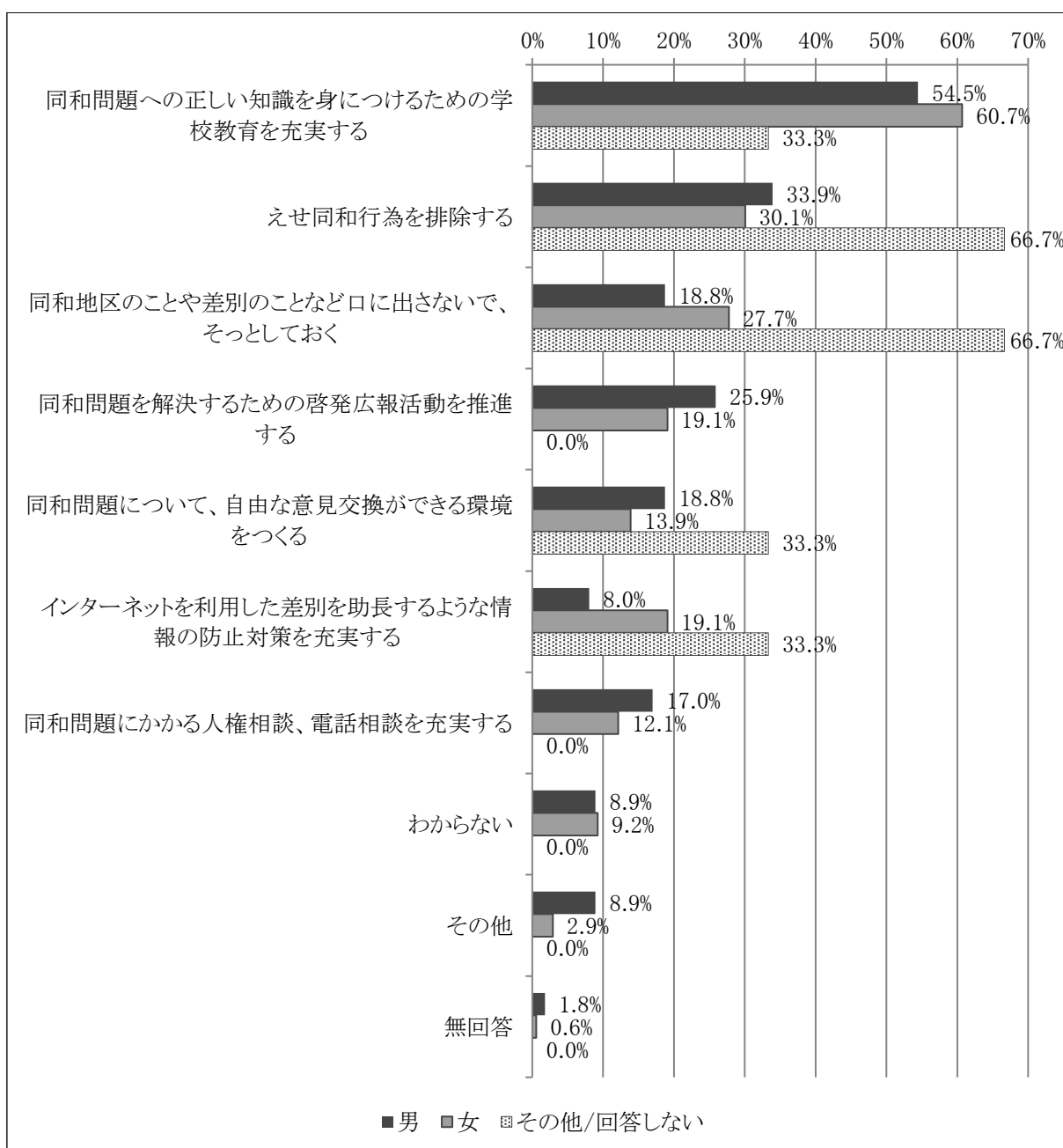
区 分	回答数	構成比
同和問題を解決するための啓発広報活動を推進する	62	21.5%
同和問題への正しい知識を身につけるための学校教育を充実する	167	58.0%
同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実する	40	13.9%
えせ同和行為を排除する	92	31.9%
同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	46	16.0%
インターネットを利用した差別を助長するような情報の防止対策を充実する	43	14.9%
同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく	71	24.7%
わからない	26	9.0%
その他	15	5.2%
無回答	3	1.0%
計	565	

(回答者数 288 人)



【性別】

男女ともに「同和問題への正しい知識を身につけるための学校教育を充実する」が最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」と続いている。「インターネットを利用した差別を助長するような情報の防止対策を充実する」では、女性は男性に比べ、11.1ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「同和問題への正しい知識を身につけるための学校教育を充実する」が最も高く、次いで、60歳以上を除いた年代では「えせ同和行為を排除する」と続いている。60歳以上は「同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく」、「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」が同ポイントと続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
同和問題への正しい知識を身につけるための学校教育を充実する	66.7%	63.8%	61.7%	61.0%	47.8%
えせ同和行為を排除する	42.9%	31.0%	41.7%	30.5%	24.4%
同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく	19.0%	17.2%	30.0%	27.1%	25.6%
同和問題を解決するための啓発広報活動を推進する	33.3%	22.4%	18.3%	15.3%	24.4%
同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	9.5%	13.8%	6.7%	15.3%	25.6%
インターネットを利用した差別を助長するような情報の防止対策を充実する	9.5%	25.9%	21.7%	15.3%	4.4%
同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実する	9.5%	6.9%	11.7%	16.9%	18.9%
わからない	9.5%	10.3%	6.7%	8.5%	10.0%
その他	0.0%	3.4%	5.0%	5.1%	7.8%
無回答	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	2.2%
回答者数（人）	21	58	60	59	90

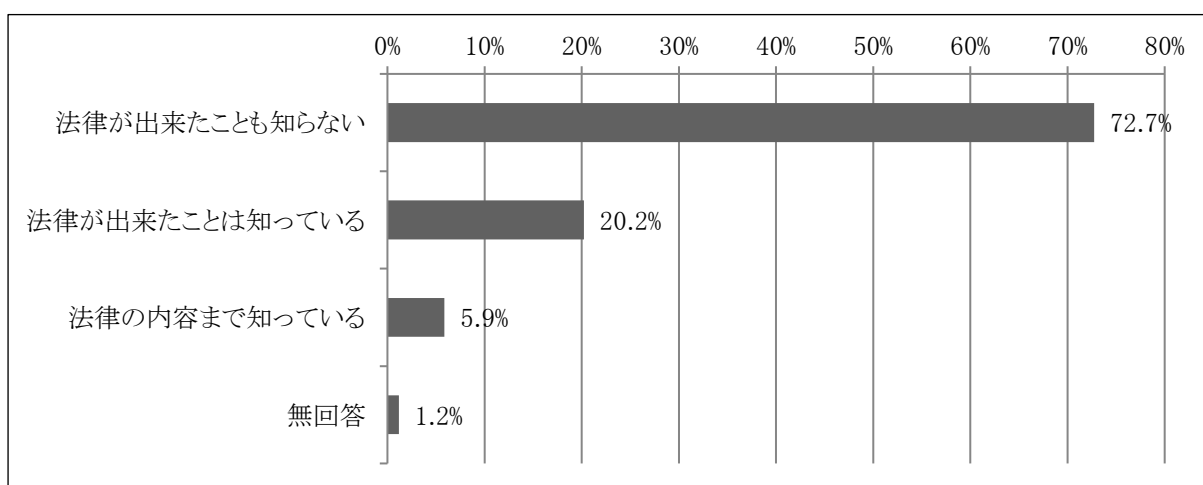
問20 平成28年12月に、「部落差別の解消の推進に関する法律」（※下記参照）が施行されました。あなたは、この法律をご存じですか。（〇は1つ）

【全体】

「法律が出来たことも知らない」が72.7%と最も高く、次いで「法律ができたことは知っている」が20.2%、「法律の内容まで知っている」が5.9%と続いている。

区 分	回答数	構成比
法律の内容まで知っている	20	5.9%
法律が出来たことは知っている	69	20.2%
法律が出来たことも知らない	248	72.7%
無回答	4	1.2%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)

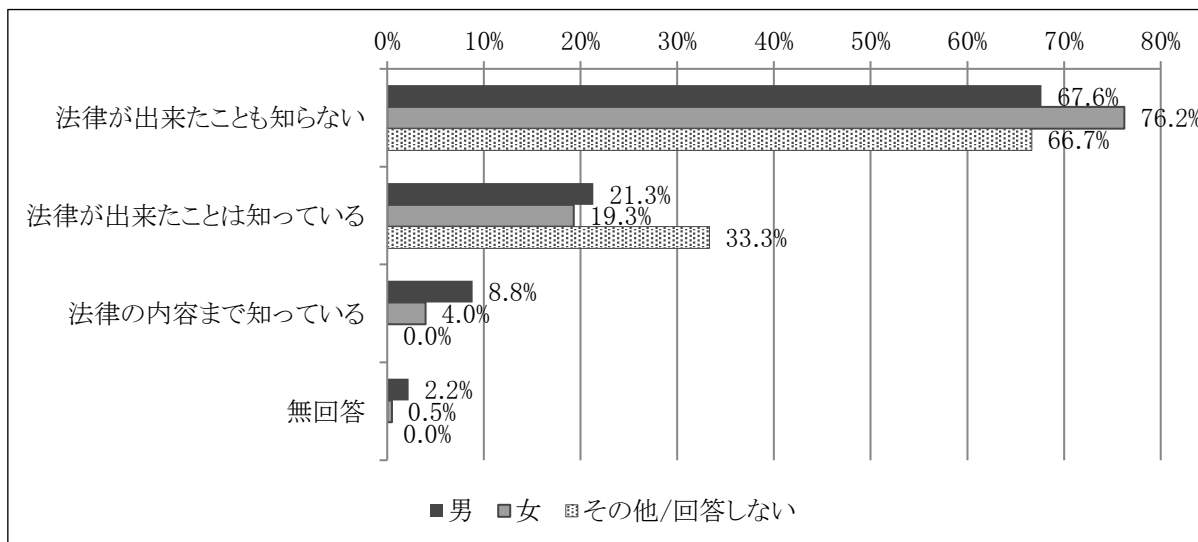


※「部落差別の解消の推進に関する法律」とは・・・

現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、部落差別のない社会を実現することを目的としています。この法律では、部落差別は許されないものであるとの認識のもと、国や地方公共団体の責務や相談体制の充実、教育及び啓発、部落差別の実態に係る調査などについて規定されています。

【性別】

男女ともに「法律が出来たことも知らない」が最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」と続いている。



【年代別】

各年代において「法律が出来たことも知らない」が最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」と続いている。60歳以上では「法律が出来たことは知っている」が他の年代と比べ、最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
法律が出来たことも知らない	78.6%	80.6%	78.1%	83.6%	53.1%
法律が出来たことは知っている	14.3%	11.1%	17.2%	14.9%	35.4%
法律の内容まで知っている	4.8%	8.3%	4.7%	1.5%	8.3%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

7 外国人の人権に対する意識

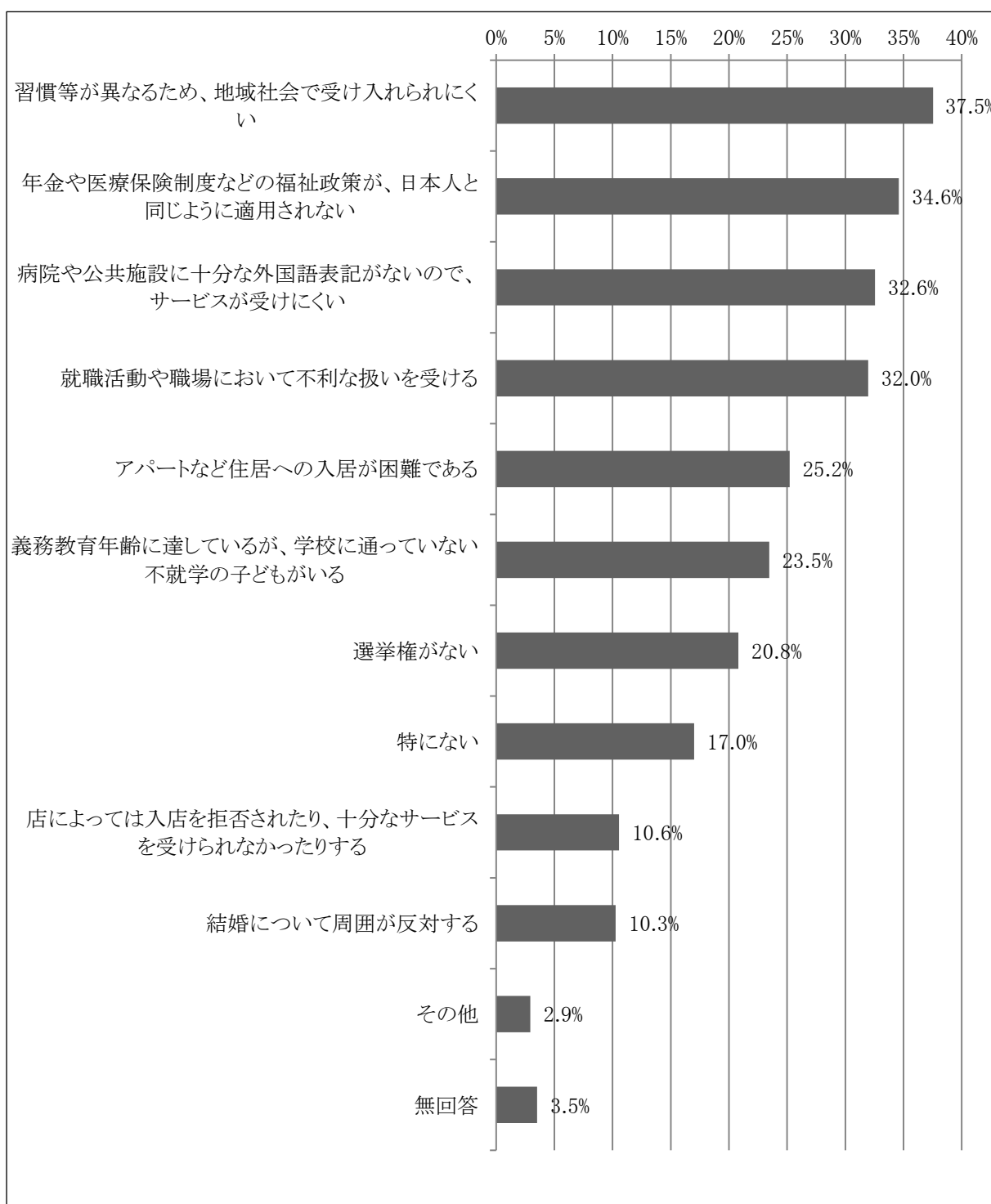
問21 あなたは、日本に住む外国人の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」が37.5%と最も高く、次いで「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」が34.6%と続いている。

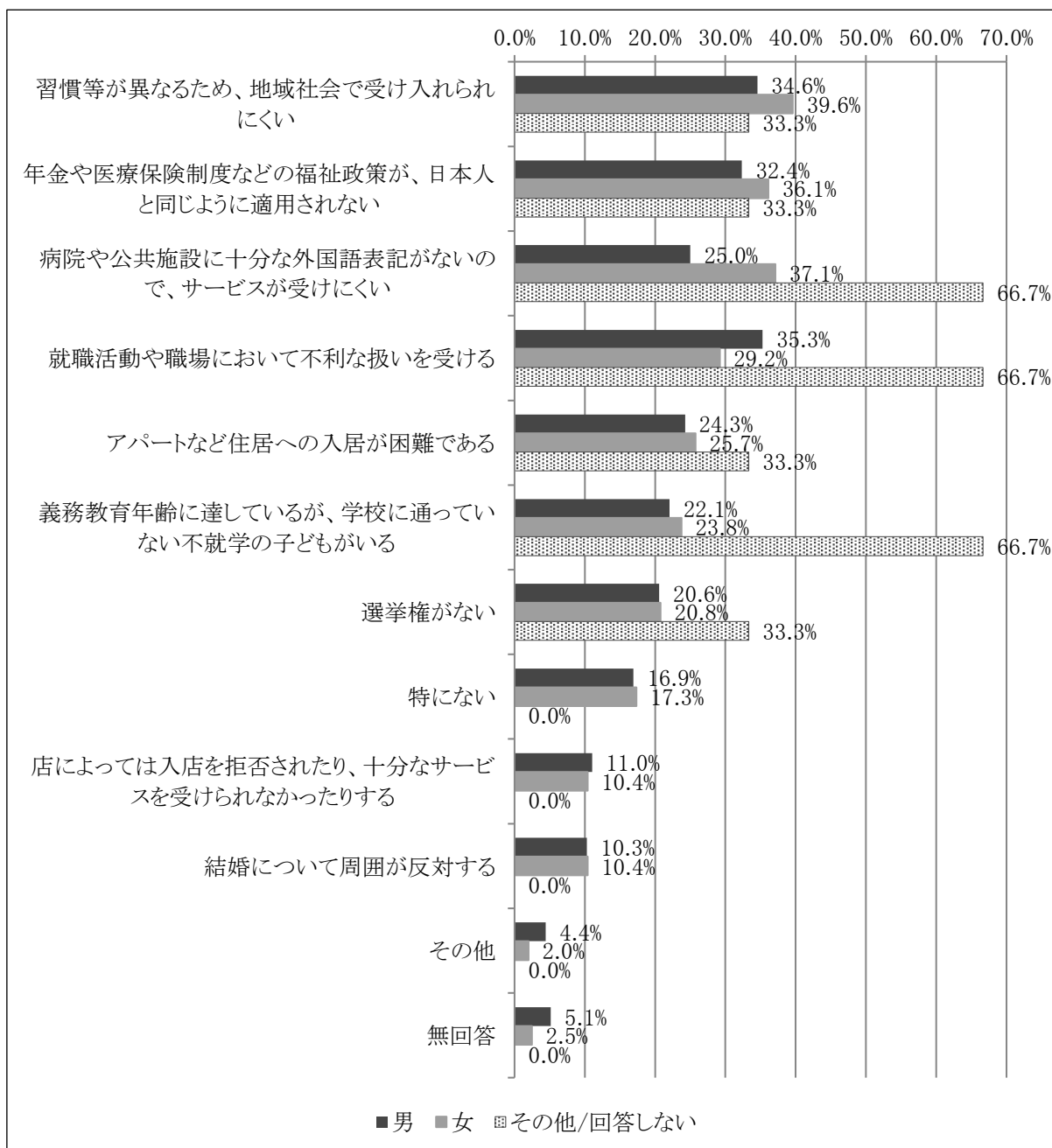
区 分	回答数	構成比
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	109	32.0%
年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない	118	34.6%
選挙権がない	71	20.8%
アパートなど住居への入居が困難である	86	25.2%
義務教育年齢に達しているが、学校に通っていない不就学の子どもがいる	80	23.5%
習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい	128	37.5%
結婚について周囲が反対する	35	10.3%
病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい	111	32.6%
店によっては入店を拒否されたり、十分なサービスを受けられなかったりする	36	10.6%
その他	10	2.9%
特にない	58	17.0%
無回答	12	3.5%
計	854	

(回答者数 341 人)



【性別】

男性では「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が最も高く、次いで「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」と続いている。女性では「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」が最も高く、次いで「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」と続いている。



【年代別】

18～29歳、30歳代では「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」、40歳代と60歳以上では「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」、50歳代では「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」が最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい	38.1%	30.6%	48.4%	37.3%	35.4%
年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない	35.7%	34.7%	40.6%	38.8%	27.1%
病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい	42.9%	41.7%	35.9%	31.3%	19.8%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	26.2%	30.6%	45.3%	32.8%	26.0%
アパートなど住居への入居が困難である	23.8%	29.2%	29.7%	26.9%	18.8%
義務教育年齢に達しているが、学校に通っていない不就業の子どもがいる	14.3%	23.6%	29.7%	23.9%	22.9%
選挙権がない	28.6%	19.4%	21.9%	16.4%	20.8%
特になし	11.9%	9.7%	9.4%	17.9%	29.2%
店によっては入店を拒否されたり、十分なサービスを受けられなかったりする	19.0%	12.5%	12.5%	6.0%	7.3%
結婚について周囲が反対する	9.5%	15.3%	9.4%	11.9%	6.3%
その他	0.0%	2.8%	3.1%	3.0%	4.2%
無回答	2.4%	0.0%	3.1%	1.5%	8.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

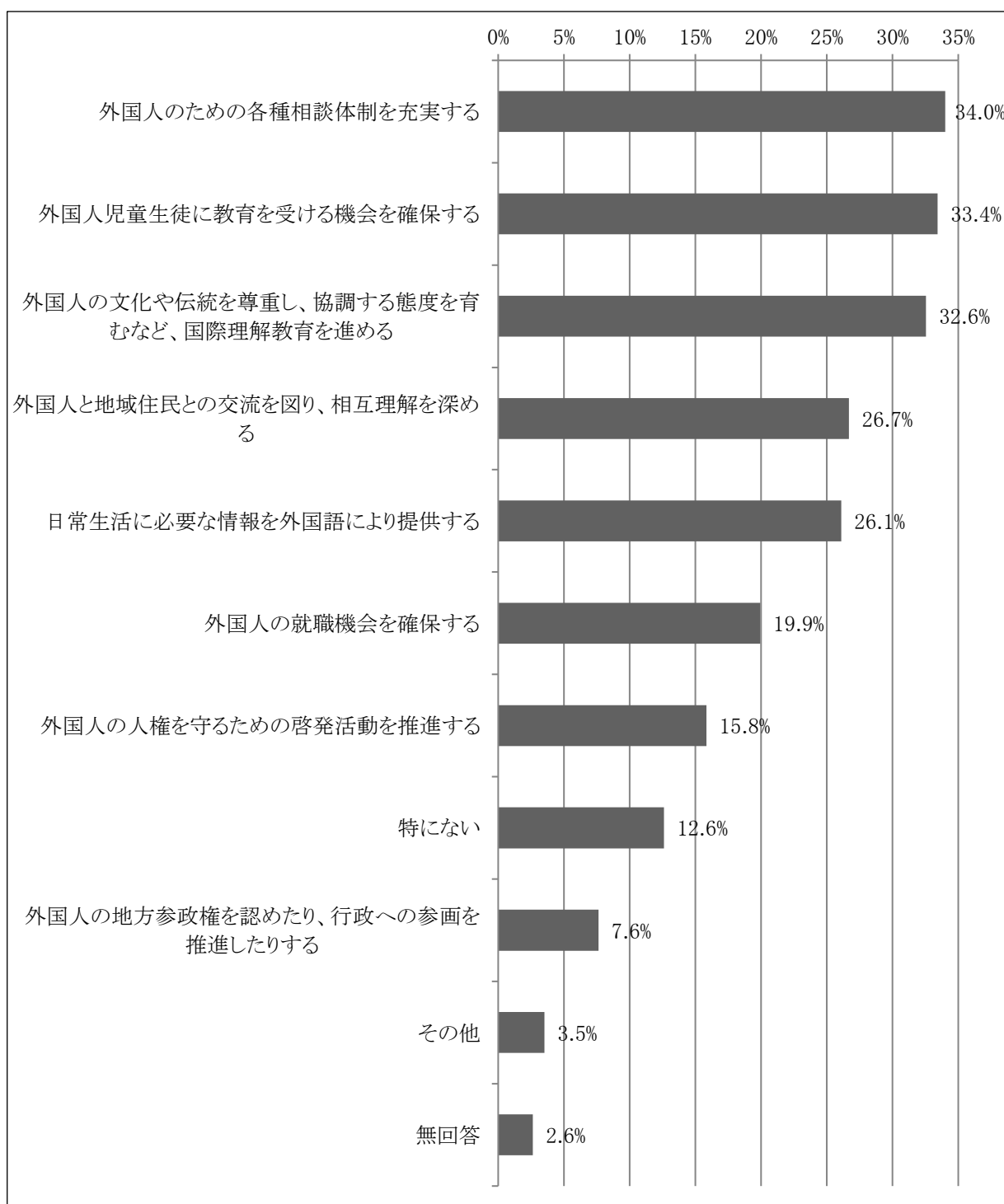
問22 あなたは、外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

【全体】

「外国人のための各種相談体制を充実する」が34.0%と最も高く、次いで「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」が33.4%と続いている。

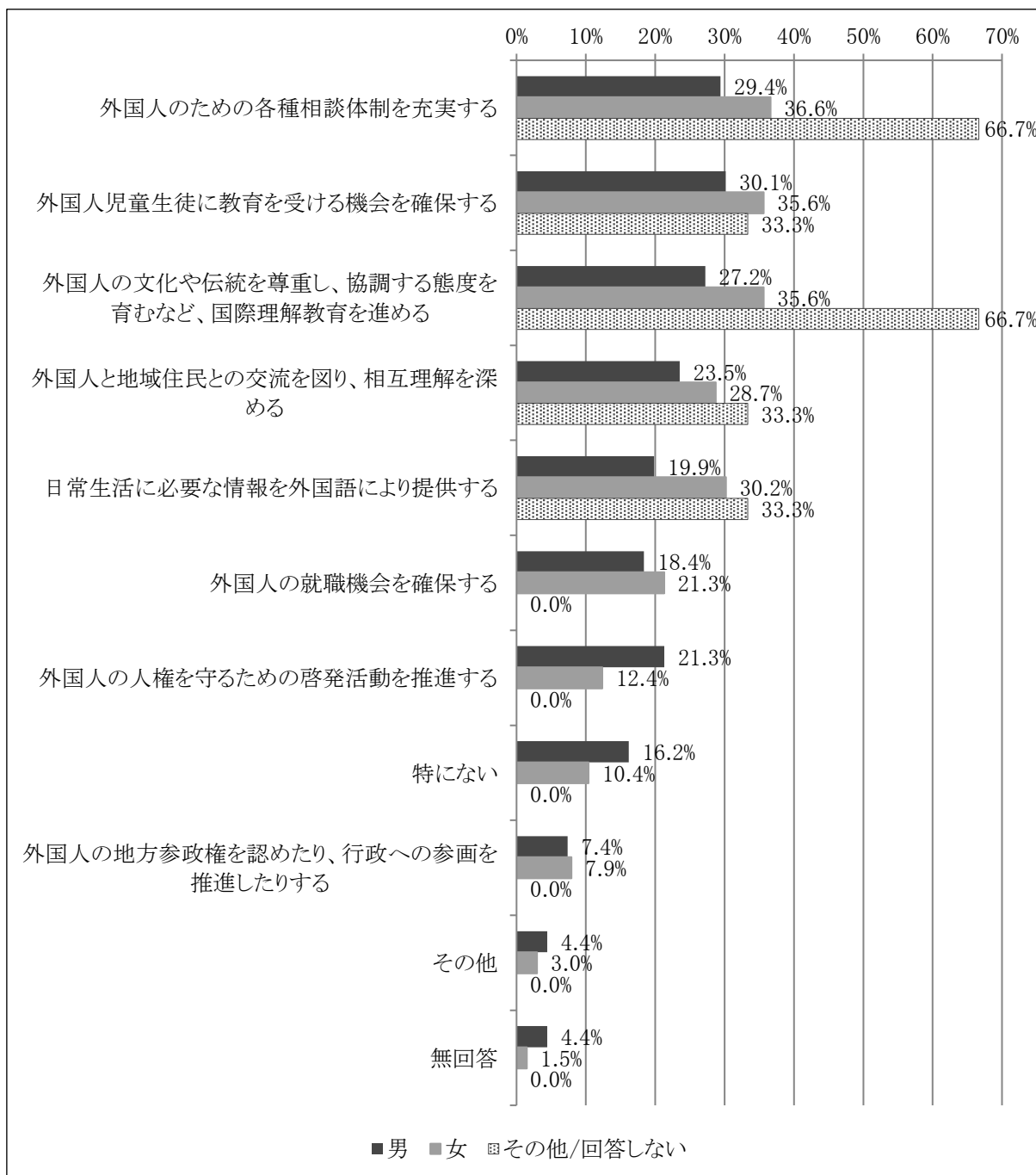
区 分	回答数	構成比
外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	54	15.8%
外国人のための各種相談体制を充実する	116	34.0%
外国人の就職機会を確保する	68	19.9%
外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	26	7.6%
外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	114	33.4%
日常生活に必要な情報を外国語により提供する	89	26.1%
外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	111	32.6%
外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	91	26.7%
その他	12	3.5%
特にない	43	12.6%
無回答	9	2.6%
計	733	

(回答者数 341 人)



【性別】

男性では「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」、女性では「外国人のための各種相談体制を充実する」が最も高くなっている。次いで男性では「外国人のための各種相談体制を充実する」、女性では「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」と「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」が同ポイントと続いている。



【年代別】

18～29歳は「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」、「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が同ポイントと最も高くなっている。30歳代と50歳代は「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」、40歳代は「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」、60歳以上は「外国人のための各種相談体制を充実する」が最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
外国人のための各種相談体制を充実する	19.0%	34.7%	32.8%	38.8%	37.5%
外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	33.3%	33.3%	39.1%	29.9%	32.3%
外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	40.5%	38.9%	25.0%	40.3%	24.0%
外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	26.2%	34.7%	25.0%	26.9%	21.9%
日常生活に必要な情報を外国語により提供する	40.5%	34.7%	25.0%	22.4%	16.7%
外国人の就職機会を確保する	19.0%	30.6%	29.7%	11.9%	11.5%
外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	16.7%	5.6%	18.8%	9.0%	26.0%
特にない	9.5%	11.1%	10.9%	11.9%	16.7%
外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	4.8%	4.2%	7.8%	10.4%	9.4%
その他	0.0%	1.4%	3.1%	9.0%	3.1%
無回答	2.4%	0.0%	3.1%	0.0%	6.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

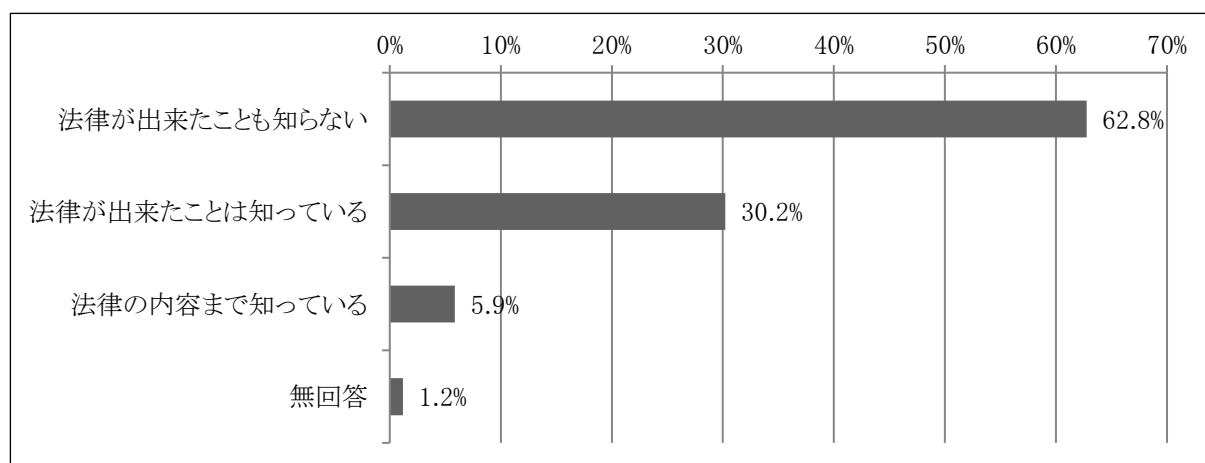
問23 あなたは、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（ヘイトスピーチ解消法）（※下記参照）を、ご存じですか。（○は1つ）

【全体】

「法律が出来たことも知らない」が62.8%と最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」が30.2%と続いている。

区 分	回答数	構成比
法律の内容まで知っている	20	5.9%
法律が出来たことは知っている	103	30.2%
法律が出来たことも知らない	214	62.8%
無回答	4	1.2%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)

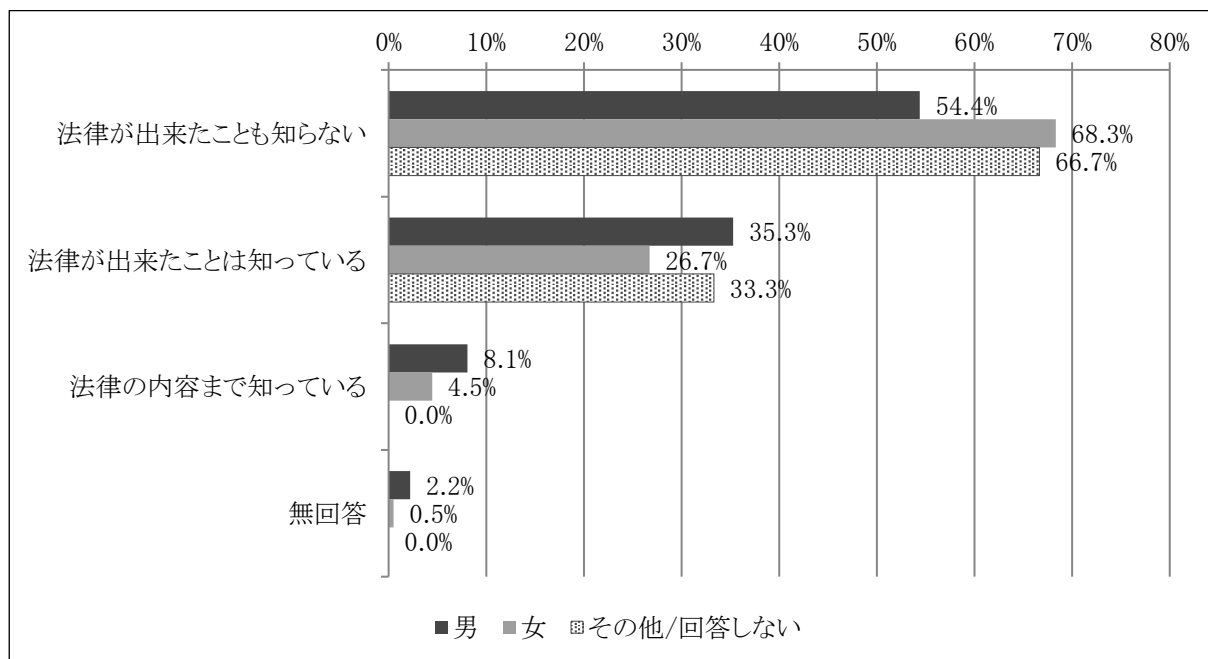


※「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（ヘイトスピーチ解消法）とは・・・

近年、日本以外の国・地域の出身者又はその子孫で日本に適法に居住する人（本邦外出身者）を地域社会から排除することを煽動（せんだう）する「不当な差別的言動」が行われていることを踏まえ、こうした本邦外出身者に対する「不当な差別的言動」を解消することを目的としています。この法律では、本邦外出身者に対する「不当な差別的言動」のない社会の実現のため、国や地方公共団体の責務や教育の充実、相談体制の整備、啓発活動などについて規定されています。

【性別】

男女ともに「法律が出来たことも知らない」が最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」、「法律の内容まで知っている」と続いている。「法律が出来たことも知らない」では、女性は男性に比べ、13.9ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「法律が出来たことも知らない」が50%を超え最も高くなっている。「法律が出来たことは知っている」、「法律の内容まで知っている」では、60歳以上が41.7%と最も高くなっている。

区 分	18~29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
法律が出来たことも知らない	76.2%	66.7%	57.8%	62.7%	57.3%
法律が出来たことは知っている	16.7%	29.2%	32.8%	31.3%	34.4%
法律の内容まで知っている	4.8%	4.2%	6.3%	6.0%	7.3%
無回答	2.4%	0.0%	3.1%	0.0%	1.0%
回答者数 (人)	42	72	64	67	96

8 HIV感染者・ハンセン病患者等の人権に対する意識

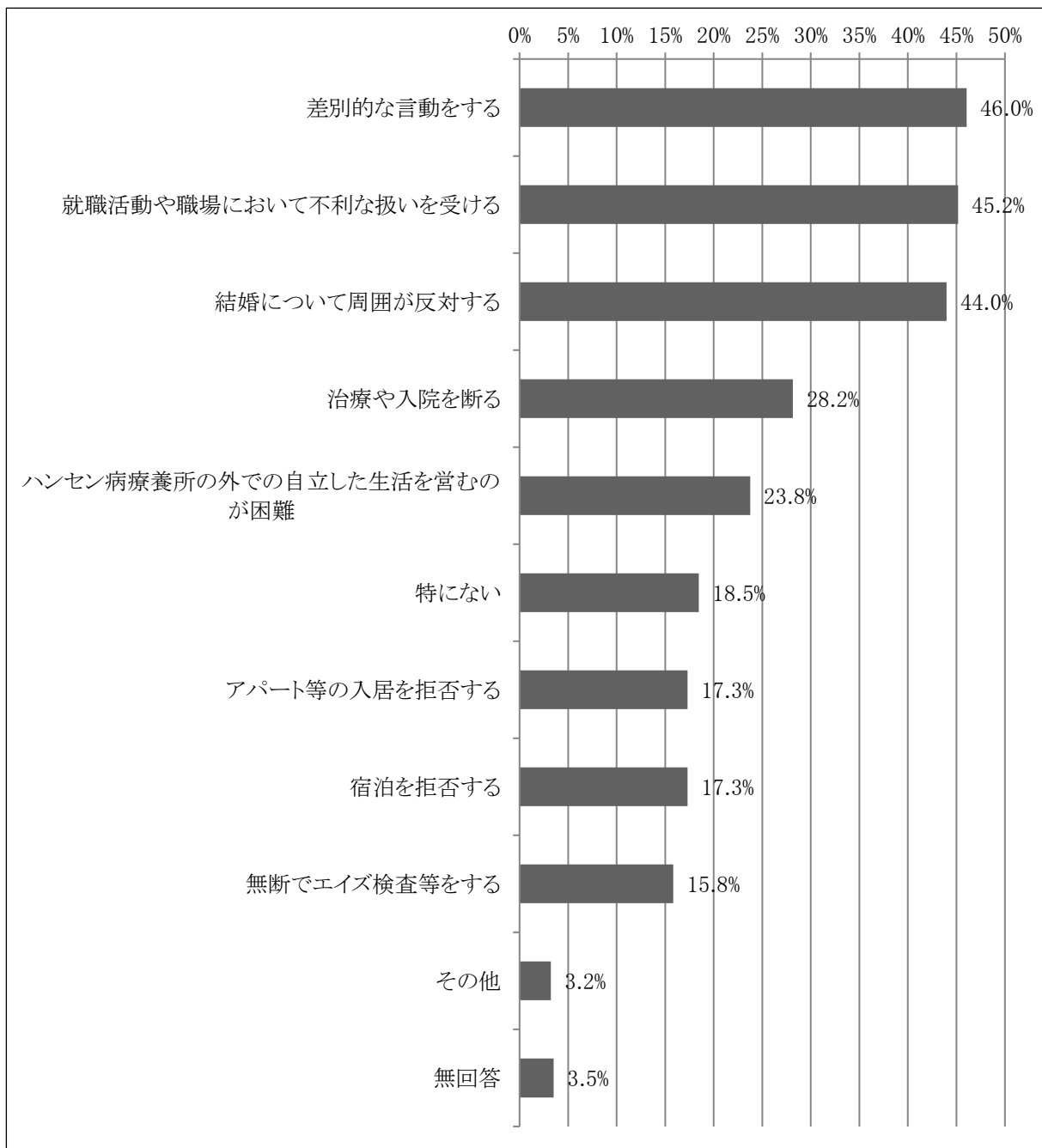
問24 あなたは、HIV感染者・ハンセン病患者等に関して、人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「差別的な言動をする」が46.0%と最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が45.2%、「結婚について周囲が反対する」が44.0%と続いている。

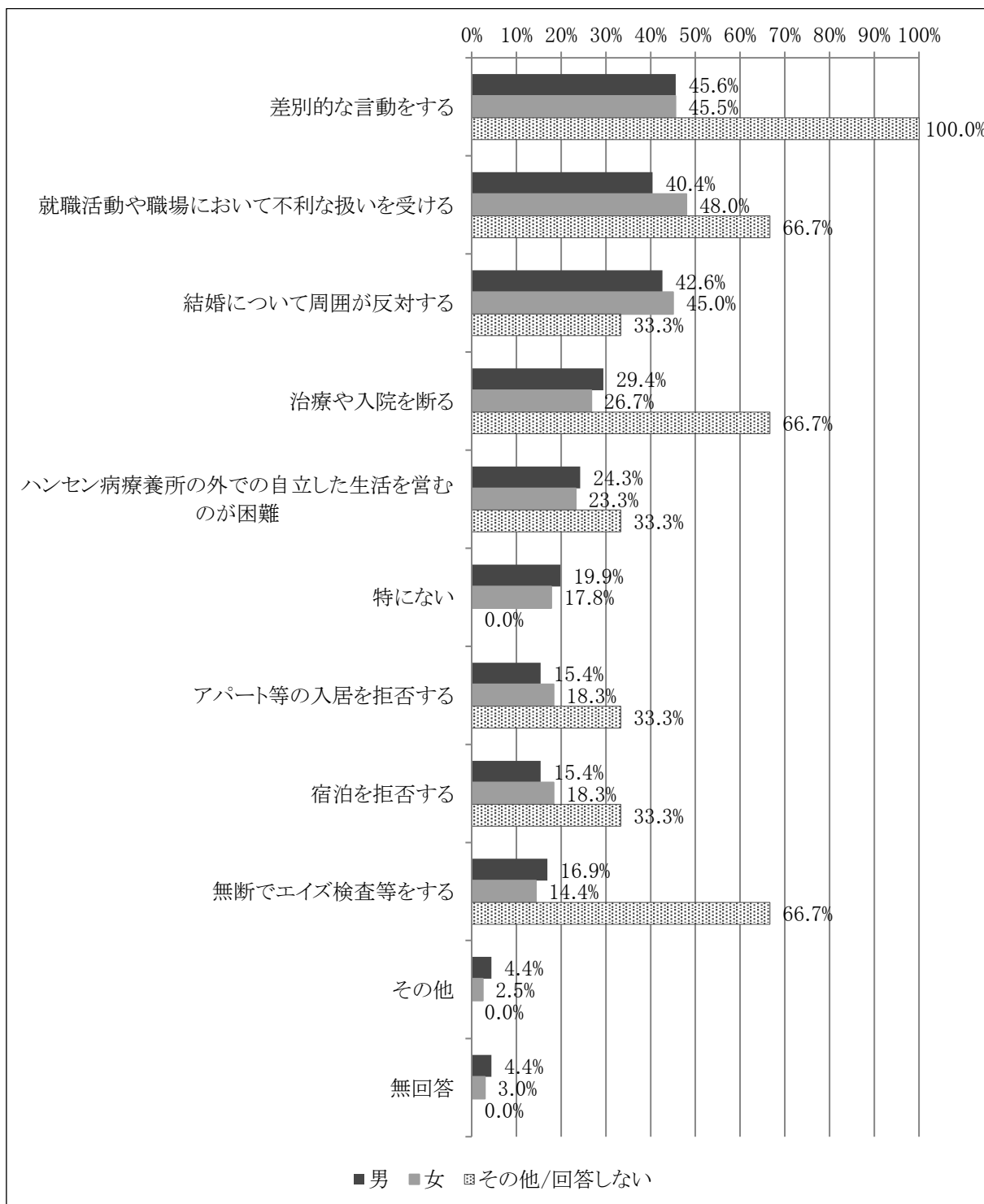
区 分	回答数	構成比
結婚について周囲が反対する	150	44.0%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	154	45.2%
治療や入院を断る	96	28.2%
無断でエイズ検査等をする	54	15.8%
差別的な言動をする	157	46.0%
ハンセン病療養所の外での自立した生活を営むのが困難	81	23.8%
アパート等の入居を拒否する	59	17.3%
宿泊を拒否する	59	17.3%
その他	11	3.2%
特にない	63	18.5%
無回答	12	3.5%
計	896	

(回答者数 341 人)



【性別】

男性では「差別的な言動をする」、女性では「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が最も高く、次いで、男性では「結婚について周囲が反対する」、女性では「差別的な言動をする」と続いている。



【年代別】

18～29歳、30歳代は「差別的な言動をする」、40歳代は「結婚について周囲が反対する」、60歳以上は「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が最も高くなっている。50歳代は「差別的な言動をする」、「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が同ポイントと最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
差別的な言動をする	57.1%	51.4%	43.8%	46.3%	38.5%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	33.3%	43.1%	51.6%	46.3%	46.9%
結婚について周囲が反対する	35.7%	41.7%	54.7%	41.8%	43.8%
治療や入院を断る	21.4%	25.0%	32.8%	34.3%	26.0%
ハンセン病療養所の外での自立した生活を営むのが困難	19.0%	26.4%	18.8%	26.9%	25.0%
特にない	23.8%	19.4%	7.8%	20.9%	20.8%
アパート等の入居を拒否する	11.9%	9.7%	21.9%	19.4%	20.8%
宿泊を拒否する	14.3%	18.1%	18.8%	13.4%	19.8%
無断でエイズ検査等をする	11.9%	11.1%	15.6%	22.4%	16.7%
その他	0.0%	1.4%	4.7%	6.0%	3.1%
無回答	2.4%	0.0%	3.1%	1.5%	8.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

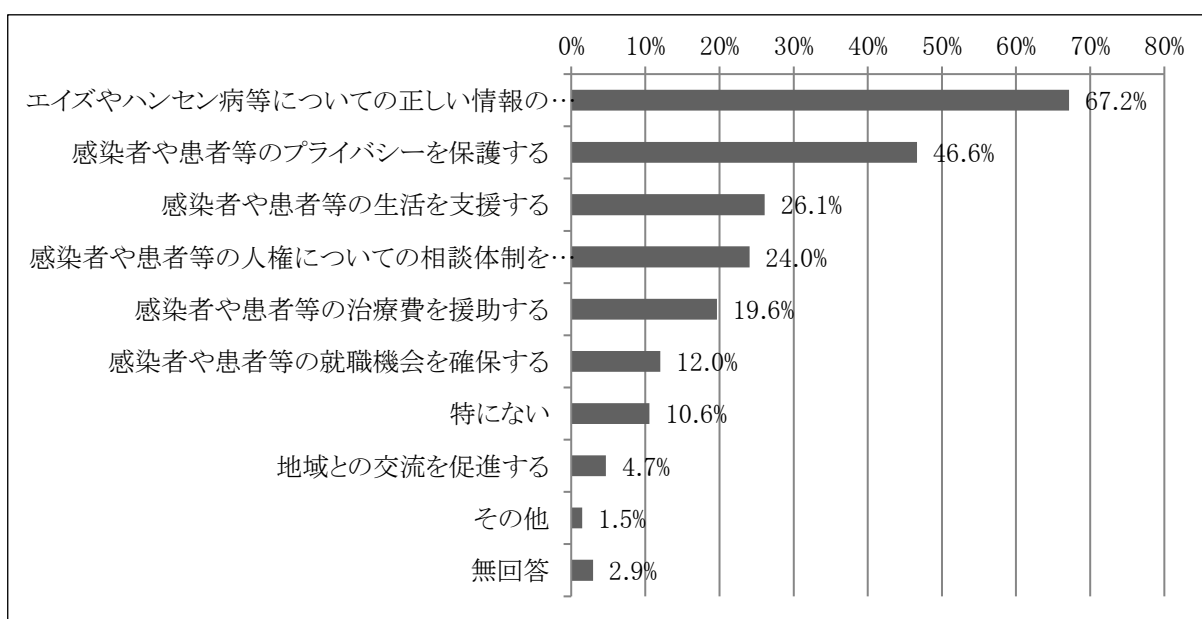
問25 あなたは、HIV感染者・ハンセン病患者等の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

【全体】

「エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する」が67.2%と最も高く、次いで「感染者や患者等のプライバシーを保護する」が46.6%と続いている。

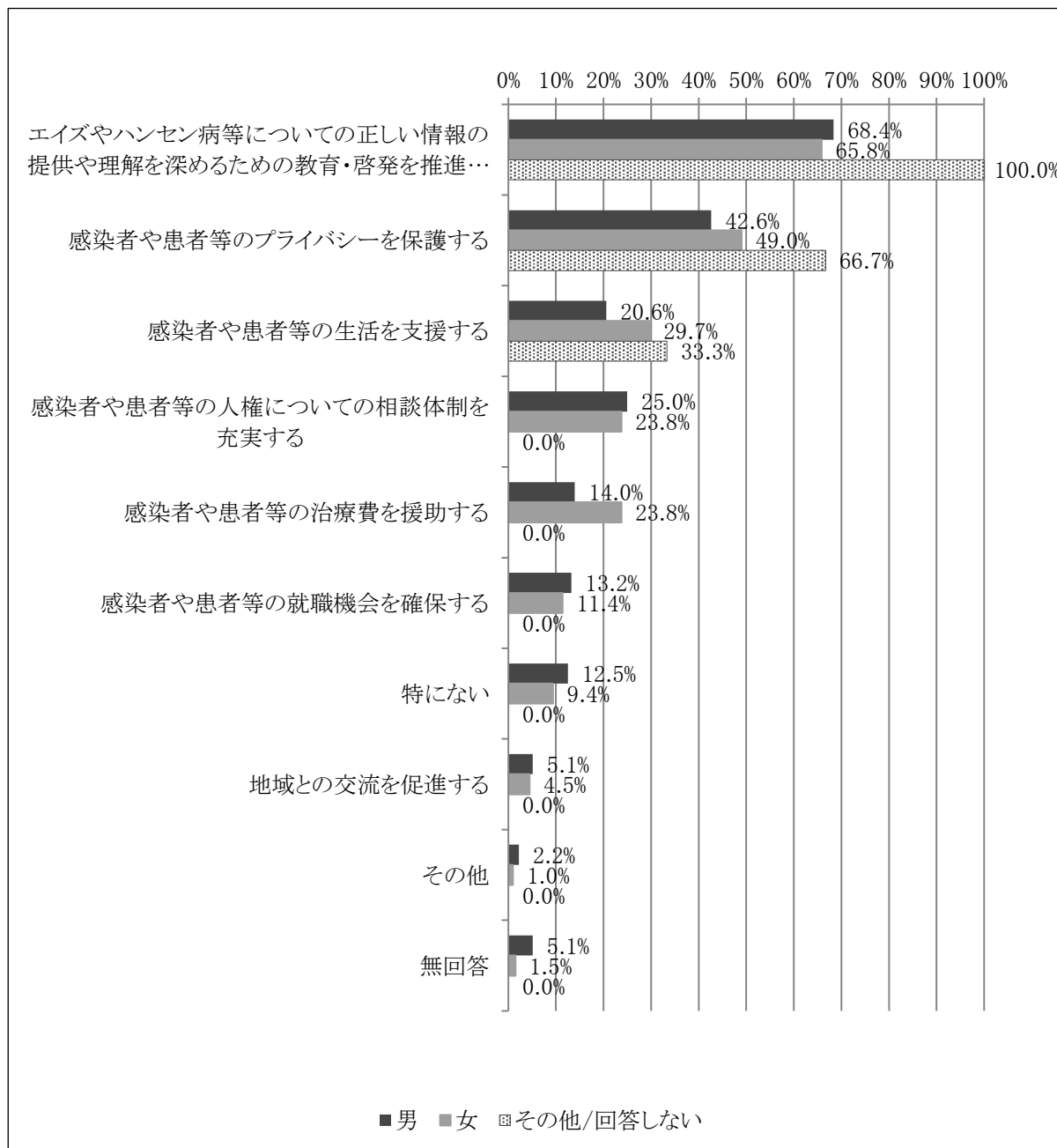
区 分	回答数	構成比
エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する	229	67.2%
感染者や患者等の人権についての相談体制を充実する	82	24.0%
感染者や患者等のプライバシーを保護する	159	46.6%
感染者や患者等の就職機会を確保する	41	12.0%
感染者や患者等の生活を支援する	89	26.1%
感染者や患者等の治療費を援助する	67	19.6%
地域との交流を促進する	16	4.7%
その他	5	1.5%
特にない	36	10.6%
無回答	10	2.9%
計	734	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する」が最も高く、次いで「感染者や患者等のプライバシーを保護する」と続いている。



【年代別】

各年代において「エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する」が最も高く、次いで「感染者や患者等のプライバシーを保護する」と続いている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する	66.7%	70.8%	71.9%	71.6%	58.3%
感染者や患者等のプライバシーを保護する	50.0%	50.0%	51.6%	46.3%	39.6%
感染者や患者等の生活を支援する	23.8%	30.6%	31.3%	26.9%	19.8%
感染者や患者等の人権についての相談体制を充実する	16.7%	15.3%	29.7%	23.9%	30.2%
感染者や患者等の治療費を援助する	31.0%	23.6%	15.6%	19.4%	14.6%
感染者や患者等の就職機会を確保する	9.5%	12.5%	14.1%	9.0%	13.5%
特にない	9.5%	12.5%	3.1%	11.9%	13.5%
地域との交流を促進する	2.4%	5.6%	3.1%	6.0%	5.2%
その他	0.0%	1.4%	0.0%	3.0%	2.1%
無回答	2.4%	0.0%	1.6%	1.5%	7.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

9 インターネットによる人権侵害に対する意識

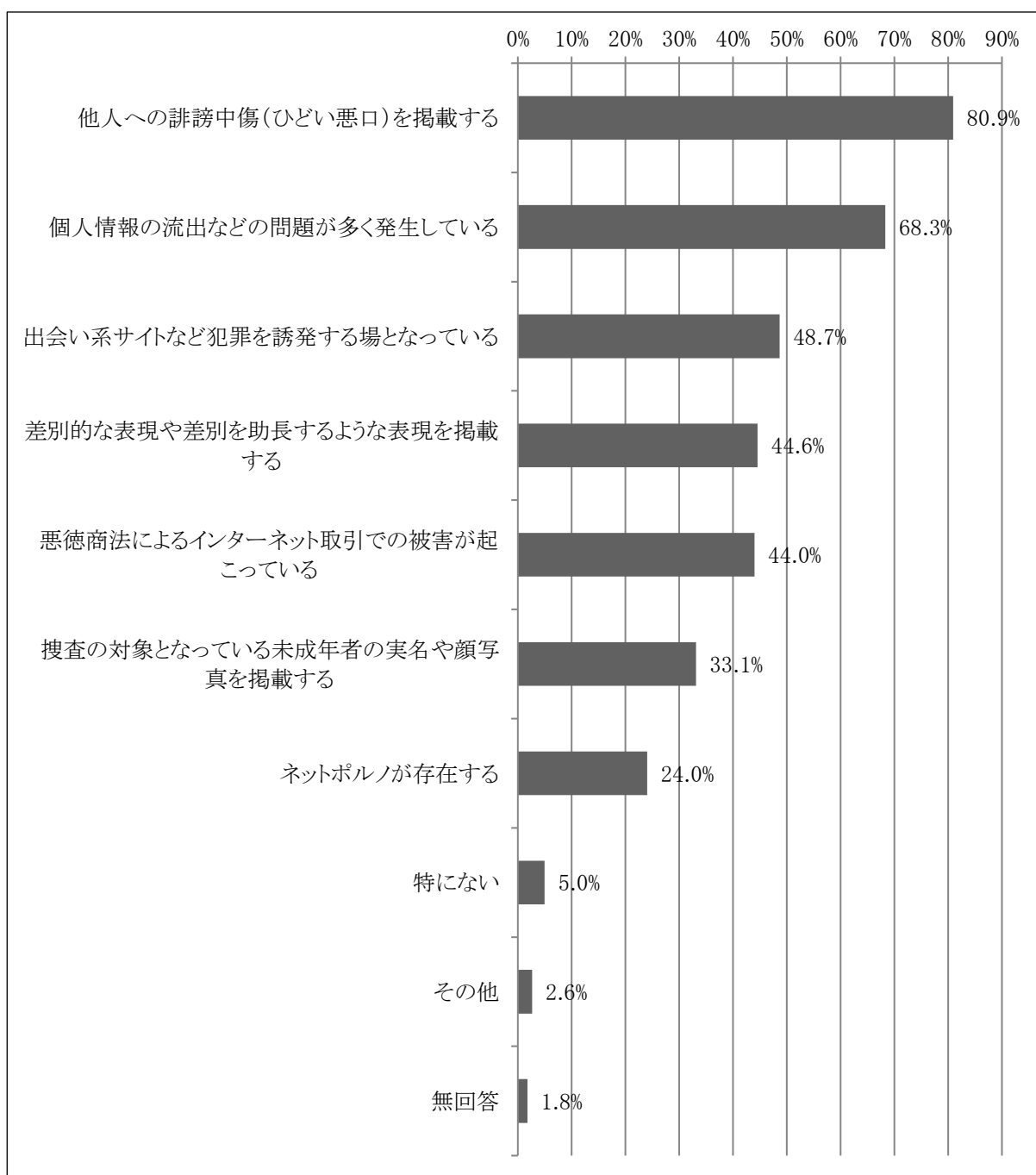
問26 あなたは、インターネット上での人権侵害に関して、現在、どのような問題が起きていると思いますか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）を掲載する」が80.9%と最も高く、次いで「個人情報の流出などの問題が多く発生している」が68.3%と続いている。

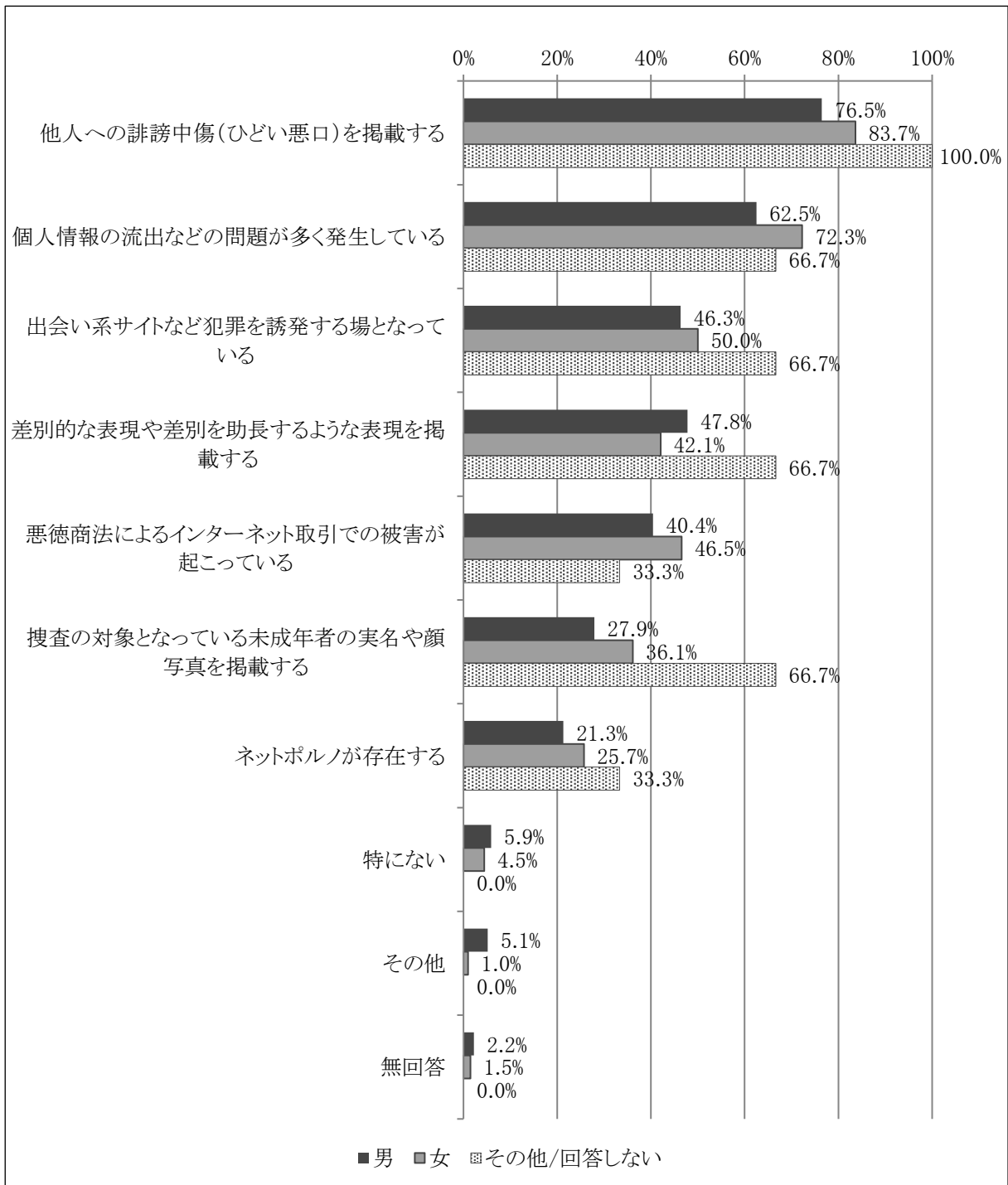
区 分	回答数	構成比
他人への誹謗中傷（ひどい悪口）を掲載する	276	80.9%
差別的な表現や差別を助長するような表現を掲載する	152	44.6%
出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている	166	48.7%
捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載する	113	33.1%
ネットポルノが存在する	82	24.0%
個人情報の流出などの問題が多く発生している	233	68.3%
悪徳商法によるインターネット取引での被害が起きている	150	44.0%
その他	9	2.6%
特にない	17	5.0%
無回答	6	1.8%
計	1,204	

（回答者数 341 人）



【性別】

男女ともに「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）を掲載する」が最も高く、次いで「個人情報の流出などの問題が多く発生している」と続いている。



【年代別】

各年代において「他人への誹謗中傷（ひどい悪口）を掲載する」が最も高く、次いで、60歳以上を除いて「個人情報の流出などの問題が多く発生している」と続いている。60歳以上では「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」が他の年代に比べ、ポイントが最も高くなっている。

区 分	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
他人への誹謗中傷（ひどい悪口）を掲載する	85.7%	87.5%	93.8%	82.1%	64.6%
個人情報の流出などの問題が多く発生している	69.0%	77.8%	78.1%	68.7%	54.2%
出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている	31.0%	44.4%	50.0%	44.8%	61.5%
差別的な表現や差別を助長するような表現を掲載する	35.7%	51.4%	62.5%	44.8%	31.3%
悪徳商法によるインターネット取引での被害が起こっている	35.7%	45.8%	46.9%	46.3%	42.7%
捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載する	33.3%	36.1%	50.0%	29.9%	21.9%
ネットポルノが存在する	19.0%	27.8%	34.4%	20.9%	18.8%
特にない	4.8%	2.8%	1.6%	6.0%	8.3%
その他	4.8%	1.4%	0.0%	4.5%	3.1%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

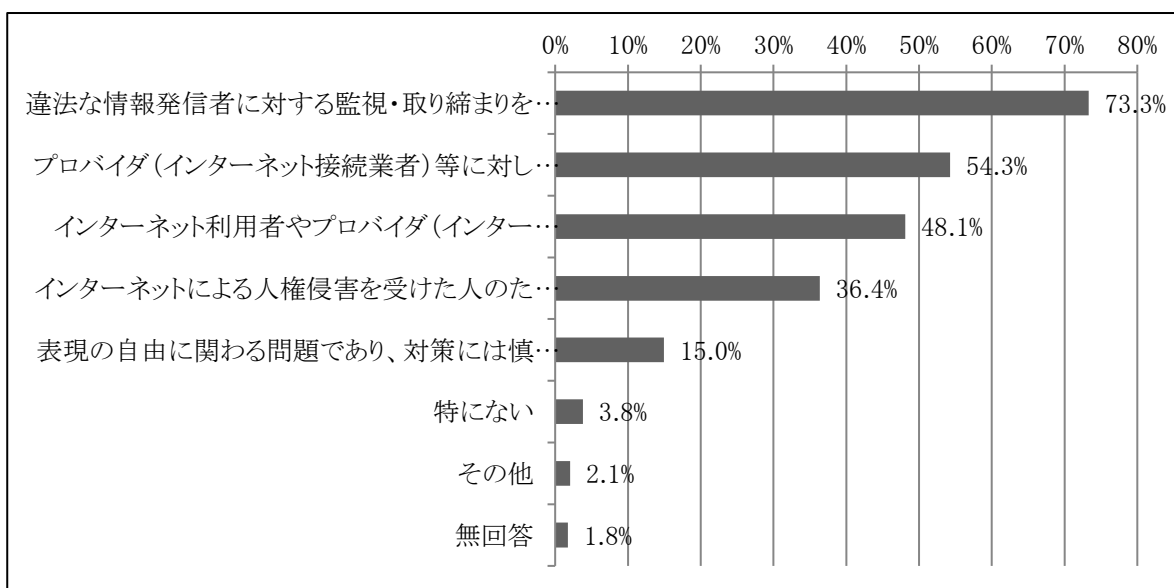
問27 あなたは、インターネット上の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思えますか。(〇は3つまで)

【全体】

「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が73.3%と最も高く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める」が54.3%と続いている。

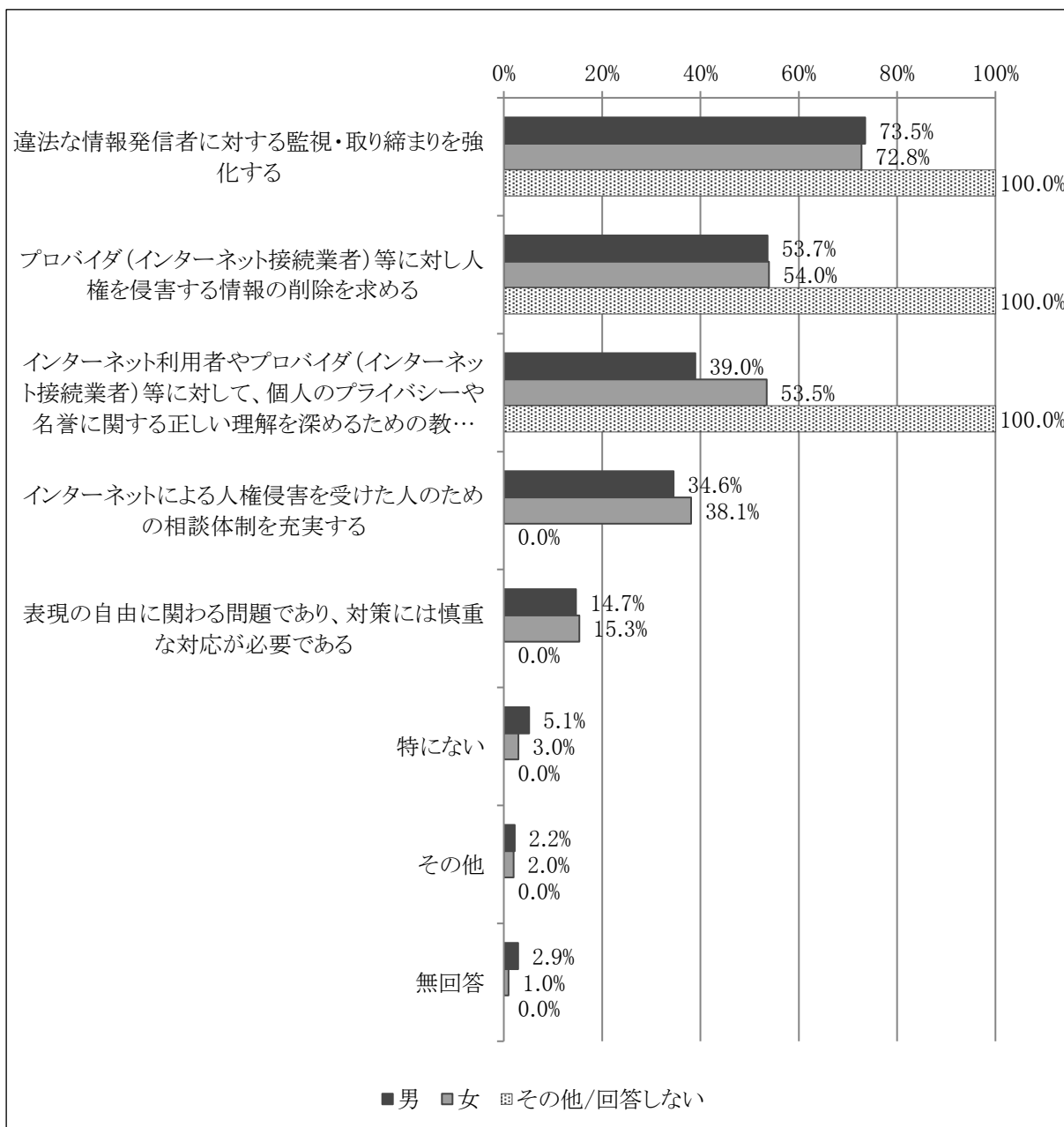
区 分	回答数	構成比
インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	124	36.4%
インターネット利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する	164	48.1%
違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	250	73.3%
プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める	185	54.3%
表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要である	51	15.0%
その他	7	2.1%
特にない	13	3.8%
無回答	6	1.8%
計	800	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が70%を超え最も高く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める」と続いている。「インターネット利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する」では、女性は男性に比べ、14.5ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が最も高く、次いで18～29歳、40歳代では「インターネット利用者やプロバイダ(インターネット接続業者)等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する」、30歳代、50歳代、60歳以上では「プロバイダ(インターネット接続業者)等に対し人権を侵害する情報の削除を求める」と続いている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	66.7%	76.4%	73.4%	73.1%	74.0%
プロバイダ(インターネット接続業者)等に対し人権を侵害する情報の削除を求める	28.6%	66.7%	59.4%	61.2%	47.9%
インターネット利用者やプロバイダ(インターネット接続業者)等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する	45.2%	48.6%	60.9%	47.8%	40.6%
インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	35.7%	36.1%	35.9%	32.8%	39.6%
表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要である	31.0%	16.7%	9.4%	10.4%	13.5%
特にない	4.8%	1.4%	0.0%	6.0%	6.3%
その他	0.0%	1.4%	0.0%	3.0%	4.2%
無回答	2.4%	0.0%	1.6%	1.5%	3.1%
回答者数(人)	42	72	64	67	96

10 災害時における人権への配慮に対する意識

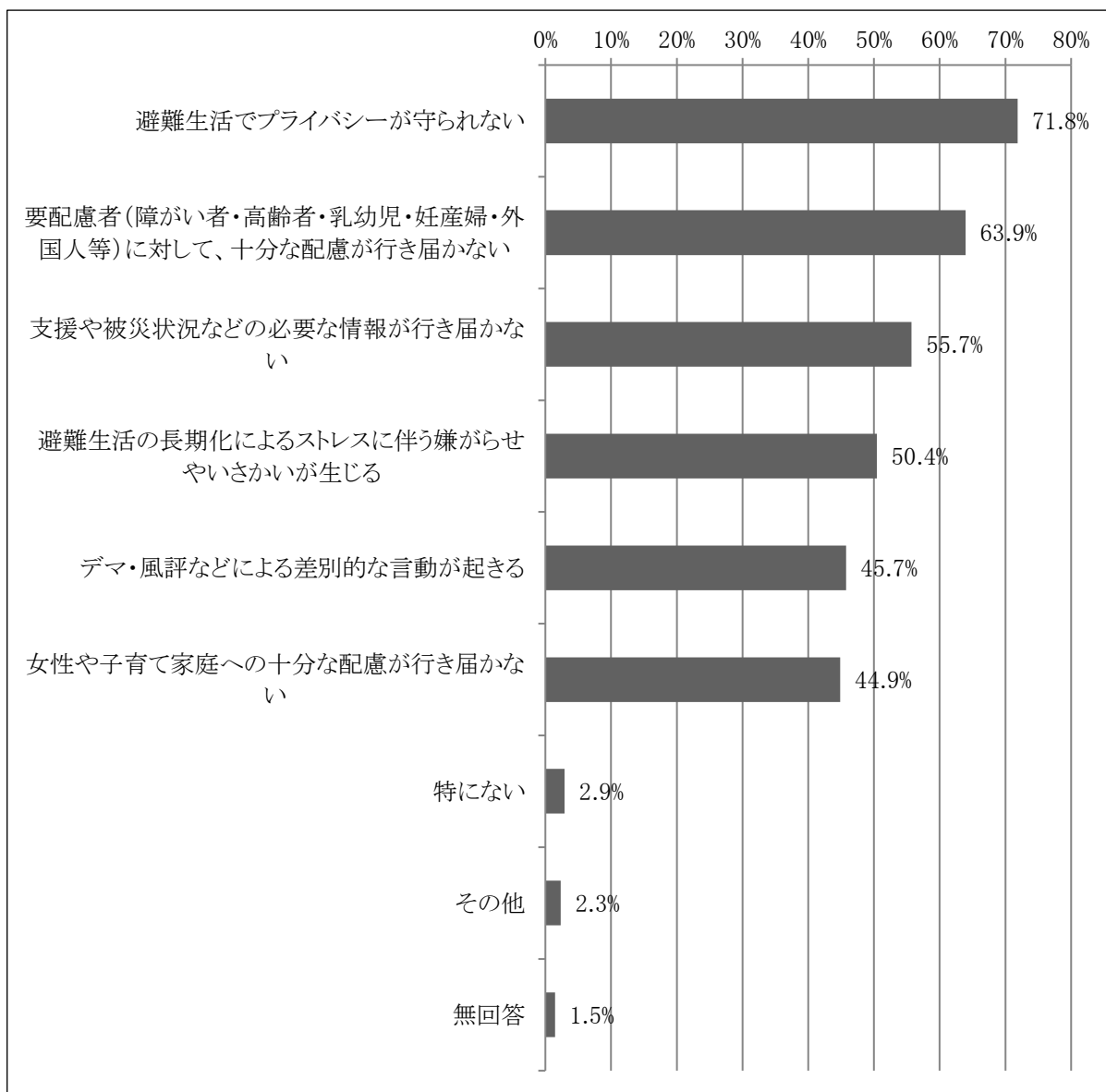
問28 災害時にはどんな人権問題が起きると思いますか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「避難生活でプライバシーが守られない」が71.8%と最も高く、次いで「要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）に対して、十分な配慮が行き届かない」が63.9%と続いている。

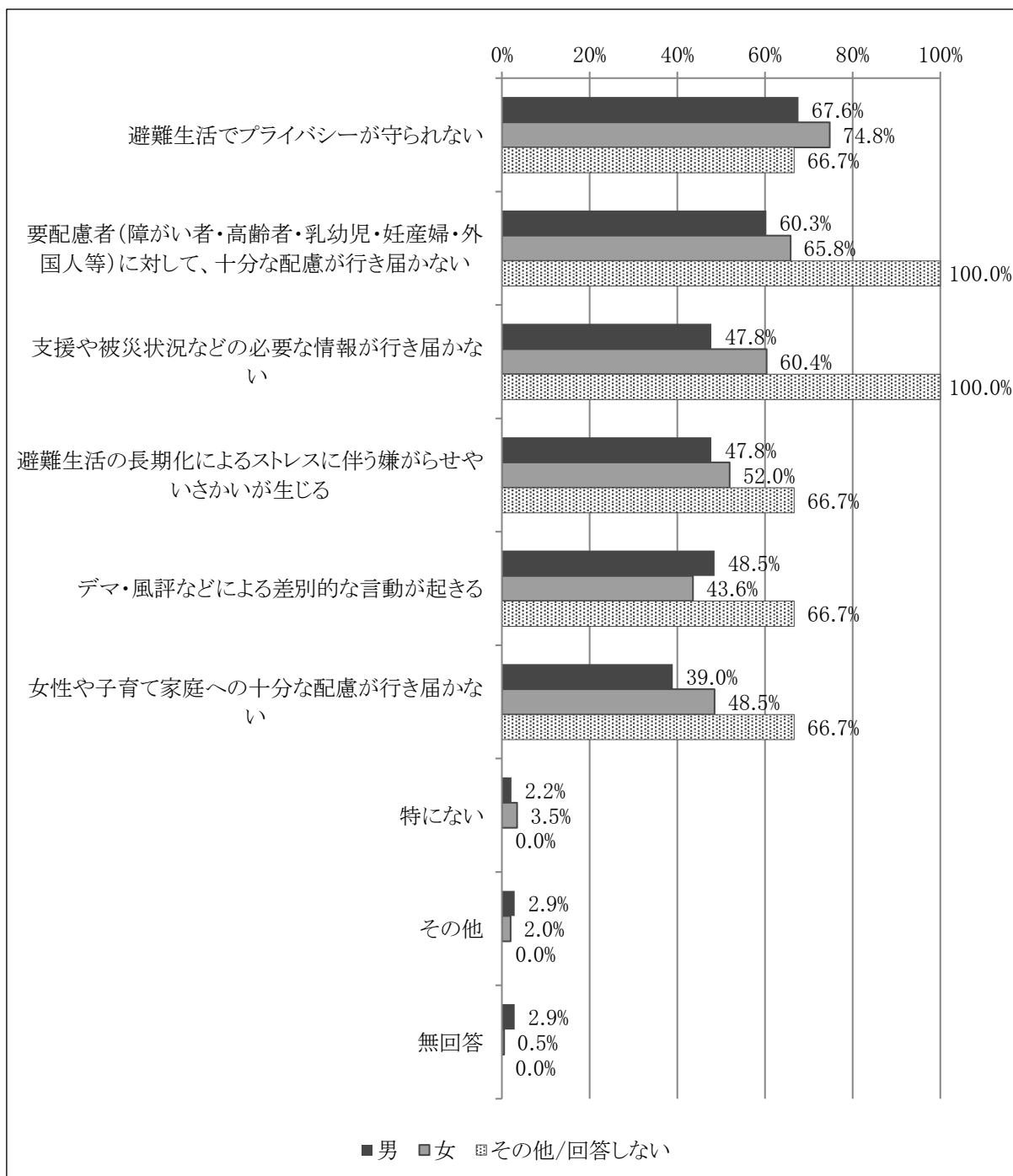
区 分	回答数	構成比
避難生活でプライバシーが守られない	245	71.8%
要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）に対して、十分な配慮が行き届かない	218	63.9%
避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じる	172	50.4%
デマ・風評などによる差別的な言動が起きる	156	45.7%
支援や被災状況などの必要な情報が行き届かない	190	55.7%
女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かない	153	44.9%
その他	8	2.3%
特にない	10	2.9%
無回答	5	1.5%
計	1,157	

（回答者数 341 人）



【性別】

男女ともに「避難生活でプライバシーが守られない」が最も高く、次いで「要配慮者(障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等)に対して、十分な配慮が行き届かない」と続いている。「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かない」では、女性は男性に比べ、12.6ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「避難生活でプライバシーが守られない」が最も高く、30歳代は「要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）に対して、十分な配慮が行き届かない」が同ポイントと最も高くなっている。また、「避難生活でプライバシーが守られない」、「要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）に対して、十分な配慮が行き届かない」、「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かない」では、すべての年代で50%を超えている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
避難生活でプライバシーが守られない	64.3%	69.4%	82.8%	73.1%	68.8%
要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）に対して、十分な配慮が行き届かない	59.5%	69.4%	71.9%	67.2%	54.2%
支援や被災状況などの必要な情報が行き届かない	52.4%	50.0%	64.1%	55.2%	56.3%
避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じる	42.9%	47.2%	54.7%	47.8%	55.2%
デマ・風評などによる差別的な言動が起きる	35.7%	54.2%	59.4%	46.3%	34.4%
女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かない	54.8%	50.0%	48.4%	40.3%	37.5%
特になし	2.4%	2.8%	1.6%	3.0%	4.2%
その他	0.0%	2.8%	0.0%	4.5%	3.1%
無回答	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

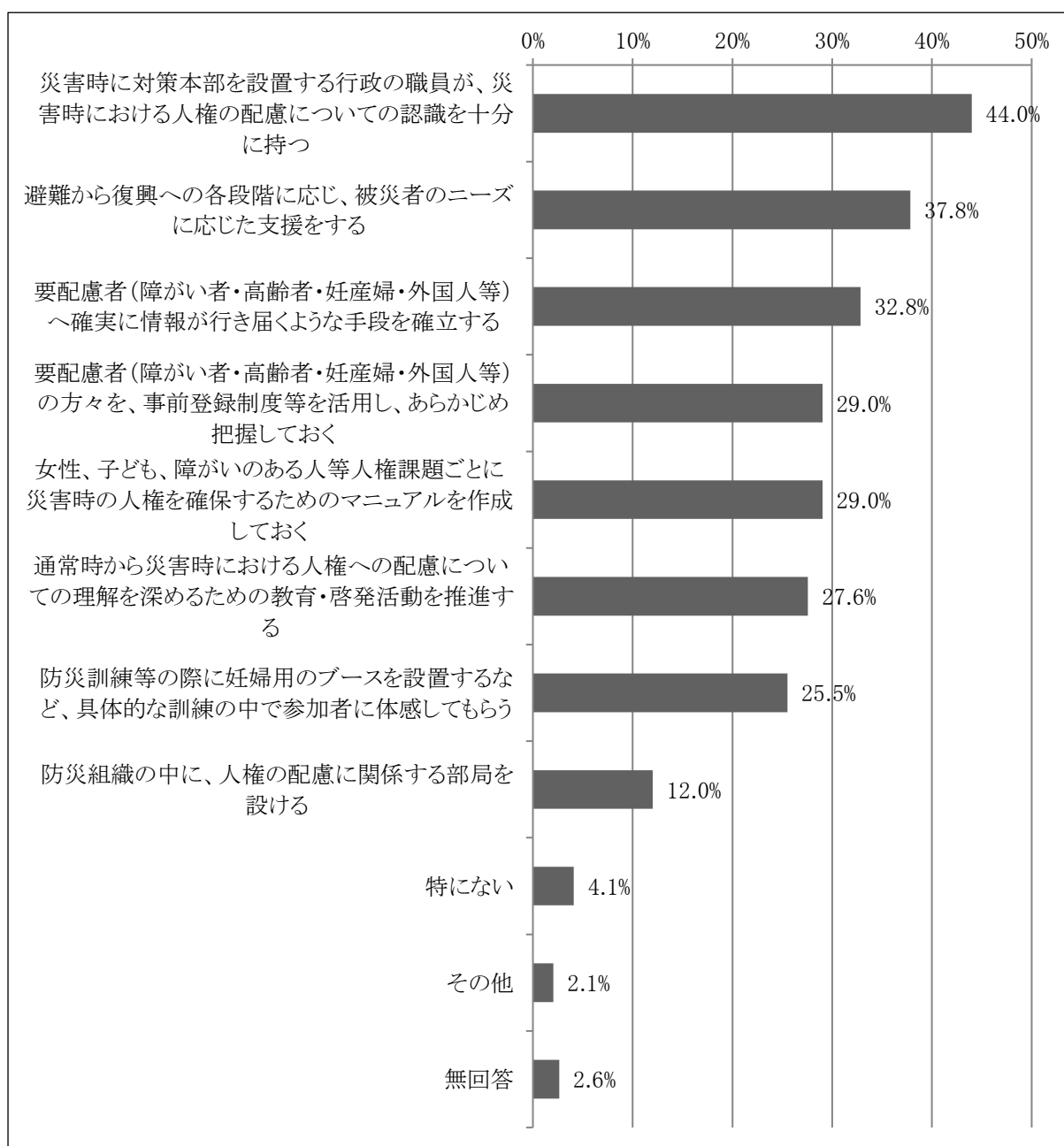
問29 あなたは、災害時に人権を配慮するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ」が44.0%と最も高く、次いで「避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする」が37.8%と続いている。

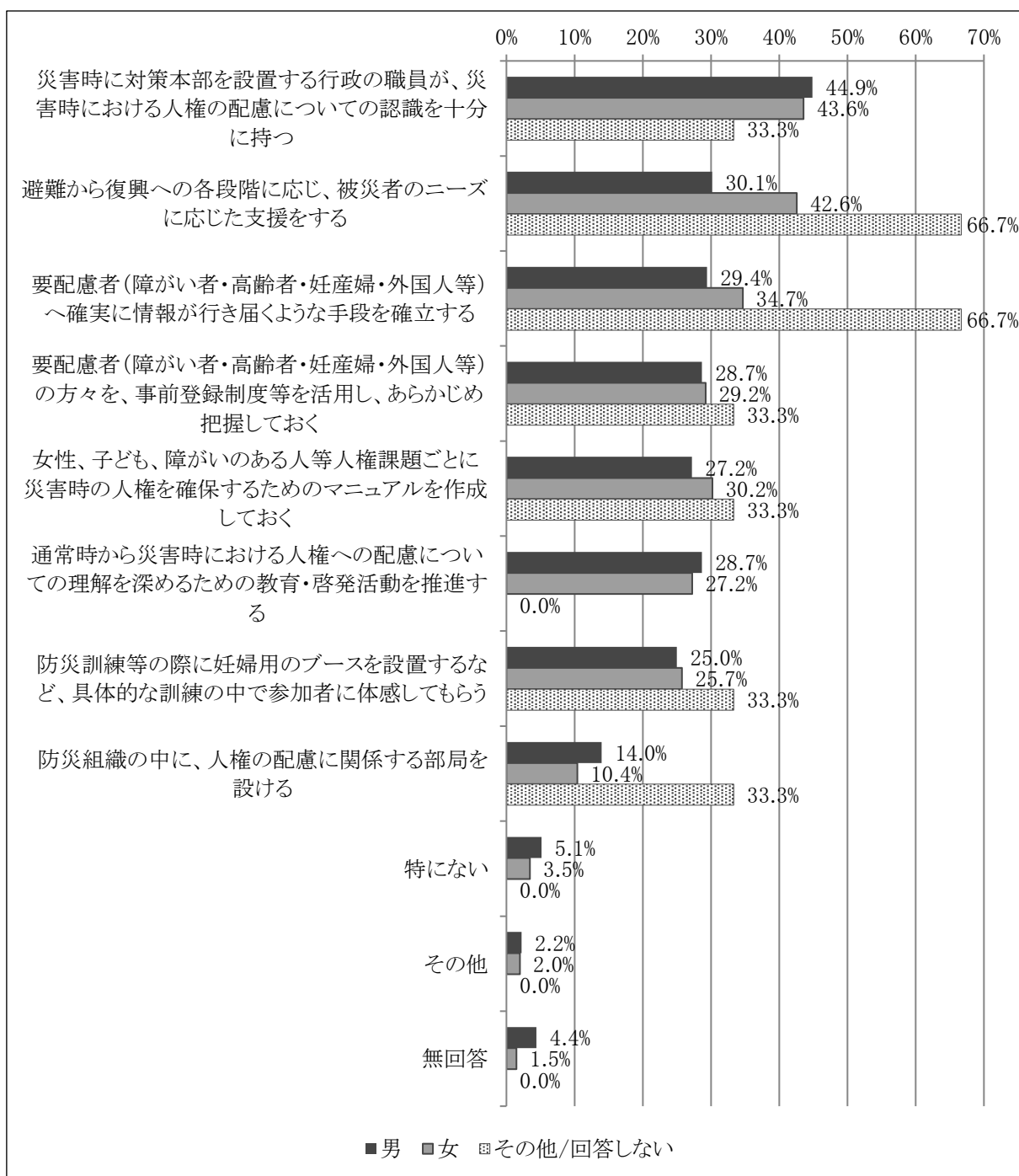
区 分	回答数	構成比
通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	94	27.6%
災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ	150	44.0%
防災訓練等の際に妊婦用のブースを設置するなど、具体的な訓練の中で参加者に体感してもらう	87	25.5%
要配慮者(障がい者・高齢者・妊産婦・外国人等)の方々を、事前登録制度等を活用し、あらかじめ把握しておく	99	29.0%
防災組織の中に、人権の配慮に関係する部局を設ける	41	12.0%
女性、子ども、障がいのある人等人権課題ごとに災害時の人権を確保するためのマニュアルを作成しておく	99	29.0%
避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする	129	37.8%
要配慮者(障がい者・高齢者・妊産婦・外国人等)へ確実に情報が行き届くような手段を確立する	112	32.8%
その他	7	2.1%
特にない	14	4.1%
無回答	9	2.6%
計	841	

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ」が最も高くなっている。「避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする」では、女性は男性に比べ、12.5ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳、50歳代、60歳以上では「災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ」、30歳代、40歳代では「避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする」が最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ	47.6%	37.5%	40.6%	47.8%	46.9%
避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする	28.6%	41.7%	48.4%	35.8%	33.3%
要配慮者（障がい者・高齢者・妊産婦・外国人等）へ確実に情報が行き届くような手段を確立する	31.0%	34.7%	35.9%	32.8%	30.2%
要配慮者（障がい者・高齢者・妊産婦・外国人等）の方々を、事前登録制度等を活用し、あらかじめ把握しておく	31.0%	34.7%	29.7%	32.8%	20.8%
女性、子ども、障がいのある人等人権課題ごとに災害時の人権を確保するためのマニュアルを作成しておく	31.0%	37.5%	32.8%	22.4%	24.0%
通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	21.4%	13.9%	31.3%	26.9%	38.5%
防災訓練等の際に妊婦用のブースを設置するなど、具体的な訓練の中で参加者に体感してもらう	42.9%	29.2%	23.4%	26.9%	15.6%
防災組織の中に、人権の配慮に関係する部局を設ける	4.8%	13.9%	6.3%	17.9%	13.5%
特になし	2.4%	5.6%	1.6%	3.0%	6.3%
その他	2.4%	1.4%	0.0%	4.5%	2.1%
無回答	2.4%	0.0%	3.1%	0.0%	6.3%
回答者数（人）	42	72	64	67	96

1.1 LGBTなど性的少数者の人権に対する意識

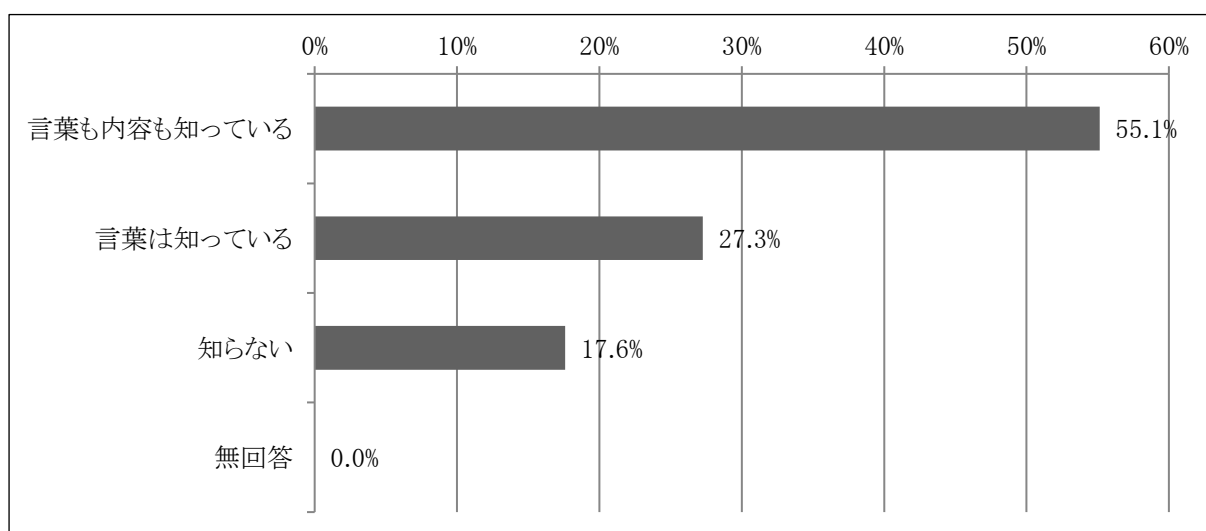
問30 あなたは、LGBTなど性的少数者に関する言葉について知っていますか。
(○は1つ)

【全体】

「言葉も内容も知っている」が最も高く、次いで「言葉は知っている」と続いている。

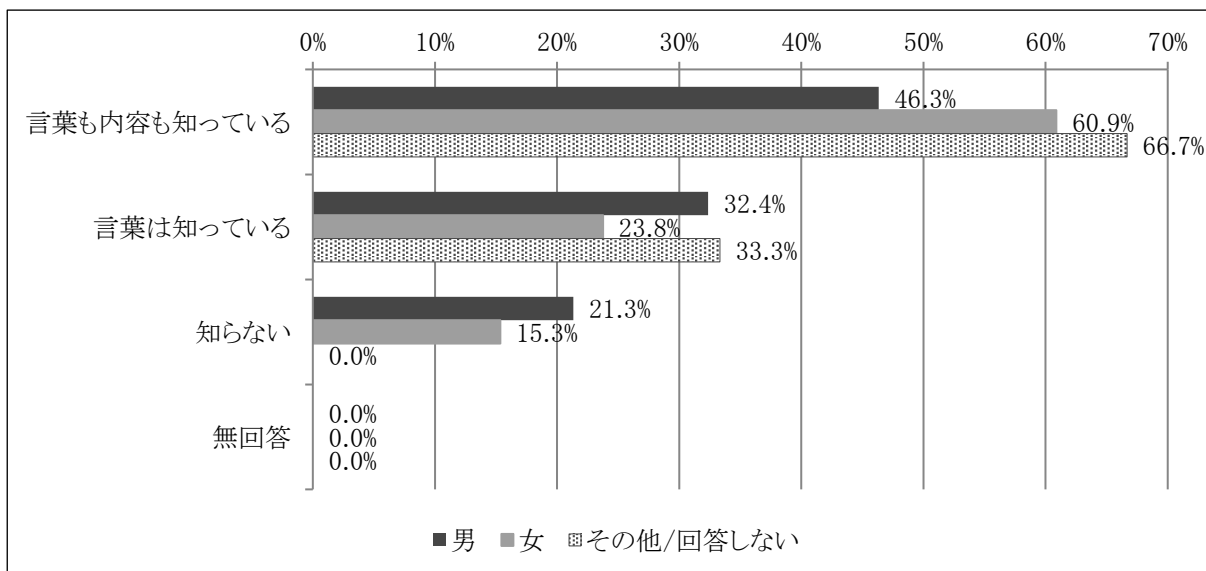
区 分	回答数	構成比
言葉も内容も知っている	188	55.1%
言葉は知っている	93	27.3%
知らない	60	17.6%
無回答	0	0.0%
計	341	100.0%

(回答者数 341 人)



【性別】

男女ともに「言葉も内容も知っている」が最も高く、次いで「言葉は知っている」と続いている。「言葉も内容も知っている」では、女性は男性に比べ、14.6ポイント高くなっている。



【年代別】

60歳以上を除く各年代においては「言葉も内容も知っている」、60歳以上は「言葉は知っている」が最も高くなっている。「言葉は知っている」では、50歳代以下の世代と60歳以上では、ポイントに大きな差となっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
言葉も内容も知っている	71.4%	68.1%	64.1%	61.2%	28.1%
言葉は知っている	16.7%	19.4%	17.2%	20.9%	49.0%
知らない	11.9%	12.5%	18.8%	17.9%	22.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答者数(人)	42	72	64	67	96

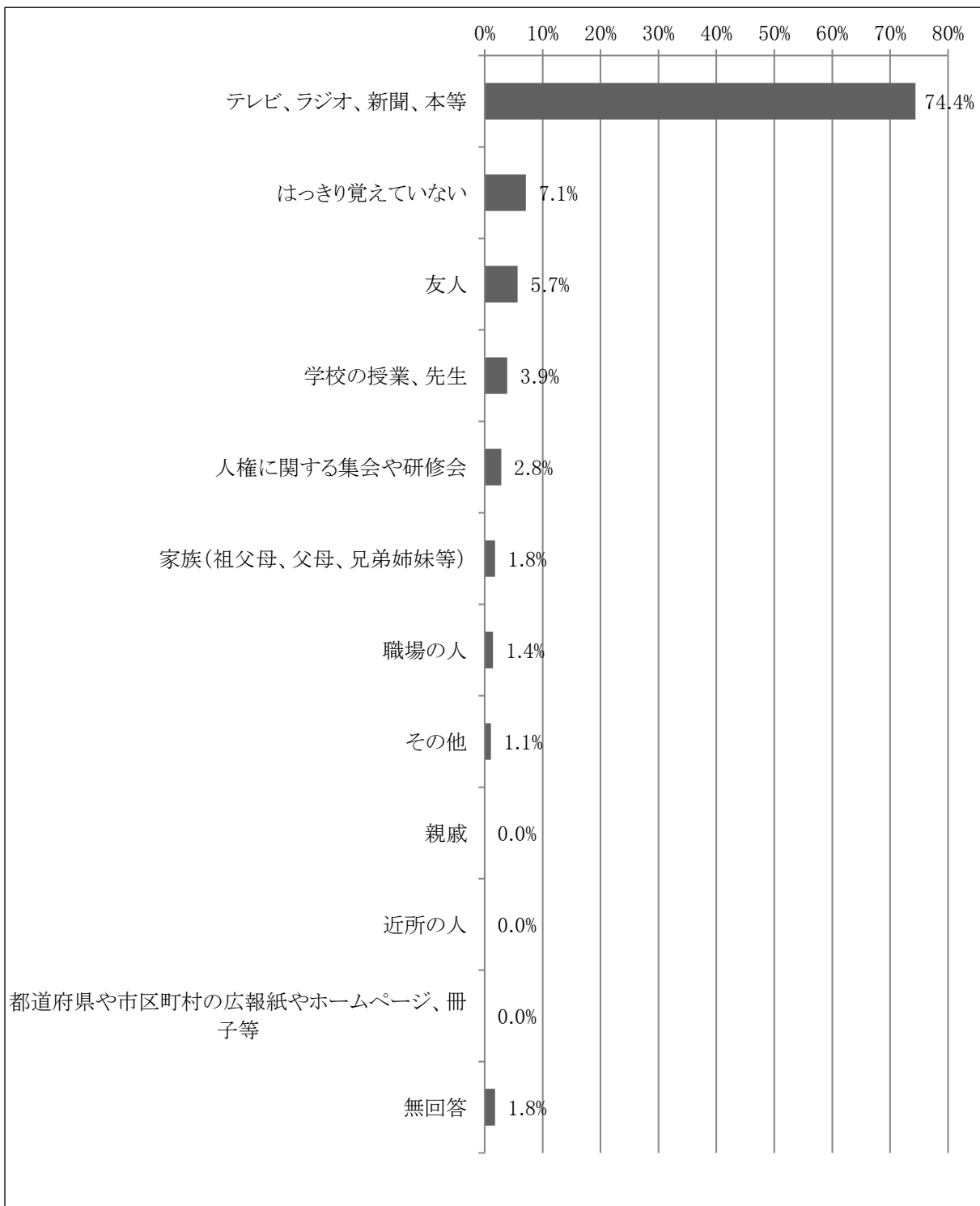
問30-1 あなたが、LGBTなど性的少数者について初めて知ったのは、誰（なに）からですか。（〇は1つ）

【全体】

「テレビ、ラジオ、新聞、本等」が74.4%と最も高く、次いで「はっきり覚えていない」が7.1%、「友人」5.7%と続いている。

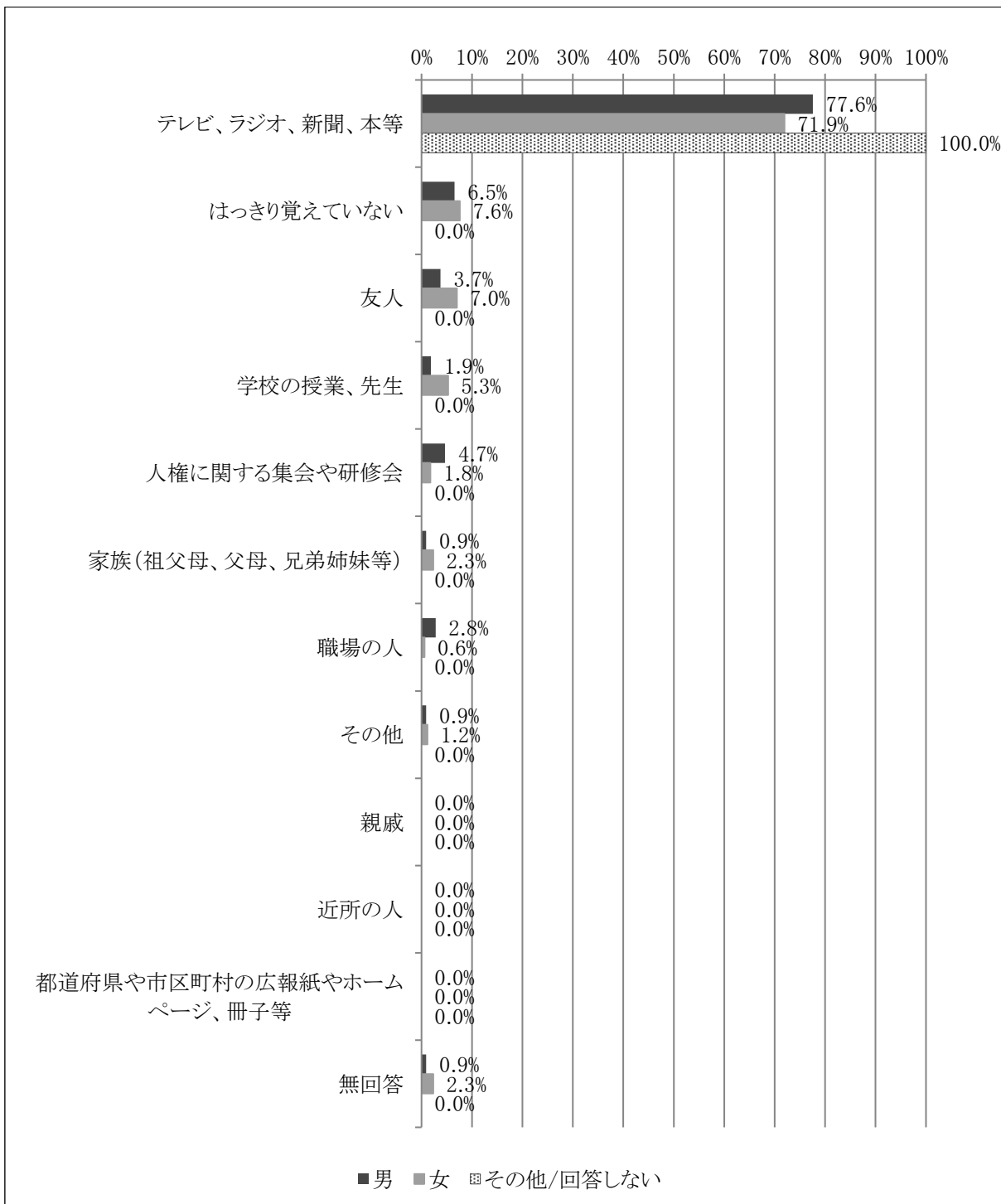
区 分	回答数	構成比
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）	5	1.8%
親戚	0	0.0%
近所の人	0	0.0%
職場の人	4	1.4%
友人	16	5.7%
学校の授業、先生	11	3.9%
テレビ、ラジオ、新聞、本等	209	74.4%
人権に関する集会や研修会	8	2.8%
都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等	0	0.0%
はっきり覚えていない	20	7.1%
その他	3	1.1%
無回答	5	1.8%
計	281	100.0%

(回答者数 281 人)



【性別】

男女ともに「テレビ、ラジオ、新聞、本等」が70%を超え、最も高くなっている。



【年代別】

各年代において「テレビ、ラジオ、新聞、本等」が最も高くなっている。18～29歳では、「はっきり覚えていない」、「友人」、「学校の授業、先生」、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」が他の年代と比べ、ポイントが最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
テレビ、ラジオ、新聞、本等	43.2%	69.8%	82.7%	83.6%	81.1%
はっきり覚えていない	13.5%	9.5%	3.8%	7.3%	4.1%
友人	10.8%	7.9%	7.7%	3.6%	1.4%
学校の授業、先生	18.9%	4.8%	1.9%	0.0%	0.0%
人権に関する集会や研修会	2.7%	1.6%	3.8%	0.0%	5.4%
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）	5.4%	0.0%	0.0%	1.8%	2.7%
職場の人	2.7%	3.2%	0.0%	1.8%	0.0%
その他	2.7%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
親戚	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
近所の人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	5.4%
回答者数（人）	37	63	52	55	74

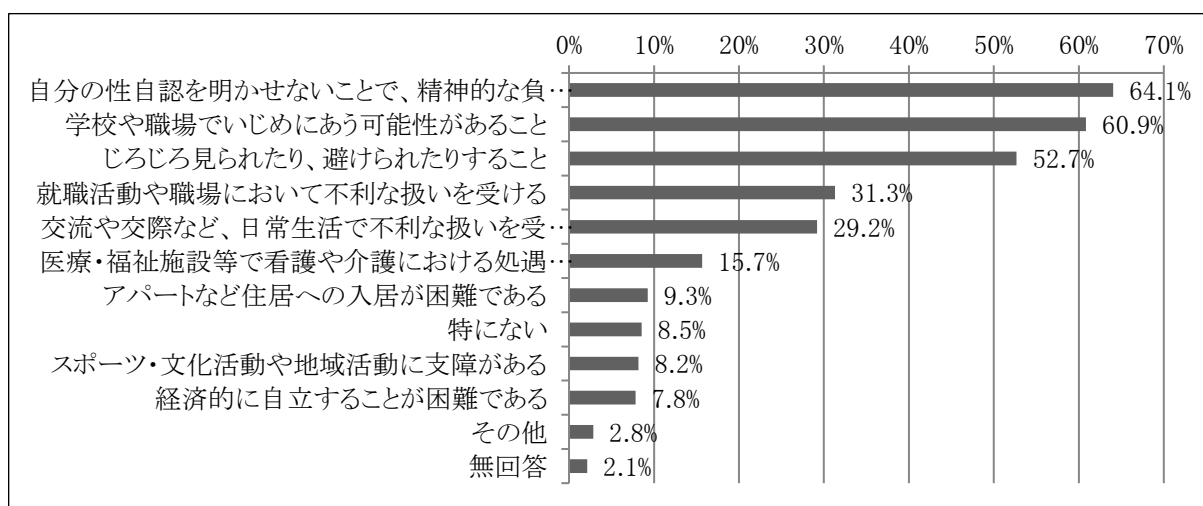
問30-2 あなたは、性的少数者の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」が64.1%と最も高く、次いで「学校や職場でいじめにあう可能性があること」が60.9%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が52.7%と続いている。

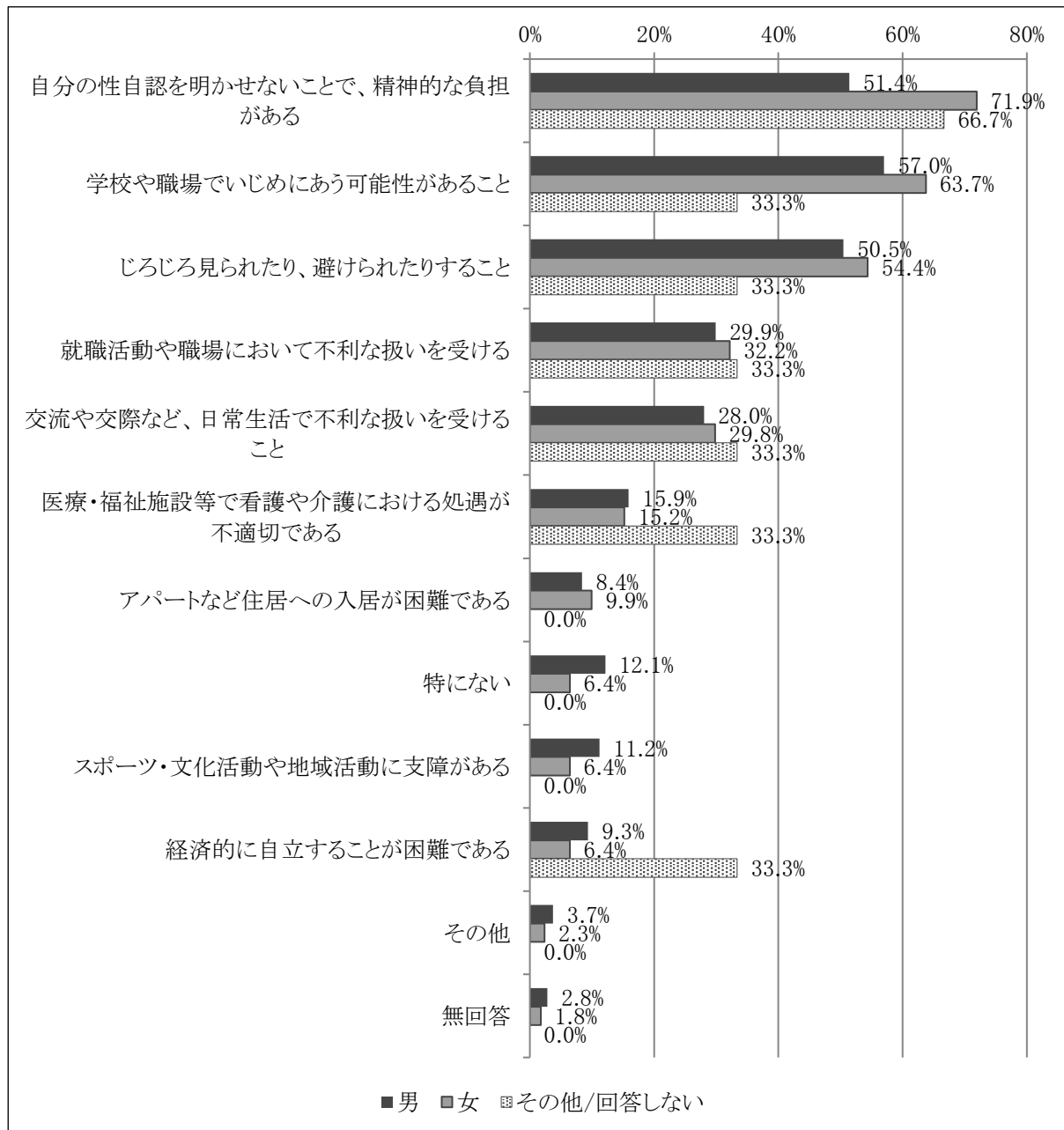
区 分	回答数	構成比
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	88	31.3%
学校や職場でいじめにあう可能性があること	171	60.9%
じろじろ見られたり、避けられたりすること	148	52.7%
スポーツ・文化活動や地域活動に支障がある	23	8.2%
交流や交際など、日常生活で不利な扱いを受けること	82	29.2%
医療・福祉施設等で看護や介護における処遇が不適切である	44	15.7%
自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある	180	64.1%
経済的に自立することが困難である	22	7.8%
アパートなど住居への入居が困難である	26	9.3%
その他	8	2.8%
特にない	24	8.5%
無回答	6	2.1%
計	822	

(回答者数 281 人)



【性別】

男性では「学校や職場でいじめにあう可能性があること」が最も高く、次いで「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」と続いている。女性では「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」が最も高く、次いで「学校や職場でいじめにあう可能性があること」と続いている。「じろじろ見られたり、避けられたりすること」では、男女ともに50%を超えるポイントとなっている。



【年代別】

18～29歳は「じろじろ見られたり、避けられたりすること」、30歳代、50歳代は「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」、40歳代は「学校や職場でいじめにあう可能性があること」が最も高くなっている。60歳以上は、「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」、「学校や職場でいじめにあう可能性があること」が同ポイントで最も高くなっている。「自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある」では30歳代が84.1%と特に高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
自分の性自認を明かせないことで、精神的な負担がある	64.9%	84.1%	63.5%	65.5%	45.9%
学校や職場でいじめにあう可能性があること	62.2%	71.4%	73.1%	56.4%	45.9%
じろじろ見られたり、避けられたりすること	75.7%	57.1%	57.7%	45.5%	39.2%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	29.7%	28.6%	30.8%	36.4%	31.1%
交流や交際など、日常生活で不利な扱いを受けること	32.4%	31.7%	32.7%	25.5%	25.7%
医療・福祉施設等で看護や介護における処遇が不適切である	10.8%	22.2%	15.4%	10.9%	16.2%
アパートなど住居への入居が困難である	13.5%	6.3%	5.8%	10.9%	10.8%
特にない	10.8%	7.9%	1.9%	7.3%	13.5%
スポーツ・文化活動や地域活動に支障がある	5.4%	3.2%	7.7%	10.9%	12.2%
経済的に自立することが困難である	8.1%	4.8%	5.8%	3.6%	14.9%
その他	2.7%	0.0%	3.8%	3.6%	4.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	5.4%
回答者数（人）	37	63	52	55	74

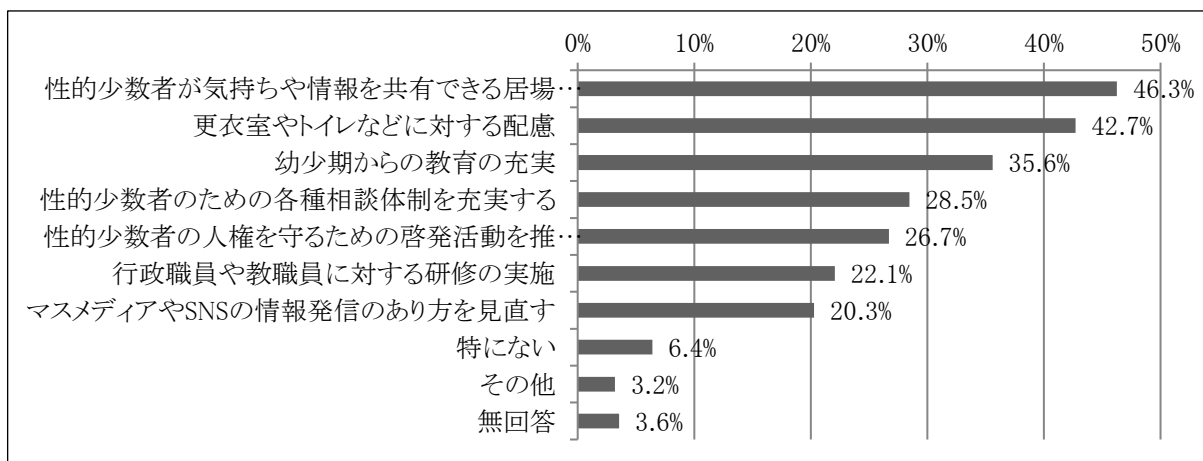
問30-3 あなたは、性的少数者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【全体】

「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が46.3%と最も高く、次いで「更衣室やトイレなどに対する配慮」が42.7%と続いている。

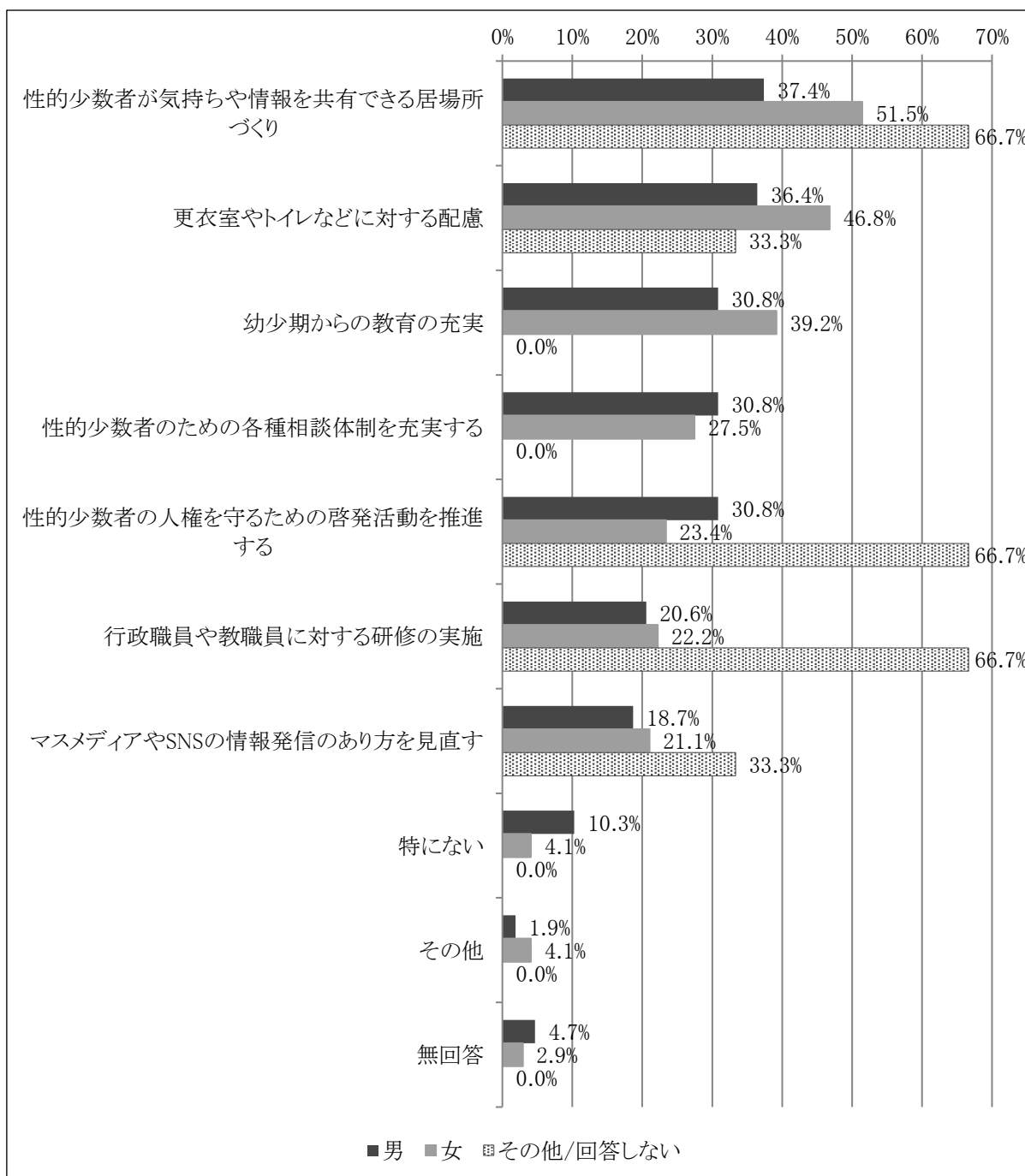
区 分	回答数	構成比
性的少数者の人権を守るための啓発活動を推進する	75	26.7%
性的少数者のための各種相談体制を充実する	80	28.5%
性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり	130	46.3%
行政職員や教職員に対する研修の実施	62	22.1%
幼少期からの教育の充実	100	35.6%
更衣室やトイレなどに対する配慮	120	42.7%
マスメディアやSNSの情報発信のあり方を見直す	57	20.3%
その他	9	3.2%
特にない	18	6.4%
無回答	10	3.6%
計	661	

(回答者数 281 人)



【性別】

男女ともに「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が最も高く、次いで「更衣室やトイレなどに対する配慮」と続いている。「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」では、女性は男性に比べ、14.1ポイント高くなっている。



【年代別】

18～29歳、50歳代は「更衣室やトイレなどに対する配慮」、30歳代は「幼少期からの教育の充実」、40歳代は「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」、60歳以上は「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」、「性的少数者の人権を守るための啓発活動を推進する」が同ポイントで最も高くなっている。

区 分	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり	51.4%	52.4%	50.0%	40.0%	40.5%
更衣室やトイレなどに対する配慮	56.8%	49.2%	48.1%	50.9%	20.3%
幼少期からの教育の充実	35.1%	60.3%	36.5%	30.9%	17.6%
性的少数者のための各種相談体制を充実する	13.5%	22.2%	23.1%	41.8%	35.1%
性的少数者の人権を守るための啓発活動を推進する	24.3%	19.0%	26.9%	18.2%	40.5%
行政職員や教職員に対する研修の実施	29.7%	15.9%	17.3%	21.8%	27.0%
マスメディアやSNSの情報発信のあり方を見直す	13.5%	20.6%	26.9%	23.6%	16.2%
特にない	8.1%	6.3%	1.9%	5.5%	9.5%
その他	2.7%	1.6%	0.0%	5.5%	5.4%
無回答	2.7%	0.0%	5.8%	3.6%	5.4%
回答者数（人）	37	63	52	55	74

12 人権問題についての意見

問3 1 回答していただきました項目以外で、「人権問題」についてのご意見、ご感想等ございましたらお書きください。

【自由記述（抜粋）】

76人の方に記入をいただきました。その中から代表的なものを記載しました。

- ・LGBT について、もっと世の中に広めていくことが大切だと思います。身近な友人でLGBTの人がいて、少し不利だと思う部分があるからです。
- ・突然障がいもちショックを受けていました。理解と優しさに恵まれもっと障がいをわかっていただける、生きやすい社会になってほしいです。
- ・日常生活の中で人権についてあまり考えることがなかったので、改めて考えさせられました。私は職業柄、障害がある方、感染症の方、まれに家族とうまくいっていない子供、高齢者の方と交流します。高齢者の方は自分で運転することが難しく、「家族の人の予定があわないと病院に行けない。」という方もいます。障がいがある方も皆さん、とても優しい方ばかりなので、見た目で判断してほしくないと思っています。子供は親を選べません。一人では生きていけません。なので母子学級でも、子供の人権について話してみたいかと思う。子供のことを思うと、生む前からしっかり向き合っていきたいと思います。また、不妊症の方の人権も考えていただけたらと思います。なかなか相談しづらい内容なので、辛い思いをしている方、沢山いると思います。
- ・男と女など完全に違いがある中の平等は正直難しいと思ってる。ただそれぞれに対する理解や協力が変わるところもあると思う。仕事等は同じように評価はされるべき。子どもの頃から触れるべき問題だと思います。私も含め、無関心が一番多いしそれが一番問題ではないかと思っています。
- ・外国人の人権で気になることは、特に欧米人とアジア人への対応差です。人権問題というとても難しく感じてしまっていますが、人が人として生きる権利です。まずは、一人ひとり人に優しく思いやりを持たなくてはと思います。
- ・このアンケートに回答することで、私自身の人権問題に対する考え方を見つめ直すことになりました。また、日常生活を送るうえではあまり問題にしていなかった差別がこんなにたくさんあるのだということに驚きました。完全な解決という日は来ないかもしれませんが、少しでも、差別による分断をなくすよう、人間の意識を変えていかねばならないと思います。まずは自分が。
- ・人権問題がなくなることは難しいことだとは思いますが少しでも無くなるようになれば良いと思う。自分ではそんなつもりはなくても相手の受け取り方によっては、差別だと感じることもあると思う。一人一人の意識の持ち方、学校や家庭での学び知る機会は沢山作れると思うのでそういったところが充実していけば良いのかなと思う。相談窓口が充実して、プライバシーもしっかり守られる相談しやすい環境も必要だと思う。